

公益社団法人日本地球惑星科学連合 平成 28 年度 第 1 回理事会

開催日時 平成 28 年 5 月 6 日（金）
 13 時 30 分から 16 時 30 分

開催場所 東京大学理学部 3 号館 320 号室
 （東京都文京区本郷 7-3-1）

平成 28 年度第 1 回理事会議事次第

1. 開 会

議事内容

2. 審 議 事 項

第 1 号議案 新入会員承認

第 2 号議案 委員会委員の承認の件

第 3 号議案 総会議事および資料の承認（平成 27 年度決算および事業報告）

第 4 号議案 その他

3. 報 告 事 項

1. 津田代表理事職務報告

2. 川幡理事（ジャーナル担当）職務報告

3. 木村理事（グローバル戦略担当）職務報告

4. 中村理事（顕彰担当）職務報告

5. 古村理事（総務担当）職務報告

6. 北理事 （財務担当）職務報告

7. 浜野理事（大会運営担当）職務報告

8. JpGU2017 年大会準備 TF 活動状況報告

9. 固体地球科学セクション活動報告

10. その他

4. 閉 会

(資 料)

前回議事録

平成 27 年度第 6 回理事会議事録	P. 1-5
-------------------------------	--------

審議事項

第 1 号議案 新入会員承認	P.6-7
第 2 号議案 委員会委員の承認の件	別添
第 3 号議案 総会議事および資料の承認 (平成 27 年度決算および事業報告)	別添
第 4 号議案 その他	

報告事項

1.津田代表理事職務報告	P.8-9
2.川幡理事(ジャーナル担当)職務報告	P.10-29
3.木村理事(グローバル戦略担当)職務報告	P.30
4.中村理事(顕彰担当)職務報告	
5.古村理事(総務担当)職務報告	P.31-32
事業報告	別添
6.北理事(財務担当)職務報告	別添
7.浜野理事(大会運営担当)職務報告	P.33-44
8. JpGU2017 年大会準備 TF 活動状況報告	P.45
9. その他	

その他の資料

規則	別添
--------------	----

公益社団法人日本地球惑星科学連合
平成 27 年度第 6 回理事会議事録

1. 開催日時 平成 28 年 3 月 10 日 (木)
15 時 00 分から 18 時 00 分
2. 開催場所 東京大学理学部 3 号館 3 階 320 号室
(東京都文京区本郷 7-3-1)
3. 出席者 理事数 20 名
出席理事 14 名 (定足数 11 名 会議成立)
出席監事 0 名
オブザーバー 10 名
4. 議長 理事 津田 敏隆
5. 出席役員
理事 津田 敏隆
理事 木村 学
理事 中村 正人
理事 奥村 晃史
理事 高橋 幸弘
理事 瀧上 豊
理事 田中 賢治
理事 西 弘嗣
理事 畠山 正恒
理事 浜野 洋三
理事 日比谷 紀之
理事 古村 孝志
理事 村山 泰啓
理事 渡邊 誠一郎

6. 出席オブザーバー

宇宙惑星科学セクションプレジデント 佐々木 晶
大気水圏科学セクションバイスプレジデント 杉田 倫明
地球人間圏科学セクションプレジデント 氷見山 幸夫
固体地球科学セクションプレジデント 大谷 栄治
固体地球科学セクションバイスプレジデント 西山 忠男
固体地球科学セクション幹事 木村 純一
地球生命科学セクションプレジデント 小林 憲正
広報普及委員長 田近 英一
2017 年大会国内準備タスクフォース議長 末廣 潔
教育検討委員会副委員長 根本泰雄

午後 15 時 00 分、理事の定数に足る出席があったので、会長津田敏隆は議長席に着き、理事会が成立することを宣言した。インターネット電話 Skype を利用し、遠隔地から参加する佐々木晶セクションプレジデントが審議に確実に参加できることを互いに確認した。

7. 審議事項

第 1 号議案 新入会員承認の件（古村孝志理事）

定款第 8 条 2 項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を承認した。

第 2 号議案 平成 28 年度事業計画および収支予算書承認の件（古村理事、西理事）

平成 28 年度事業計画および収支予算書について審議された結果、承認された。

第 3 号議案 2016 年度連合フェローの承認の件（中村正人理事）

2 月 18 日に開催されたフェロー審査委員会にて選出されたフェロー受賞候補者の報告があり、フェロー受賞者が承認された。

第 4 号議案 IAG-IASPEI2017 大会協賛の件（古村孝志理事）

IAG-IASPEI2017 大会協賛の申請について審議し、その結果、承認された。同時に依頼があった委員選出については、役職指定で会長を選出した。

第 5 号議案 IGAC-iCACGP2018 サポートレター承認の件（古村孝志理事）

IGAC-iCACGP2018 サポートレターの申請について審議し、その結果、承認された。

第 6 号議案 25 周年記念行事実行委員会の解散の件（古村孝志理事）

25 周年記念行事が終了したため、実行委員会の解散が認められた。

第 7 号議案 （削除）

第 8 号議案 教員免許更新講習開設の件

教員免許更新制に関わる教員免許状更新講習について審議された。JpGU が実施する意義が確認された。次年度から 2 期（4 年間）に開催し、成果を評価したうえでその後継続するかを判断することとし、次年度の事業実施を目指して、内閣府公益認定等委員会に公益事業変更認定申請を行う。また事業実施に伴う財政的課題および事務局への負担をさらに詳しく検討することになった。

また、次期の高等学校学習指導要領に向けた JpGU(教育検討委員会)から文部科学省に提言を提出することが、教育検討委員会の根本副委員長から提案された。今回の理事会では提言の最終案が認められなかったが、一方、提言が効果を持つためには年度内に提出する必要があるため、「提言・サポートレターの発行に関する申し合わせ」に従って、今後メール審議を行うことになった。

8. 報告事項

(1) 津田敏隆代表理事職務報告

津田代表理事より 2 月 29 日に開催された役員候補者推薦委員会の報告があった。

役員候補者推薦委員会では理事候補者選挙結果に基づき理事候補者 20 名と監事候補者 3 名を定時社員総会へ推薦したことが紹介された。（注：理事会には推薦委からの報告義務はない）

団体会員について、これまでの議論に基づき、定款および規則の変更箇所を議論した。

社員構成では団体会員を除き、選出代議員のみで構成することが議論された。今後、社員（代議員）の定数を検討する必要がある。また、学協会長会議の位置づけと、社員総会と理事会との協調関係についてさらに検討を加える必要がある。この提案を次回の社員総会で紹介し、次々回の社員総会で定款の改訂を目指す。

(2) 川幡穂高理事（ジャーナル担当）職務報告（津田敏隆会長代理報告）

川幡理事が海外出張のため、津田会長が代理でジャーナル出版に関する報告を行った。

2 月 16 日に JSPS にてジャーナル科研費 3 年目の中間評価ヒアリングが実施された。連合からは川幡理事、浅田の 2 名が出席して説明を行なった。50 学会が協力して出版しているということに positive なコメントがあった。また、2 月 8 日に開催された第 6 回編集長会議にて報告された出版論文（31 論文）の被引用率(IF)試算値（3.2～3.5）について説明が

あり、来年度に向けて Thomson Reuter あるいは SCOPUS への登録に全力を傾けるとの報告があった。

(3) 木村学理事（グローバル戦略担当）職務報告

3 月 1 日に開催されたグローバル戦略委員会の報告があった。

2016 年および 2017 年の AGU との Joint について、学生旅費援助の申し込み状況、国際セッションへの投稿状況の報告があった。連合大会の bilingual 化について議論された。

(4) 中村正人理事（顕彰担当）職務報告

フェロー授賞式および西田賞受賞者記念講演を準備中であるという報告があった。

(5) 古村孝志理事（総務担当）職務報告

前回の理事会以降連合が承認した後援等の報告があった。

選挙管理委員会からの二年後の選挙に向けての改善案が提案され、規則の変更については次回以降に検討されることになった。

年会費関連規則の運用上の問題点について古村理事より報告があり、今後、検討することとした。

(6) 西弘嗣理事報告（財務担当）職務報告

地球惑星科学振興西田賞準備資金取扱い規則設置について提案があり、特定費用準備資金として資金化されることが確認された。

(7) 浜野洋三理事（大会運営担当）職務報告

2016 年大会に向けたプログラム編成について西山忠男プログラム委員長から報告があった。

2017 年大会予定については浜野理事より報告があった。

(8) JpGU2017 年大会準備タスクフォース報告（末廣 潔 TF 主査）

前回理事会（＃5 01/28/2016）以降の活動状況と活動方針の報告があった。

2016 年大会の AGU とのジョイントセッションに向けて準備を進めている。

学生旅費援助について、海外および国内からの 2016 年大会参加学生への旅費支援額と応募者数の報告があった。

大会システムのリニューアルについて順調に推移しており 2017 年大会に向けてさらに機能改善を図るとの報告があった。

AGU との連携について現在、AGU 側の 2017 年プログラム委員を選考中と報告された。

それに伴い AGU 本部での会議は 4 月 4 日に予定している。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。(午後 6 時 00 分)
以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席役員は次に記名・押印する。(捺印欄配布時省略)

平成 28 年 3 月 10 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第 6 回理事会

出席理事	津田	敏隆	印
出席理事	木村	学	印
出席理事	中村	正人	印
出席理事	奥村	晃史	印
出席理事	高橋	幸弘	印
出席理事	瀧上	豊	印
出席理事	田中	賢治	印
出席理事	西	弘嗣	印
出席理事	畠山	正恒	印
出席理事	浜野	洋三	印
出席理事	日比谷	紀之	印
出席理事	古村	孝史	印
出席理事	村山	泰啓	印
出席理事	渡邊	誠一郎	印

平成 28 年 3 月 度 入会 会 員

個人 情 報 の 為 非 公 開 と す る

平成27年度会員数推移

正会員										准会員					大会会員					AGI会員				
	入会	変更(+)	退会(-)	喪失(-)	削除(-)	現会員数	入会	変更(-)	退会(-)	喪失(-)	削除(-)	現会員数	入会	退会(-)	削除(-)	現会員数	入会	退会(-)	削除(-)	変更(-)	退会(-)	削除(-)	変更(-)	現会員数
3月末						7610						410				699								0
4月	111	38	3		8	7748	20	25			1	404	40		1	725								0
5月	176	49	2		7	7964	49	27			1	425	79		6	776								0
6月		0		3	46	7904						425			13	763								0
7月	7	3	11			7903	2		1			426				760								0
8月	2	4	3	3		7906	2	2	1			427			354	402								0
9月	14	1	2	0	0	7919	5	1				431	1	1	2	400								0
10月	21		4			7936	2					433			1	399								0
11月	7	1	3			7941	1		1	59		374	1		1	399								0
12月	1	0	0	0	0	7942	0	0	0	0	0	374	0	0	0	399								0
1月	98	3	7			8036	21	3	1			391	102			501	62							62
2月	341	10	33		5	8349	47	10	3			5	420	2		1049	147							209
3月	12	2	337		5	8021	3	1	4			418	13			1061	3							212
	790	111	408	46	36		152	67	11	59	7		786	3	377	44	212	0	0					0

正会員

2016/3/31 8021 名

准会員

418 名

大会会員

1061 名

AGI会員

212 名

変更
大会会員より正会員へ
准会員から正会員へ

団体会員				賛助会員			
入会	退会	現会員数	入会	退会	現会員数	入会	退会
3月末		50			2		
4月		50			2		
5月		50			2		
6月		50			2		
7月		50			2		
8月		50			2		
9月		50			2		
10月		50			2		
11月		50			2		
12月		50			2		
1月		50			2		
2月		50			2		
3月		50			2		
	0	0	50	0	0	0	2

3月末	8719 名
4月	8877 名
5月	9165 名
6月	9095 名
7月	9089 名
8月	8735 名
9月	8750 名
10月	8768 名
11月	8714 名
12月	8715 名
1月	8990 名
2月	10028 名
3月	9712 名

全会員

報告事項：連合第7期選挙について

1. 代議員選挙

選挙日程

公 示 平成27年 8月 4日（月）
候補者受付 8月12日（水）～9月14日（月）
投票期間 9月29日（火）～10月28日（水）
開票、結果報告 11月 2日（月）

定数（選出総数） 100名

宇宙惑星科学：16/大気水圏科学：19/地球人間圏科学：14

固体地球科学：31/地球生命科学：9/地球惑星科学総合：11

投票数 投票総数 1510 名 有権者総数 7936 名 （投票率19.0%）

2. セクションプレジデント選挙

選挙日程（公示時）

公 示 平成27年11月 2日（金）
候補者受付 11月 5日（木）～11月16日（月）
投票期間 11月25日（水）～12月 8日（火）
開票、結果報告 12月14日（月）

結果：全てのセクションにおいて、それぞれ1名ずつ立候補・推薦があり、会員による投票をまたず、セクションプレジデントを決定した。

3. 理事候補者選挙

選挙日程

公 示 平成27年12月14日（月）
候補者受付 12月21日（月）～平成28年1月8日（金）
投票期間 1月29日（金）～2月15日（月）
開 票 2月19日（金） 集計後、投票結果を役員候補者推薦委員会に提出

4. 役員候補者推薦委員会

平成 28 年 2 月 29 日（月）役員候補者推薦委員会会議開催

選挙管理委員会より提出された理事候補者選挙の選挙結果を元に、理事候補者 20 名を選出した。
また監事候補者 3 名を選出した。

役員候補者推薦委員会名簿

会長 津田敏隆 （京都大学）
学協会長会議議長 日比谷紀之 （東京大学）

次期セクションプレジデント

宇宙惑星科学 高橋幸弘 （北海道大学）
大気水圏科学 蒲生俊敬 （東京大学）
地球人間圏科学 春山成子 （三重大学）
固体地球科学 大谷栄治 （東北大学）
地球生命科学 遠藤一佳 （東京大学）

代議員選挙規則

(趣旨)

第1条 この規則は、法人運営基本規程により、理事会において定めるものとされている代議員選挙に関する事項について定めるものとする。

(細則への委任)

第2条 代議員選挙に関する事項は、この規則によるほか、代議員選挙実施細則の定めるところによる。

(立候補等)

第3条 被選挙権を有する正会員は、立候補届出期間内に立候補届出書を選挙管理委員会に提出して、候補者となることができる。

2 被選挙権を有する正会員は、その者の承諾の下に、選挙権を有する1名以上の正会員が、立候補届出期間内に、推薦届出書を選挙管理委員会に提出することによって、候補者となる。

(候補の辞退)

第4条 候補者となった者は、投票開始日の前日から起算して7日前までに、候補者辞退届を選挙管理委員会に提出して、候補者を辞退することができる。

(投票の方法)

第5条 投票は、候補者リストの中から各登録区分の代議員定数の半数(端数切り上げ)以内の者を選び、これを連記する方法により行なう。

(選挙の実施時期)

第6条 代議員選挙の実施時期は、法人運営基本規程第12条2項の規定に基づき、理事会が決定する。

(選挙公示)

第7条 選挙管理委員会は、第6条の実施時期の決定に基づき選挙公示を行う。

(選挙結果の報告)

第8条 選挙管理委員会は、選挙結果を社員総会及び正会員に報告する。

附則

この規則は、この法人の設立の登記の日に遡って施行するものとする。

1. H28 年度実施計画

2. 科研費中間評価報告

H28/2/16(火)に JSPS にてジャーナル科研費 3 年目の中間評価ヒアリングが実施され、評価結果”A“を得た。

取組に対しては非常に高く評価されたが、50 学会の参加にしては出版数が少ない点と、独り立ちに向けての財政面での改善の指摘があった。

3. 論文投稿・出版状況

・論文投稿数(Total:165)

～2014 年: 71 (Editorial-3,Correction-1, Review-21,Research-45,Methodology-1)

2015 年: 75 (Review-20,Research-51, Methodology-3, Editorial-1)

2016 年: 19 (Review-2,Research-16, Preface-1)

・出版論文数(Total:82)

～2014 年: 29 (editorial-3,Correction-1,Review-7,Research -18)

2015 年: 46 (Review-15,Research-31)

2016 年: 7 (Review-2,Research-2,Methodology-1 ,Editorial/Preface-2)

・査読中 : 24 (Review-4,Research-20)

・出版校正中: 10 (Review-4,Research-6)

・reject/withdrawn 済: 49 件

4. H28/4/8 第1回編集長会議開催

・H28 年度から表彰制度を制定、初年度は、Highly Accessed 賞として 3 論文を選定。

また、表彰状書式、選定規程や Authorize について検討した。

・2016 連合大会中開催する全体編集委員会の議案と会議方針を検討。

・2016 連合大会での配布資料について検討し、投稿を促すパンフレットとする。

・SPEPS 企画募集のために、PEPS を PR 出来る根拠資料や応募手順等を整備する。

5. トムソン・ロイター(インパクト・ファクター)申請

2014 年 4 月末の初出版から 2 年を迎え、被引用数も蓄積されていることから、連合大会後にジャーナル評価指標取得のための申請(トムソン・ロイター社の IF(インパクト・ファクター),エルゼビア社の Scopus)を行う。なお、トムソン・ロイター社の ESCI(Emerging Sources Citation Index)という IF の付与されない DB には、一定の評価を得てすでに収録されている。

* 2014/4/22-2015/3/31 出版論文(31 論文)の被引用率試算値(2016/3/31):

3.161(論文誌のみ)～3.484(論文誌+書籍等)

申請団体所在地	〒 113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル4階
フリガナ 申請団体名称	コウエキシヤダンホウジン ニホンチキョウワクセイカガクレン 公益社団法人 日本地球惑星科学連合
フリガナ 代表者 職名・氏名	カイチョウ ツダ トシタカ 会長 津田 敏隆 印

下記刊行物の刊行事業について、別紙調達に関するルール・著作権ポリシーの整備状況(様式A-52-8別紙)を添えて科学研究費助成事業(科学研究費補助金)(研究成果公開促進費)「国際情報発信強化」の交付を申請します。

課題番号	補助金(交付予定)額	応募区分(該当する区分の左の欄に○をすること。)					
254001	37,300,000 円		国際情報 発信強化(A)		国際情報 発信強化(B)	○	オープンアクセス 刊行支援
種別(該当する区分の左の欄に○をすること。)							
○	種別Ⅰ (英文率100%)		種別Ⅱ (英文率100%未満)				
取組の 名 称	地球惑星科学に関する学術研究のオープンアクセス電子媒体刊行による国際情報発信の取組						
学術刊行物の 名 称	Progress in Earth and Planetary Science						
取組の 目的・ 内容	公益社団法人日本地球惑星科学連合(JpGU)は、参加50学協会連合体と連携して、「オープン・アクセス(OA)電子ジャーナル、Progress in Earth and Planetary Science」を出版する。H26年4月末に本ジャーナルの最初の論文が出版されて以降、H27年度末までに82論文が出版された。JpGUはAGU(American Geophysical Union: 米国地球物理連合)、EGU(European Geosciences Union: ヨーロッパ地球科学連合)、AOGS(Asia Oceania Geosciences Society: アジア・オセアニア地球科学協会)とも協定を結んで、協力関係を築いてきたが、ジャーナルの発行は、JpGUが世界の重要なプレーヤーとして役割を担える発展の重要なステップとなる。EGUとAGUの年会では、JpGUの活動の一環として、本ジャーナルを世界に売り出すべく広報活動などを行い、最終的にジャーナルの発展のためのさまざまな施策を実行する。本ジャーナルは世界五大陸に拠点をもち海外流通を得意とする世界的大手出版社のSpringerから出版し、早い段階でこの分野で世界のトップクラスのジャーナルの一角を担い、日本学術振興会の補助なしに「独り立ち」できるまで成長したいと計画している。 本事業は、ジャーナル企画経営委員会とジャーナル編集委員会の2つの委員会により公正に運営されるとともに、理事会の活動とも密接にリンクし、国際的に一流雑誌と認知されるよう努力する。 JpGUが運営する本ジャーナルは、①地球惑星科学の知識などを整理したレビュー(総論)、②連合大会の多角的・統合的な成果の発表の中から優秀な発表を文字媒体としたもの、③海外の質の高い原稿、等の特徴ある論文を掲載し、これらの論文の投稿促進を図るために、連合大会の年会でのセッション・コンビーナーによる投稿論文推薦、ジャーナル国際特別セッションの開催と、それに伴う基調・著名講演者の招聘、ジャーナル国際特別シンポジウムの開催支援と、それに伴う基調・著名講演者の招聘等を今年度も継続して実施する。また、特別シンポジウムのテーマを核として一般投稿者からの投稿も受け付ける開放型の特集号の企画を引き続き推進する。 さらに、今年度は出版開始から2年を経過し、ある程度の実績が蓄積されたことから、ジャーナル評価指標取得のための申請(トムソン・ロイター社のIF(インパクト・ファクター)、エルゼビア社のScopus)を行う。また、新たにDataPublishingの出版に取組むとともに、JpGU参加学協会へのジャーナルの周知にも取組み、論文の投稿及び引用促進を図る。また、EPS誌との共同出版に向けて共同歩調を検討して行く。 数値目標については、レビュー論文数が総論文数の20%以上、地球惑星科学の分野でメジャーなジャーナルと同等クラスのIF試算値2.5以上を目指す。H28年度の出版論文数は70本程度を予定している。						

平成28年度所要経費	37,300,000	円
内 訳		
(1) 当該学術刊行物にかかる電子出版関連経費	8,000,000	円
(2) 当該学術刊行物の実務編集者の人件費	7,600,000	円
(3) 当該学術刊行物の編集委員の補助業務人件費	1,200,000	円
(4) 当該学術刊行物の実務関係の消耗品・借料費	1,500,000	円
(5) 編集委員会開催に係る旅費・謝金・会議費	2,700,000	円
(6) 編集会開催に係る海外委員の旅費	1,500,000	円
(7) ジャーナル運営委員会開催に係る旅費・会議費	300,000	円
(8) 当該学術刊行物の査読に対する謝金等	200,000	円
(9) 当該学術刊行物の欧文校閲費用	3,400,000	円
(10) 特別セッション推進の加速経費	3,000,000	円
(11) 情報発信・引用促進の加速費	2,500,000	円
(12) 広告・宣伝費	3,500,000	円
(13) 当該学術刊行物の実務関係の備品費	0	円
(14) 英文校正委託費	200,000	円
(15) 学術情報提供サービスに係る経費	1,700,000	円
(16) 弁護士委託業務に係る経費	0	円
(17)		円
(18)		円
(19)		円
(20)		円
(21)		円
(22)		円
(23)		円
(24)		円
(25)		円
(26)		円
(27)		円
(28)		円

科学研究費助成事業（国際情報発信強化）中間評価

課題番号	254001	事業期間	平成 25 年度～平成 29 年度
取組の名称		団体名称	代表者名 (職名・氏名)
地球惑星科学に関する学術研究のオープンアクセス電子媒体刊行による国際情報発信の取組		公益社団法人 日本地球惑星科学連合	会長 津田 敏隆
学術刊行物の名称			(略称)
Progress in Earth and Planetary Science			PEPS

【平成 27 年度 中間評価結果】

評価	評価基準
A +	当初計画を上回っており、かつ改善した評価指標による目標達成が見込まれる。
○ A	当初計画が達成されつつあり、今後の目標達成が見込まれる。
A -	当初計画より一部遅れは見られるが、概ね今後の目標達成が見込まれる。
B	今後の目標達成の見込みはあるが、経費の使用に問題があるため、経費の減額が適当である。
C	今後の目標達成が見込まれないため、取組の中止が適当である。
(評価意見)	
50もの地球科学関連学会が連合して英文誌を立ち上げる意欲的かつ独創性のある新企画は順調に推移しており、高く評価できる。国際的にも好評でインパクトファクターが期待どおりのレベルにあり、データ出版を予定しているなど、好ましい状況にある。 しかし、多くの学会が関与している割には出版論文数がまだ少なく、広報の効果が十分でないように見受けられる。完全オープンアクセス化を目指しているが、諸経費の継続性がやや不安である。日（亜）欧米三極でのハイレベルの論文誌間で切磋琢磨できる環境を整えるため、財務面を大きく改善することを期待する。	

※中間評価団体のみ通知するコメント

PEPS 投稿・出版・被引用状況

■出版状況

(2016/4/26)

	2014				2015				2016				Total			
	Review	Resarch	Methodology	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total
1. Space and planetary sciences	2 8.0%	1 4.0%	0 0.0%	3 12.0%	6 13.0%	5 10.9%	0 0.0%	11 23.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 10.5%	6 7.9%	0 0.0%	14 18.4%
2. Atmospheric and hydrospheric sciences	2 8.0%	5 20.0%	0 0.0%	7 28.0%	2 4.3%	3 6.5%	0 0.0%	5 10.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 5.3%	8 10.5%	0 0.0%	12 15.8%
3. Human geosciences	0 0.0%	2 8.0%	0 0.0%	2 8.0%	0 0.0%	2 4.3%	0 0.0%	2 4.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 5.3%	0 0.0%	4 5.3%
4. Solid earth sciences	2 8.0%	9 36.0%	0 0.0%	11 44.0%	4 8.7%	16 34.8%	0 0.0%	20 43.5%	0 0.0%	1 20.0%	1 20.0%	2 40.0%	6 7.9%	26 34.2%	1 1.3%	33 43.4%
5. Biogeosciences	1 4.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.0%	1 2.2%	3 6.5%	0 0.0%	4 8.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.6%	3 3.9%	0 0.0%	5 6.6%
6. Interdisciplinary research	0 0.0%	1 4.0%	0 0.0%	1 4.0%	2 4.3%	2 4.3%	0 0.0%	4 8.7%	2 40.0%	1 20.0%	0 0.0%	3 60.0%	4 5.3%	4 5.3%	0 0.0%	8 10.5%
Subtotal	7 28.0%	18 72.0%	0 0.0%	25 100%	15 32.6%	31 67.4%	0 0.0%	46 100%	2 40.0%	2 40.0%	1 20.0%	5 100%	24 31.6%	51 67.1%	1 1.3%	76 100%
Editorial/Preface	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	5
Correction	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Total				29				46				7				82

■投稿状況

(2016/4/26)

	～2014				2015				2016				Total			
	Review	Resarch	Methodology	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total
1. Space and planetary sciences	8	9	0	17	3	8	1	12	1	1	0	2	12	18	1	31
	11.9%	13.4%	0.0%	25.4%	4.1%	10.8%	1.4%	16.2%	5.6%	5.6%	0.0%	11.1%	7.5%	11.3%	0.6%	19.5%
2. Atmospheric and hydrospheric sciences	5	7	0	12	3	8	0	11	0	2	0	2	8	17	0	25
	7.5%	10.4%	0.0%	17.9%	4.1%	10.8%	0.0%	14.9%	0.0%	11.1%	0.0%	11.1%	5.0%	10.7%	0.0%	15.7%
3. Human geosciences	1	4	0	5	0	4	0	4	0	1	0	1	1	9	0	10
	1.5%	6.0%	0.0%	7.5%	0.0%	5.4%	0.0%	5.4%	0.0%	5.6%	0.0%	5.6%	0.6%	5.7%	0.0%	6.3%
4. Solid earth sciences	3	17	1	21	10	25	2	37	1	8	0	9	14	50	3	67
	4.5%	25.4%	1.5%	31.3%	13.5%	33.8%	2.7%	50.0%	5.6%	44.4%	0.0%	50.0%	8.8%	31.4%	1.9%	42.1%
5. Biogeosciences	2	3	0	5	0	3	0	3	0	2	0	2	2	8	0	10
	3.0%	4.5%	0.0%	7.5%	0.0%	4.1%	0.0%	4.1%	0.0%	11.1%	0.0%	11.1%	1.3%	5.0%	0.0%	6.3%
6. Interdisciplinary research	2	5	0	7	4	3	0	7	0	2	0	2	6	10	0	16
	3.0%	7.5%	0.0%	10.4%	5.4%	4.1%	0.0%	9.5%	0.0%	11.1%	0.0%	11.1%	3.8%	6.3%	0.0%	10.1%
Subtotal	21	45	1	67	20	51	3	74	2	16	0	18	43	112	4	159
	31.3%	67.2%	1.5%	100%	27.0%	68.9%	4.1%	100%	11.1%	88.9%	0.0%	100%	27.0%	70.4%	2.5%	100%
Editorial/Preface	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	5
Correction	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Total				71				75				19				165

■編集状況

(2016/04/26 現在)

	Review	Resarch	Methodology /Debate	Subtotal	Editorial + Correction Preface	Total
Published	24	51	1	76	6	82
	15.1%	32.1%	0.6%	47.8%	-	-
Accepted and tranlerred for publication	4	6	0	10	0	10
	2.5%	3.8%	0.0%	6.3%	-	-
Under review	4	20	0	24	-	24
	2.5%	12.6%	0.0%	15.1%	-	-
Rejected/Withdrawn	10	36	3	49	0	49
	6.3%	22.6%	1.9%	30.8%	-	-
Total	42	113	4	159	6	165
	26.4%	71.1%	2.5%	100.0%	-	-

PEPS (Progress in Earth and Planetary Science)

2016/3/31現在

	出版論文数	2015/4/1～2016/3/31				論文誌からの被引用率 試算値	WoS探録誌からの 被引用率試算値	論文誌と書籍等からの 被引用率試算値
		Journals	(WoS探録誌)	Books	Total			
2014/4/22～2015/3/31出版論文(12ヶ月) (Editorial 4編を含まない)	31	98	(75)	10	108	3.161	2.419	3.484

(B)

(C)

(D)

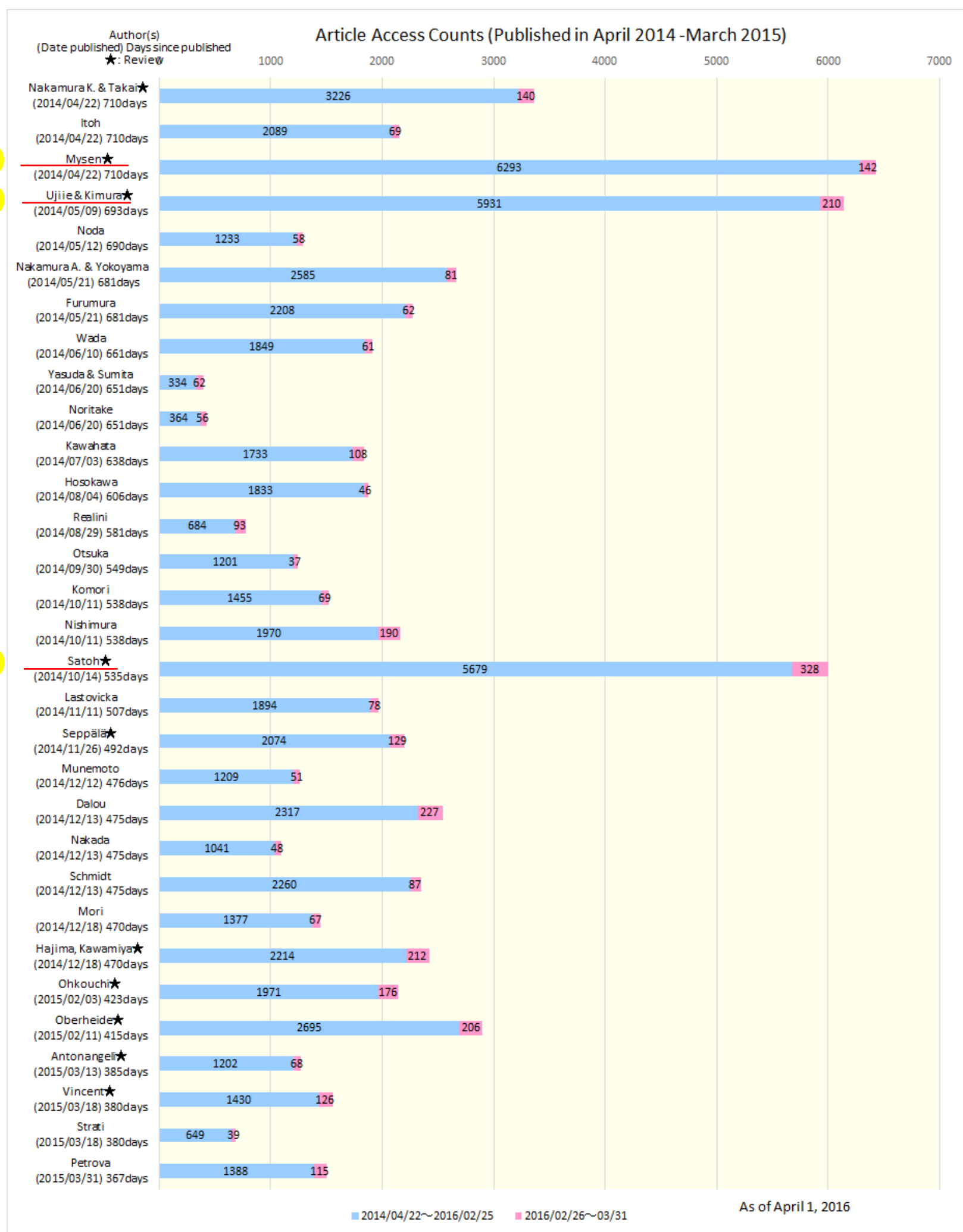
試算計算式
=(B)/(A)

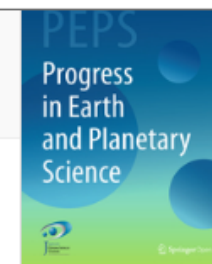
試算計算式
=(C)/(A)

試算計算式
=(D)/(A)

PEPS表彰制度

表彰	対象	選定規定	開始時期/表彰方法
Most accessed賞	最もアクセスされた論文上位3論文を表彰する	原則として、表彰年度の前々年および前年に出版された論文を対象とし、表彰年度の前年末日までに最もアクセスされた論文を表彰する。なお、同一論文の複数回表彰は行わない。編集長会議で選定し、ジャーナル企画経営委員会承認を得て、理事会・編集委員会に報告する。	H28年度開始 該当論文の全著者に表彰状を送付する
Most cited賞	最も引用された論文上位3論文を表彰する	別途選定規程作成	H29年度開始予定
最優秀論文賞(案)	PEPSから出版された論文の中から優秀な論文を表彰する	別途選定規程作成	
Excellent /Best Reviewer賞(案)	優れた査読者を表彰する	別途選定規程作成	





Articles

[Recent](#)
[Most accessed](#)
[Most accessed articles RSS](#)

Review

Water-melt interaction in hydrous magmatic systems at high temperature and pressure

Bjorn Mysen

Published on: 22 April 2014

Review

Earthquake faulting in subduction zones: insights from fault rocks in accretionary prisms

Kohtaro Ujiie and Gaku Kimura

Published on: 9 May 2014

Review

The Non-hydrostatic Icosahedral Atmospheric Model: description and development

Masaki Satoh, Hirofumi Tomita, Hisashi Yashiro, Hiroaki Miura, Chihiro Kodama, Tatsuya Seiki, Akira T Noda, Yohei Yamada, Daisuke Goto, Masahiro Sawada, Takemasa Miyoshi, Yosuke Niwa, Masayuki Hara, Tomoki Ohno, Shin-ichi Iga, Takashi Arakawa...

Published on: 14 October 2014

Review

Theoretical constraints of physical and chemical properties of hydrothermal fluids on variations in chemolithotrophic microbial communities in seafloor hydrothermal systems

Aims and scope

Progress in Earth and Planetary Science (PEPS), a peer-reviewed open access e-journal, was launched by the Japan Geoscience Union (JpGU) in 2014. This international journal is devoted to high-quality of original articles and reviews in the research fields of space and planetary sciences, atmospheric and hydrospheric sciences, human geosciences, solid earth sciences, and biogeosciences. Especially, PEPS promotes to publish excellent review articles and also welcomes articles with additional files to enrich the content, including videos, animations, and large original data files.

Society affiliation

Progress in Earth and Planetary Science is affiliated with the [Japan Geoscience Union](#).

More information, including how to submit a paper and templates, is available at the Japan Geoscience Union's [PEPS website](#).

[Submit a manuscript](#)
[Editorial Board](#)
[Sign up to article alerts](#)

Associated Society



is associated with the
[Japan Geoscience Union](#).

ISSN: 2197-4284



Cited count (including journals, books and others)



Certificate of Award

Progress in Earth and Planetary Science

The Most Accessed Paper Award 2016



Presented to

Bjorn O. Mysen

“Water-melt interaction in hydrous magmatic systems
at high temperature and pressure”

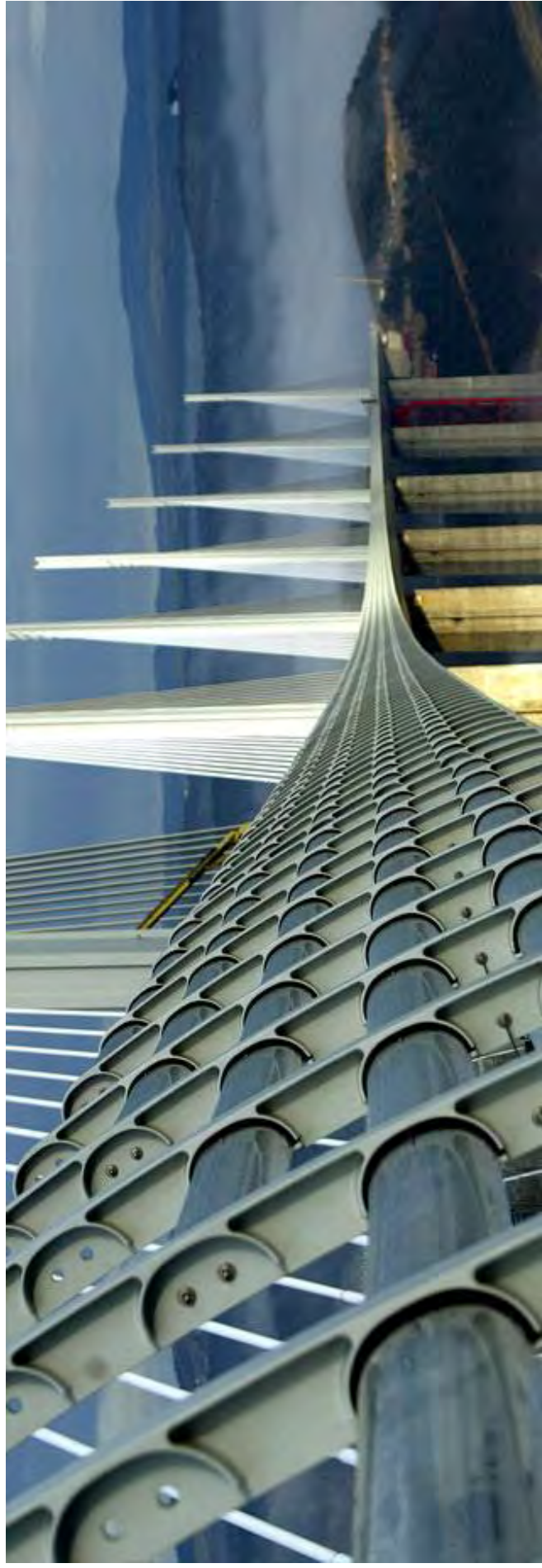
Published: 22 April 2014, Progress in Earth and Planetary Science 2014, 1:4 DOI: 10.1186/2197-4284-1-4

Awarded on This 22nd Day of May

Yasufumi Iryu
General Chief Editor

Kiyoshi Kuramoto, Masaki Satoh,
Jun Matsumoto, Shoichi Yoshioka,
Hodaka Kawahata and Ryuji Tada
Science Section Chief Editors

Toshitaka Tsuda
President, JpGU



"国際発信力の強化に向けて、コアジャーナルの意味を知る"
～Web of Scienceとそのコンテンツ拡充の方向性～

トムソン・ロイター
学術情報ソリューション
波多野 薫

Tel 03-4589-2384

kaoru.hatano@thomsonreuters.com

It's New

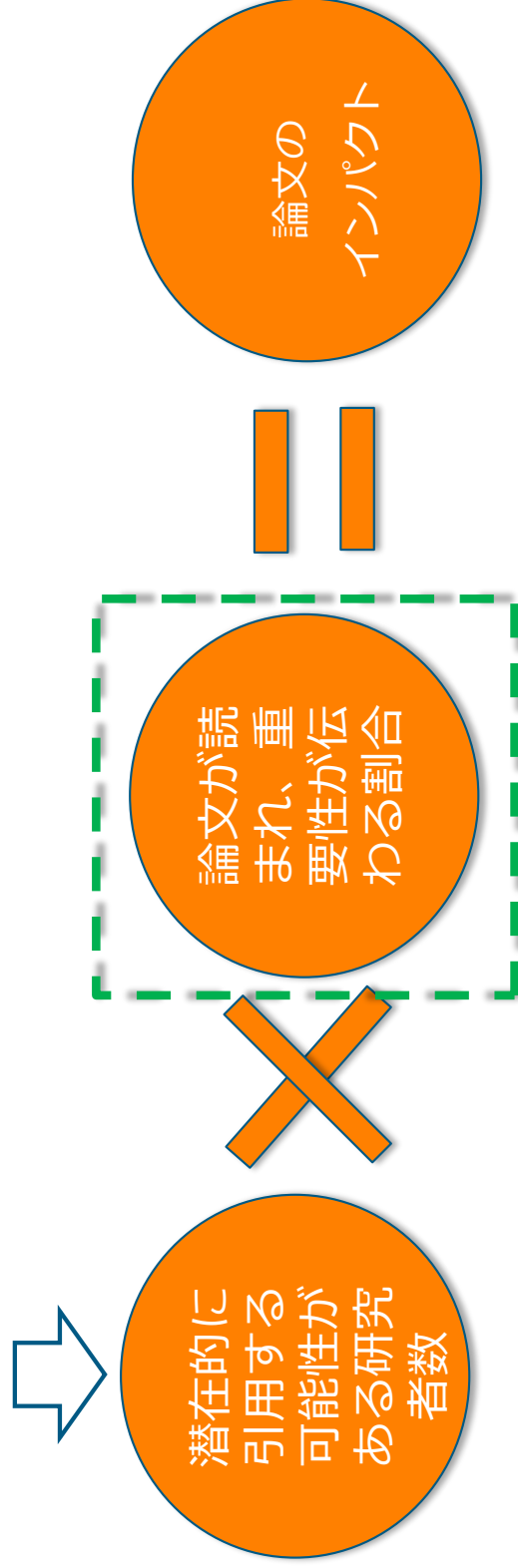
2015年11月



THOMSON REUTERS

卵と鶏問題をどのように解決するか？
国際競争力/発信力を強化するために

良質な論文を集めることはもちろん



効果的な情報発信 が必須

研究者は全ての論文を読むことはできない

200+

研究者が1年間に読む
平均文献数

0.4%

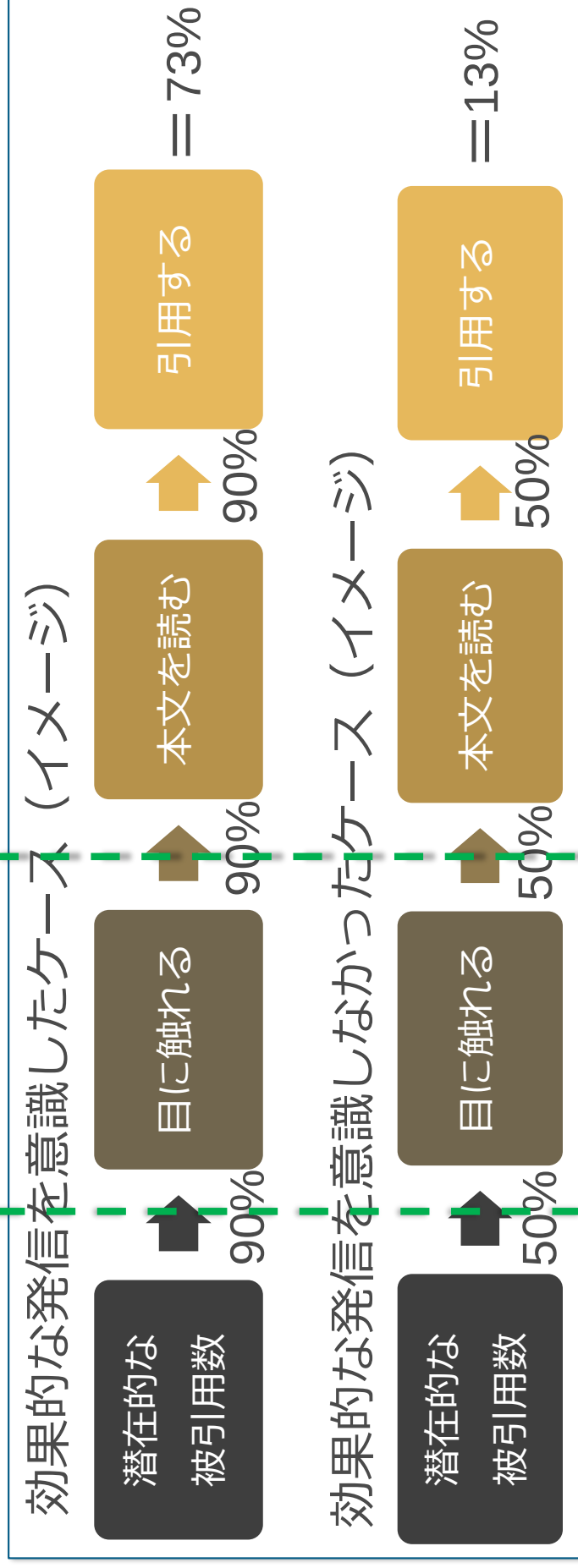
科学者が1年間に読むことが
可能なジャーナルの割合 (平均)



THOMSON REUTERS

Tenopir C. What Scientists Really Need. In: American Association for the Advancement of Science Meeting (AAAS). Washington D.C.; 2005.

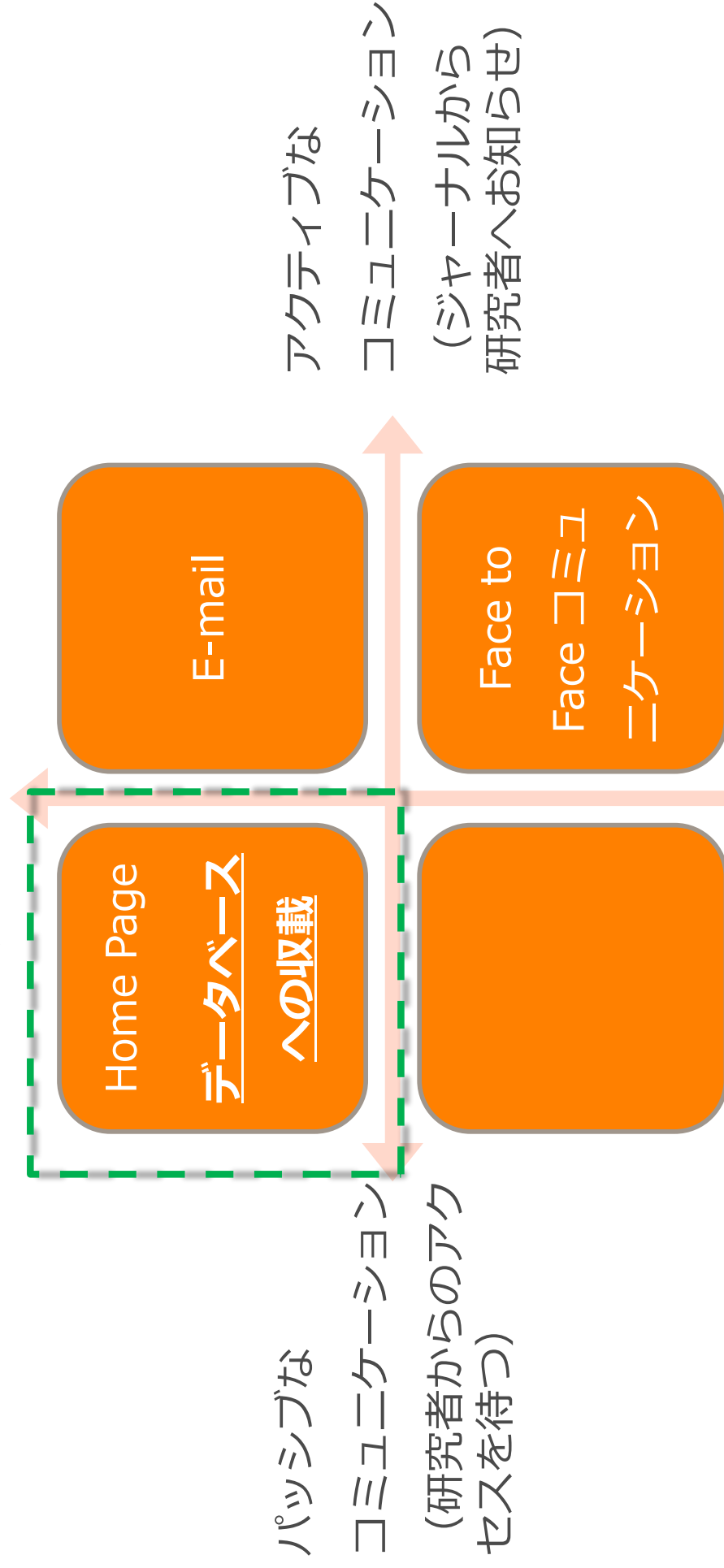
論文・ジャーナルを効果的に発信しない？ 認知のプロセスに分解して考える。



- 全体として、論文・ジャーナルのインパクトに大きな影響を与える可能性がある。

より多くの研究者の目に触れるために とりうるアプローチ

不特定多数にアプローチできる



様々なDBに搭載し、研究者の目に触れる機会を増やすことが重要



THOMSON REUTERS

Eugene Garfield: Inventor of Citation Indexes for Science (1955) and Founder of ISI

- Eugene Garfield, “Citation Indexes for Science: A New Dimension in Documentation through Association of Ideas,” *Science*, 122 (3159): 108-111, 1955.
- Precursor description of what came to be the *Science Citation Index*, produced in 1963.
- 2014 is the 50th anniversary of the first citation index for science (*Genetics Citation Index*). The *SCI* (now Thomson Reuters *Web of Science Core Collection*) first appeared commercially in 1964.



Site

Client

proxystylesheet

Output

Search

allAreas

JOURNAL SEARCH

Emerging Sources Citation Index - JOURNAL LIST

Total journals: 3199

[A](#) [B](#) [C](#) [D](#) [E](#) [F](#) [G](#) [H](#) [I](#) [J](#) [K](#) [L](#) [M](#) [N](#) [O](#) [P](#) [Q](#) [R](#) [S](#) [T](#) [U](#) [V](#) [W](#) [X](#) [Y](#) [Z](#)

"P" Journals 121-130 (of 153)[◀](#) [<](#) [>](#) [▶](#) [FORMAT FOR PRINT A-Z](#)

- **PROCEEDINGS OF THE VLDB ENDOWMENT**

Semiannual ISSN: 2150-8097

ASSOC COMPUTING MACHINERY, 2 PENN PLAZA, STE 701, NEW YORK, USA, NY, 10121-0701

[Coverage](#)

- [Emerging Sources Citation Index](#)

- **PROCESOS HISTORICOS-REVISTA SEMESTRAL DE HISTORIA ARTE Y CIENCIAS SOCIALES**

Semiannual ISSN: 1690-4818

UNIV ANDES, AV 4 ENTRE CALLES 18 Y 19, EDIF GENERAL MASINI, PISO 3, OF A-3, MERIDA, VENEZUELA, 5101

[Coverage](#)

- [Emerging Sources Citation Index](#)

- **PROCESSES**

Quarterly ISSN: 2227-9717

MDPI AG, POSTFACH, BASEL, SWITZERLAND, CH-4005

[Coverage](#)

- [Emerging Sources Citation Index](#)

- **PRODUCTION AND MANUFACTURING RESEARCH-AN OPEN ACCESS JOURNAL**

Annual ISSN: ****.****

TAYLOR & FRANCIS LTD, 4 PARK SQUARE, MILTON PARK, ABINGDON, ENGLAND, OXON, OX14 4RN

[Coverage](#)

- [Emerging Sources Citation Index](#)

- **PROFESORADO-REVISTA DE CURRICULUM Y FORMACION DE PROFESORADO**

Tri-annual ISSN: 1138-414X

UNIV GRANADA, GRUPO INVESTIGACION FORCE, FUENTENUEVA S-N, GRANADA, SPAIN,

18071

[Coverage](#)◦ [Emerging Sources Citation Index](#)• **PROGRESS IN BIOMATERIALS**

Quarterly ISSN: 2194-0509

SPRINGER HEIDELBERG, TIERGARTENSTRASSE 17, HEIDELBERG, GERMANY, D-69121

[Coverage](#)◦ [Emerging Sources Citation Index](#)• **PROGRESS IN EARTH AND PLANETARY SCIENCE**

Irregular ISSN: 2197-4284

SPRINGER, 233 SPRING ST, NEW YORK, USA, NY, 10013

[Coverage](#)◦ [Emerging Sources Citation Index](#)• **PROGRESS IN ORTHODONTICS**

Irregular ISSN: 2196-1042

SPRINGER HEIDELBERG, TIERGARTENSTRASSE 17, HEIDELBERG, GERMANY, D-69121

[Coverage](#)◦ [Emerging Sources Citation Index](#)• **PROLEGOMENOS-DERECHOS Y VALORES**

Irregular ISSN: 0121-182X

UNIV MILITAR NUEVA GRANADA, FAC CIENCIAS BASICAS, SEDE BOGOTA CRA 11 N 101-80,
BOGOTA, COLOMBIA, 00000[Coverage](#)◦ [Emerging Sources Citation Index](#)• **PROMETHEUS**

Quarterly ISSN: 0810-9028

ROUTLEDGE JOURNALS, TAYLOR & FRANCIS LTD, 4 PARK SQUARE, MILTON PARK,
ABINGDON, ENGLAND, OXFORDSHIRE, OX14 4RN[Coverage](#)◦ [Emerging Sources Citation Index](#)

"P" Journals 121-130 (of 153)

FORMAT FOR PRINT A-Z

[A](#) [B](#) [C](#) [D](#) [E](#) [F](#) [G](#) [H](#) [I](#) [J](#) [K](#) [L](#) [M](#) [N](#) [O](#) [P](#) [Q](#) [R](#) [S](#) [T](#) [U](#) [V](#) [W](#) [X](#) [Y](#) [Z](#)

© 2016 Thomson Reuters

Emerging Sources Citation Index

Emerging Sources Citation Indexは、地域的に重要なジャーナルや新しい、注目分野のジャーナルをカバーする、Web of Science Core Collectionのファイルです。国際的に影響力の大きいジャーナルを網羅した主要ファイル(※)に追加することで、高品質な査読ジャーナルからなるWeb of Science Core Collectionの世界が広がります。

※ Science Citation Index® Expanded、Social Sciences Citation IndexおよびArts and Humanities Citation Index

Web of Science Core Collectionの新たなファイルとして順次拡充
地域において重要なジャーナル

新しい、注目分野のジャーナル 等

より厳しい選定基準を持つSCIE、SSCI、AHCIとは別のコンテンツセットとして構築

特定の地域や分野において重要なジャーナルを収録し、多様な文脈における研究分析を可能に

ESCIの基本的な収録基準

ESCIの収録誌選定にあたっては、Web of Science Core Collectionの選定プロセスに沿い、最低限、以下の基準を満たしていることを条件としています。

内容に独自性があり、学術コミュニティの関心に沿った査読誌であること

論文のメタデータ(タイトル、抄録、引用文献等)が英語であること

コンテンツが電子的に入手可能であること(PDF、XML等)

出版倫理の基準に則っていること



ESCIの索引方針

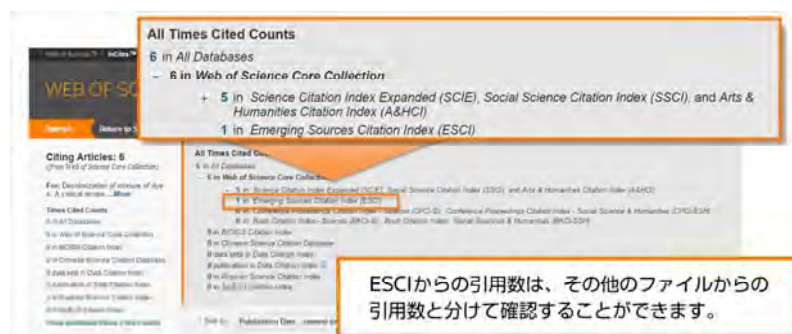
ESCIの収録にあたっては、Web of Science Core Collectionの厳格な索引方針を堅持しています。

Cover-to-cover

全ての著者と著者所属機関

引用文献

被引用数



※ESCIに収録されるジャーナルには、インパクトファクターはつきません。インパクトファクターは、これまでどおり、SCIEとSSCIに収録されたジャーナルに付与されます。

ご検討中のお客様

- [製品・サービスのお問合せ](#)
- [ファクトシート](#)

ご利用中のお客様

- [製品ログイン](#)
- [製品の技術的なお問合せ](#)
- [ビデオガイド](#)

この製品は **Web of Science** の一部です

- [Arts Humanities Citation Index](#)
- [Biological Abstracts](#)
- [Biosis Citation Index](#)
- [BIOSIS Previews](#)
- [Book Citation Index](#)
- [CAB Abstracts](#)
- [Chinese Science Citation Database](#)
- [Conference Proceedings Citation Index](#)
- [Current Chemical Reactions](#)
- [Current Contents Connect](#)
- [Data Citation Index](#)
- [Derwent Innovations Index](#)
- [Emerging Sources Citation Index](#)
- [FSTA Food Science Technology Abstracts](#)
- [Global Health](#)
- [Index Chemicus](#)
- [Inspec](#)
- [MEDLINE](#)
- [SciELO Citation Index](#)
- [Science Citation Index Expanded](#)
- [Social Sciences Citation Index](#)
- [Web of Science Core Collection](#)
- [Zoological Record](#)

© 2016 Thomson Reuters

loading

PEPS (Progress in Earth and Planetary Science)

	出版論文数	2015/4/1 ~ 2016/3/31			論文誌からの被引用率 試算値	WoS採録誌からの 被引用率試算値	2016/3/31現在 論文誌と書籍等からの 被引用率試算値
		Journals	(WoS採録誌) Books	Total			
2014/4/22 ~ 2015/3/31出版論文 (12ヶ月) (Editorial 4編を含まない)	31	98	(75)	108	3.161	2.419	3.484

(B)

(C)

(D)

試算計算式
=(B)/(A)

試算計算式
=(C)/(A)

試算計算式
=(D)/(A)

備考:

出版論文数

WoS採録誌からの引用数

論文+書籍等からの総引用数

● PEPS Published 31 articles in 2014FY.

● 2015FY: 75 citations (WoS Journals registered by Thomson Reuter), 108 citations (All journals, books and others)

IF values for WoS journals and total citation are 2.4 and 3.5, respectively.

● Our research field requires a long lead time (>5 months).

● These values are minima. Surely we can exceed our target (more than 3, officially more than 2.5).

31

75

108

2014/4/22 ~ 2015/3/31出版論文数 (12ヶ月)

翌15FY

翌15FY

グローバル戦略委員会報告

- 前回理事会より GSC 委員会が行われていない。
- 4月26日木村委員長と事務局とのあいだで前委員会（3月1日第10回）からのアクションアイテムの状況確認を行った。
 - 1：2016年度学生旅費援助プログラム（順調に推移）
 - 2：JpGU 会員動向（継続中：2016年度大会参加は増加見込み）
 - 3：2016年大会中イベント（サポート体制の確認）
 - 4：大会中英語案内（準備中）
 - 5：台湾研究者との交歓（5月24日昼食会として企画中）
 - 6：4ユニオン会合（5月22日14-15時に設定：議事を検討中）
 - 7：Intenraiotnal Mixer Luncheon（5月25日に企画 日本と海外の若手研究者のネットワーク強化が目的）
 - 8：2018年以降の対応（新 GSC 体制に引き継ぐ）

平成27年度 共催・協賛・後援等一覧

2016/5/3 16:39					開催期間	会場
申請日	承認日	種別	対象	会名等	主催者	
3月26日	4月1日	後援	連合	われわれはどこに住めばよいのか?～地図を作り、読み、災害から身を守る～	日本学術会議	2015年6月20日(土)
4月7日	4月17日	協賛	連合	第56回高圧討論会	日本高圧力学会	2015年11月10日(火)～11月12日(木)
6月5日	6月15日	協賛	連合	日本地質学第122年学術大会巡検	日本地質学会	2015年9月10日(木)～15日(火)
6月18日	6月24日	協賛	連合	2015年 URSI 日本電波科学会議	電子情報通信学会	2015年9月3日(木)～4日(金)
6月26日	7月7日	協賛	連合	女子中高生夏の学校2015～科学・技術・人との出会い～	国立女性教育会館	2017年8月6日(木)～8日(土)
7月2日	7月8日	後援	連合	「沈み込み帯堆積盆地のリソスフェア・ダイナミクス」	東京大学地震研究所	2015年10月5日(月)～2015年10月9日(金)
7月13日	7月18日	共催	大気水圏科学セクション	研究集会「航空機観測による気候・地球システム科学研究の推進」	公益社団法人日本気象学会	2015年 9月 1日(火)～2日(水)
8月13日	8月19日	共催	連合	第10回科学地理オリンピック日本選手権および第13回国際地理オリンピック日本代表選抜大会	国際地理オリンピック日本委員会実行委員会	2015年 10月 1日(木)～2016年3月13日(日)
9月8日	9月24日	後援	連合	非線形波動とカオス国際ワークショップ	NWGW組織委員会	2017年3月20日(月)～2017年3月24日(金)
9月8日	9月15日	共同主催	連合	「理数系教育におけるアクティビティ・ラーニング」	共同主催:理数系学会教育問題連絡会 会員各学会	2015年11月8日(日)13:15-16:45
9月14日	9月24日	後援	連合	ジオハバザードに対処できる人材の育成:防災国際ネットワーク構築に向けた国内連携のあり方	日本学術会議(地球惑星科学委員会 IUGS分科会)、国立研究開発法人産業技術総合研究所、東北大学災害科学国際研究所	2015年11月20日(金)
9月25日	10月5日	共催	連合	ビッグデータ・データサイエンスに関わる学生/研究者、企業人の異分野・異業種交流会	一般社団法人知の人材連携センター	2016年1月31日(日)
10月1日	10月13日	後援	連合	強靱で安全・安心な都市を支える地質地盤ーあなたの家の足元は大丈夫?ー	日本学術会議 地球惑星科学委員会、土木工学・建築学委員会	平成28年1月23日(土)13:30～17:30
10月13日	10月21日	後援	大気水圏科学セクション、地球人間圏科学セクション	公開シンポジウム「生命を育む地球環境の変動予測と適応ー我が国におけるIGBP25年間の歩み」	日本学術会議 環境学・地球惑星科学両委員会合同 IGBP・WCORP・DIVERSTAS(WD) 合同分科会	平成27年11月15日(日)9:00～12:00
10月19日	10月22日	協賛	連合	CODATAジャパン・データサイエンス・ワークショップ	CODATA-ICSTIデータサイエンス・タスクグループ	2015年10月29日(木) 13時～
11月11日	11月19日	協賛	大気水圏科学セクション	モンスーンアジア気候研究計画(MAHASRI)国際科学会議(The International Science Conference on MAHASRI)	MAHASRI国際科学委員会	2016年3月2日(水)～3月4日(金)
11月19日	11月27日	後援	連合	サイエンスキャッスル2015東北大会	サイエンスキャッスル実行委員会	2015年12月6日(日)
11月19日	11月27日	後援	連合	サイエンスキャッスル2015関東大会	サイエンスキャッスル実行委員会	TEPIA 先端技術館 (東京都港区北青山2-8-44)
11月19日	11月27日	後援	連合	サイエンスキャッスル2015関西大会	サイエンスキャッスル実行委員会	大阪明星学園中学校高等学校 (大阪府大阪市天王寺区御堂町5-44)
11月25日	12月2日	後援	連合	データシェアリングシンポジウム	国立研究開発法人 科学技術振興機構	一橋講堂(東京都千代田区一ツ橋2-1-2)
12月7日	12月14日	協賛	連合	2015年度量子ビームサイエンスフェスタ	高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所、J-PARCセンター、総合科学技術機構(CROSS)、PF-UA、J-PARC/MLF利用者懇談会	つくば国際会議場(エポカルつくば) (〒305-0032 茨城県つくば市竹園2-20-3)

12月10日	12月17日	協賛	連合	ハイパフォーマンスコンピューティングと計算科学シンポジウム	ハイパフォーマンスコンピューティング研究会 主査 横川三津夫	2016年6月6日(月)～2016年6月7日(火)	東北大学 片平さくらホール (宮城県仙台市片平2-1-1)
1月29日	2月5日	協賛	連合	第20回計算工学講演会	一般社団法人日本計算工学会	2016年5月31日(火)～2016年6月2日(木)	朱鷺メッセ;新潟コンベンションセンター
2月2日	3月10日	協賛	連合	IAG-IASPEI 2017 Joint Assembly	日本地震学会、日本測地学会、日本 学術会議(予定)	2017年7月30日-8月4日	神戸国際会議場 静岡大学教育学部他
3月1日	3月9日	後援	連合	科学教育研究協議会 第63回全国研究大会・静岡大会	科学教育研究協議会 第63回全国 研究大会実行委員会	2016年8月6日(土)～8月8日(月)	〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

平成27年度 サポートレター等一覧

申請日	承認日	種別	件名	申請者
4月3日	4月14日	サポート レター	名古屋大学宇宙地球環境研究所(仮称)共同利用・共同研究拠点の認定について	名古屋大学太陽地球環境研究所 所長 町田 忍
5月13日	5月21日	サポート レター	「連携ネットワーク型共同利用・共同研究拠点」申請にか かるサポートレター	海洋研究開発機構北極環境変動総 合研究センター長 河野 健 首都大学東京 大学院理工学研究科 教授 竹川 暢之
2月19日	3月10日	サポート レター	IGAC-ICACGP 2018	

平成28年度 共催・協賛・後援等一覧

申請日	承認日	種別	対象	会合名等	主催者	開催期間	会場
4月7日	4月14日	後援	連合	第57回高圧討論会	日本高圧力学会	2016年10月26日～2016年10月29日	場所: 筑波大学大会館 所在地: 茨城県つくば市天王台1-1-1

2016/5/3 16:39



日本地球惑星科学連合ニュースレター Vol. **12**
May, 2016 No. 2

SPECIAL

日本地球惑星科学連合 2016 年大会のご案内 1

TOPICS

海洋混合学の創設 13
太陽系の水の起源を知るための室内実験 15

BOOK REVIEW

地底 -地球深部探究の歴史- 17

INFORMATION

19

JGL

Japan Geoscience Letters

2016 No. **2**

SPECIAL

今大会のプログラムは英語版のみになります。大会参加者の方は、必要に応じて本誌をご持参ください。著者インデックスは英語プログラムに掲載いたします。

日本地球惑星科学連合 2016 年大会のご案内

連 合 2016 年大会の概要

開催日時・会場

2016 年 5 月 22 日(日)～26 日(木)
幕張メッセ国際会議場・展示場 (千葉市美浜区中瀬 2-1)
アパホテル&リゾート東京ベイ幕張 (千葉市美浜区美浜区ひび野 2-3)

講 演会場とタイムテーブル

口頭講演会場

幕張メッセ/101A, 101B, 102, 103, 104, 105, 106,
201A, 201B, 202, 203, 国際会議室,
コンベンションホール A, コンベンションホール B,
301A, 301B, 302, 303, 304
アパホテル/(22 日～24 日) A01～A05, A07, A08

ポスター会場

幕張メッセ国際展示場 (6 ホール)

タイムテーブル

AM1/09:00～10:30 AM2/10:45～12:15
PM1/13:45～15:15 PM2/15:30～17:00
ポスターコアタイム: 22 日～25 日 17:15～18:30
26 日 15:30～16:45

発 表者の方へ

口頭発表について

会場に発表用のパソコンはご用意しておりませんので各自ご持参ください。プロジェクトは 16:9 です (4:3 も可)。Dsub15 ピンと HDMI 端子が使用可能です。(HDMI での接続をご希望の際は設定の変更が必要となるため会場係にお声がけください)

ポスター発表について

掲示時間は発表日の 9:00～18:30 です。コアタイムにはできる限りご自身のボードの前にいてください。滞在可能な時間が限られている場合には、ボードに滞在時間票を掲示しておいてください。

※やむをえず大会への参加が難しくなってしまった場合には、確定次第コンピーナにご連絡ください。

受 付時間

5 月 21 日(土) 17:00～18:00
5 月 22 日(日)～24 日(火) 8:00～18:00
5 月 25 日(水) 8:30～18:00
5 月 26 日(木) 8:30～17:00
※21 日～25 日は 17:00～18:00 に翌日分の受付も行えます

受 付会場

幕張メッセ国際会議場 1F 入口 (East Entrance)

※アパホテルでのセッションに参加される方も、必ず幕張メッセ国際会議場にて入場手続き(名札の発券)をお済ませください。名札のない方のセッション会場へのご入場はできません。
※国際会議場への再入場(名札をすでにお持ちの方)は **North Entrance** をお使いください。

参加登録は会期開始後も随時ご自身のパソコンから行えます。ご来場前にご自身で参加登録をお済ませいただき、入場用バーコードを印刷し、国際会議場 1F (East Entrance) のチェックインカウンターへご持参ください。(スマートフォン、タブレットでの表示も可能ですが、読み取りづらい場合があります、お時間をいただく可能性があります。)

ヘルプデスクのご案内

1F 受付のヘルプデスクでは下記ご相談を受け付けております。
各種お支払い/名札再発行/領収書発行及び書き換え/登録情報

の確認／登録身分の変更／シニア参加者の名札発行／同伴券の発行
その他にも何かお困りのことがございましたらお声がけください。

ク ローク

(幕張メッセ国際会議場 1 階ロングカウンター奥)

開設時間

5 月 22 日(日)～24 日(火) 8:00～18:45*

5 月 25 日(水) 8:30～18:45

5 月 26 日(木) 8:00～17:15

- ・PC を含む貴重品は預かりできません。
- ・クロークの終了時間をすぎたお荷物は翌日の朝までお返しできませんので、お引き取りの時間にご注意ください。
- ・最終日までお引き取りいただけなかったお荷物は着払いにて後日お送りさせていただきます。
- ・クロークの開設時間を過ぎるお荷物については、幕張メッセの有料コインロッカーをご利用ください。

※5 月 24 日の懇親会参加者の方がクロークをご利用される場合は、必ず幕張メッセのクロークから荷物をお受け取りになられた上でアパホテルへ移動してください。懇親会終了後の荷物の取り出しは行えません。

アパホテルにもホテルのクロークをご用意しております。

アパホテルクローク利用可能時間

5 月 22 日(日)～23 日(月) 8:30～17:30

5 月 24 日(火) 8:30～21:30

連 合大会本部

場所：(本部) 幕張メッセ国際会議場 2 階 205 号室

(分室) 幕張メッセ国際展示場 6 ホール Study room 2

落し物・忘れ物は大会本部にてお預かりしております。

大 会期間中の連絡先

現地でのお問合せは本部(205 号室)または 1F 受付のヘルプデスクへお越しください。

E-mail: office@jgpu.org Tel: 070-5596-9414

大会期間中、緊急の連絡は E-mail ではなく電話をお願いします。

セ ッションコンビーナからのお知らせ

発表内容の変更や、コンビーナから参加者の皆様へのお知らせを、大会ウェブページ上にて「セッション情報」として公開しております。時間の変更や発表者への注意事項などもありますので、参加予定のセッションについては必ずご確認をお願いいたします。



各 種特別室のご案内

● Prayer Room

ムスリムの方へ Prayer Room をご用意しております。幕張メッセ国際会議場 2 階 214 (男性)、215 (女性) です。必要とされている方がいらっしゃいましたらご案内してください。

● 休憩室

展示ホール内 Study room 1 を参加者休憩室としてご用意しています(Wi-Fi 使用可、飲食可)。ぜひご利用ください。また、22 日～24 日

はアパホテルの A06 会場も休憩所としてご利用いただけます(有線 LAN 用意予定、持ち込み飲食不可)。

● Donation salon

日本地球惑星科学連合では、皆様からの寄付をお願いしております。Donation salon におきましては、ご寄附のお願いと受け付け、また、ご寄附いただいた方へのスペースをご用意しております。ドリンクもご用意しておりますので、ぜひお立ち寄りいただき、ご理解とご協力をお願いいたします。

参 加登録と参加費

大会へ参加するには参加登録が必要です。お手元の確認メールやログイン画面で、ご自身の登録済みの内容をご確認ください。(予稿投稿・会員登録の他に参加登録が必要となります。)

当日参加登録

当日会場での参加登録用にパソコンもご用意いたしますが、原則的にはご自身で会員ページにログインしていただき、オンライン上で参加登録を行っていただきます。会場での登録は混雑が予想されますので、できる限り事前にご登録いただいた上でご来場ください。今大会より、会期開始後もオンラインでの参加登録が可能です。

なお、現地での参加登録にもクレジットカードが必要となります。

大会参加には連合の ID が必要です。正会員または大会会員の ID 取得をお願いいたします。

大学院生及び学部生以下の方は、必ず「学生証」をご持参ください。入場の際提示をお願いします。ご提示いただけない場合は学生割引が受けられませんのでご注意ください。

当日参加登録費

5/10 17:00 以降は下記通常料金(税込)が適用されます。詳しくは大会ホームページでご確認ください。

【全日程】	一般	教員・大学院生・研究生	学部生以下・シニア
会 員	30,240 円	16,200 円	無 料
非会員	43,200 円	25,920 円	無 料
【1 日 券】	一般	教員・大学院生・研究生	学部生以下・シニア
会 員	19,440 円	10,800 円	無 料
非会員	27,000 円	19,440 円	無 料

大会会員の方へ

大会会員の方へは会員割引料金は適用されません。非会員料金となりますのでご注意ください。現在大会会員の方で、正会員身分での参加をご希望の方は、別途正会員 ID を作成し、そちらの ID から参加登録をお済ませください。大会終了後、大会会員 ID をこちらで削除させていただきます。

なお、AGU 会員・AOGS 会員の方につきましては、大会会員であっても会員料金でご参加いただけます。

シニアの方へ

70 歳以上の方は参加登録料は無料となりますが、ご登録手続きは必要となりますので、ご来場前に会員ログイン画面より参加登録を行ってください。事前の参加登録が難しい場合には、当日ヘルプデスクにてお申し付けください。

学部生の方へ

学部生（以下）の方は無料でご参加いただけます。連合の会員 ID をお持ちの方はログイン画面から参加登録をお済ませいただいた上でご来場ください。会員 ID をお持ちでない方で、大会参加のみをご希望の方は、「2016 年大会会員 ID」を作成し、参加登録を行ってください。大会への参加には必ず ID の作成が必要となります。現地での ID 作成にはお時間をいただいておりますので、できる限り来場前のご登録をお願いいたします。また、ご入場の際には学生証が必要となります。当日学生証をお持ちでない場合には、一般料金が発生してしまいますので、忘れずにご持参ください。

「パブリックセッション」（一般公開）のみの参加者

パブリックセッションのみ参加の場合、参加費は必要ありません。当日直接パブリックセッションデスクへお越しください。なお、大会ホームページ上より事前申込みも承っております。事前申込みをお済ませいただきますと、印字された名札の発券が可能です。

参加登録がお済みの皆様へのご案内

★事前送付について

大会プログラムや名札等の事前送付は行っておりません。全て当日会場でのお渡しとなります。

★入場証

会員ログインページから、バーコードの記載された入場証を印刷できます。忘れずにご持参ください。

★大会当日の受付について

大会受付会場では、ご持参された入場証のバーコードを読み込むことで、登録内容の確認を行い、参加証となる名札を発券します。名札の無い方は会場に入場できません。

★領収書について

領収書は会員ログインページからご自身で発行できますので、当日会場でのお渡しはありません。宛名等の書き換えの必要がある方はヘルプデスクでお申し付けください。

コーヒーブレイク

ポスター及び展示ブースのある展示ホール 6 におきまして、終日コーヒーのサービスを行っております。展示ホールには作業用テーブル、電源、Wi-Fi 等もご用意しておりますので、ぜひお立ち寄りください。

午前と午後の各休憩時間には口頭講演会場でもコーヒーとミネラルウォーターをご用意いたします。会場移動の際や講演の空き時間にご利用ください。

- ・時間／ 10:30 ～ 10:45 及び 15:15 ～ 15:30
- ・場所／幕張メッセ国際会議場 2 階カウンター、
アパホテル A06 休憩室（22 日～ 24 日のみ）

リフレッシュメントタイム

夜間のポスターコアタイムに参加される方にビールのサービスをご用意いたします。この機会に様々な分野の方と議論を交わしてください。（準備数がなくなり次第終了）

- ・5月22日～25日 17:15 ～ / 5月26日 15:30 ～
- ・場所／ポスター会場（展示ホール 6）

ランチ販売等

幕張メッセ国際会議場 ※ ランチタイムのみ
1F 受付前(屋外): ケータリングカー
2F コンベンションホール A 前: 軽食販売
ポスター会場（展示ホール 6） ※ 終日
スナック販売

学会参加者向けサービスクーポン

幕張メッセ周辺施設において、大会参加者向けサービスも実施しています。参加店舗は会場で配布するクーポンマップをご参照ください。該当店舗において大会名札をご提示いただくことでサービスを受けることができます。

※アパホテルの館内は持ち込み飲食が禁止されております。
ご協力をお願いいたします。

大会アプリについて

ご好評いただいております、大会参加者向けのスマートフォン用アプリを今年もご用意しています。予稿や索引の閲覧だけでなく、検索やスケジュール登録もできます。

App Store, Google Play より「地球惑星」または「JpGU2016」で検索し、ダウンロードしてください。（iPhone, Android 対応）

※予稿 PDF 公開の 5/12 に合わせてサービス開始となります。

フェロー贈賞式・Taira Prize 受賞者紹介

フェロー贈賞式

日本地球惑星科学連合フェロー制度は、地球惑星科学において顕著な功績を挙げた方を高く評価し、名誉あるフェローとして処遇することを目的として設置されたものです。2016 年度は次の先生方をフェローとして顕彰させていただくこととなりました。

2016 年度日本地球惑星科学連合フェロー（14 名 50 音順）

荒木 徹先生、安藤 雅孝先生、石原 舜三先生、大島 泰郎先生、加藤 進先生、斎藤 常正先生、斎藤 靖二先生、嶋本 利彦先生、富樫 茂子先生、鳥海 光弘先生、藤原 顕先生、町田 洋先生、三雲 健先生、向井 利典先生

Taira Prize 受賞者紹介

Taira Prize は JpGU も公式に協力して、AGU に新しく設けられた賞であり、深海掘削を通じて科学への著しい貢献をした若手研究者に授賞されます。

第一回受賞者となりました稲垣史生氏を、JpGU におきましてもご紹介させていただきます。

フェロー贈賞式・Taira Prize 受賞者紹介は 5 月 24 日 18:30 からアパホテル A09 ～ A11 にて開催し、どなたでもご参加いただけます。ウェルカムドリンクもご用意しておりますので、ぜひ皆様お立ち寄りください。

懇親会

懇親会は5月24日(火)に開催します。会員ログインページより、『連合大会メニュー』→『懇親会申込』からお申込ください。

日時：2016年5月24日(火) 19:00～21:00

18:45 受付開始予定

場所：APA ホテル A09～A11 特設会場

参加費：一般 3,800 円 (税込 4,104 円)

学生 1,980 円 (税込 2,138 円)

オンライン申込み締切 5月23日(月) 18:00 (オンライン申込み締切後は当日現金価格となります。一般 4,500 円 (税込)、学生 2,200 円 (税込))

スペシャルレクチャー

日時：5月22日(日)～26日(木) 12:30～13:40

会場：コンベンションホール A

大会期間中のお昼休みに開催します。

ワールドクラスの研究者が研究分野を越えて学生・若手研究者に贈る地球惑星科学の特別講義シリーズです。最もホットなトピックスを、学部生や他分野の院生の方にも分かるようやさしくお話しいたきます。今年は西田賞受賞者スペシャルです。会場入口で軽食の販売をおこないますので、昼食を取りながらお気軽に聴講ください。

■ 5月22日(日)

○河北 秀世 (京都産業大学神山天文台)

『分子の原子核スピン異性体比と彗星』

○三好 建正 (理化学研究所)

『データ同化の進展と広がり』

■ 5月23日(月)

○是永 淳 (イェール大学)

『地球の熱史モデルはどのように構築されてきたのか?』

○渡部 雅浩 (東京大学大気海洋研究所)

『近年の気候変化のメカニズムと要因分析』

■ 5月24日(火)

○相川 祐理 (筑波大学)

『星・惑星系形成領域の分子進化：星間物質から惑星物質へ』

○竹村 俊彦 (九州大学応用力学研究所)

『エアロゾルによる気候変動 ― 数値モデルの開発と影響評価』

■ 5月25日(水)

○鈴木 建 (東京大学)

『計算機の中で太陽風を吹かせる』

○三好 由純 (名古屋大学太陽地球環境研究所)

『エネルギー階層間結合が作り出す放射線帯電子の加速』

■ 5月26日(木)

○長谷川 洋 (宇宙航空開発研究機構)

『磁気圏の窓際を研究する』

緊急セッション開催

M-IS34 2016年熊本地震および関連する地殻活動

【口頭講演】5月25日 AM1・AM2 コンベンションホール A

【ポスター講演】5月25日、26日

詳細は大会ホームページでご確認ください。

一般市民向け公開プログラム
「パブリックセッション」

今年は6つの一般市民向け公開プログラムを開催いたします。公開プログラムのみの参加費は無料です。奮ってご参加ください。

O-01 次期学習指導要領で求められる資質・能力の達成を目指して

日時：5月22日(日) 13:45～17:00 会場：301A

次期学習指導要領では、獲得すべき知識や概念の取捨選択のみではなく、育成すべき資質・能力と、その効果的な達成に向けた指導のあり方が問われています。その実現のためには、学習すべき内容の吟味と学習方法の検討が必要と考えられます。前者の例として必修を想定した地理及び地学の基礎的科目の内容、後者の例として、いわゆるアクティブ・ラーニングへの関わり方を取り上げ、議論を行います。

▶ 13:45～13:50 Introduction

▶ 13:50～14:25 石井 英真 (京都大学大学院教育学研究科)

『資質・能力ベースのカリキュラム改革と教科教育の現代的課題』

▶ 14:25～14:45 小林 岳人 (千葉県立松戸国際高等学校)

『オリエンテーリングと地図学習』

▶ 14:45～15:55 柴生田 茜 (埼玉県立与野高等学校)

『アクティブラーニングの実践例とその効果について』

▶ 14:55～15:05 宮嶋 敏 (埼玉県立深谷第一高等学校)

『これまでの授業実践はアクティブ・ラーニングになりうるか?』

▶ 15:20～15:55 成田 賢 (一般社団法人 全国地質調査業協会連合会)

『地質調査業が求める人材像と理科教育への期待』

▶ 15:55～16:15 今野 良祐 (筑波大学附属坂戸高等学校)

『高等学校必修教科科目としての新しい地理教育～持続可能な社会に資する地理総合～』

▶ 16:15～16:30 田口 康博 (千葉県立銚子高等学校)

『次期高等学校学習指導要領における地学基礎科目改善の提案』

▶ 16:30～17:00 Discussion

O-02 高校生によるポスター発表

日時：5月22日(日)

11:30～12:30 ポスター概要説明

会場：国際会議室

13:45～15:15 ポスター発表

会場：ポスター会場

16:35～17:05 表彰式

会場：コンベンションホール B

高校生が気象、地震、地球環境、地質、太陽系など地球惑星科学分野で行った学習・研究活動をポスター形式で発表します。地球惑星科学分野の第一線の研究者と同じ会場で発表し、研究者と議論できるセッションです。優れた発表には表彰も行っています。

O-03 地球・惑星科学トップセミナー

日時：5月22日(日) 09:45～11:30 会場：国際会議室

地球惑星科学分野における最新の成果を、招待講演者に分かりやすく紹介していただくアウトリーチセッションです。

▶ 09:45～10:20 石井 信明 (宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所)

『日本初の惑星周回衛星「あかつき」の軌道制御』

▶ 10:20～10:55 今村 剛 (宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所)

『金星探査機「あかつき」が拓く惑星大気科学の未来』

▶ 10:55～11:30 生駒 大洋 (東京大学)

『系外惑星研究：新時代の始まり』

O-04 ジオパークへ行こう

日時：5月22日(日) 13:45～17:00 会場：国際会議室
17:15～18:30 会場：ポスター会場

小中高生や地学に興味のある市民の方が、ジオパークで実際に何を見ることができてどんな体験ができるのか、いくつかのジオパークの例を講演やミニパネルディスカッションでわかりやすく紹介します。ポスターセッションでは、各地のジオパークの様々な活動を紹介します。

- ▶ 13:45～14:15 白井 孝明(室戸ジオパーク推進協議会)
『室戸ユネスコ世界ジオパークへ行こう』
- ▶ 14:15～14:45 加藤 聡美(アポイ岳ジオパークビジターセンター)
『アポイ岳ジオパークへ行こう』
- ▶ 14:45～15:15 山崎 由貴子(湯沢市ジオパーク推進協議会)
『ゆざわジオパークの见えない火山の恵み』
- ▶ 15:30～16:00 小玉 健次郎(銚子ジオパーク推進市民の会)
『海と川が創った銚子ジオパークを探検しよう!』
- ▶ 16:00～16:30 小原 北士(Mine 秋吉台ジオパーク推進協議会)
『Mine 秋吉台ジオパークへ行こう!』
- ▶ 16:30～17:00 鈴木 雄介(伊豆半島ジオパーク推進協議会事務局)
『南から来た火山の贈りもの - 伊豆半島ジオパークへ行こう!』

〈ポスター発表〉 47 件

**O-05 地球科学界と原子力発電の関係
ー浜岡原発を題材としてー**

日時：5月22日(日) 09:00～12:15
会場：コンベンションホール B

静岡県の浜岡原子力発電所は巨大地震の想定震源域直上に位置し、地震・津波の想定に基づいて様々な対策が取られており、原子力発電と自然災害および地球科学の関係を象徴する存在です。このセッションでは、同原発に関連する現在の地球科学的知見について検討し、同原発と地球科学界とのこれまでの関係を振り返り、今後のあるべき関係などについて議論します。

- ▶ 09:00～09:05 Introduction
- ▶ 09:05～09:30 石橋 克彦(神戸大学名誉教授)
『地震科学からみた浜岡原子力発電所の変遷と地震・津波安全性』
- ▶ 09:30～09:55 藤原 治(産業技術総合研究所地質調査総合センター)
『静岡県沿岸の完新世後半の地殻変動と津波に関する新知見』
- ▶ 09:55～10:20 奥村 晃史(広島大学大学院文学研究科)
『浜岡原子力発電所とその周辺の上盤プレート地殻内断層と地震』
- ▶ 10:20～10:30 Discussion
- ▶ 10:45～11:10 寿楽 浩太(東京電機大学)
『原子力利用と(地球)科学者の関係をめぐって：科学技術社会論分野からの問題提起』
- ▶ 11:10～11:30 金嶋 聰(九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門)
『セッションのまとめとパネル・ディスカッションの趣旨説明』
- ▶ 11:30～12:15 Discussion

**O-06 JpGU 所属の学生・研究者にとっての
ダイバーシティ推進とは何か?**

日時：5月22日(日) 13:45～17:00 会場：202

多様な能力を活かし組織の活動を活性化させるという観点から「ダイバーシティ」という言葉が使われるようになって約10年。しかし、研

究現場においてはまだこの概念の浸透度が低く、課題が多く残されています。JpGU では、2015年にキャリア支援と男女共同参画委員会とを統合しダイバーシティ推進委員会として、新たな一歩を踏み出しました。この機会に「研究者にとってのダイバーシティ推進とは?」という問題を改めて問い直します。

- ▶ 13:45～14:00 坂野井 和代(駒澤大学)
『セッション趣旨説明』
- ▶ 14:00～14:15 富樫 茂子(産業技術総合研究所)
『個性に応じた多様なキャリアへの挑戦機会の実現にむけて』
- ▶ 14:15～15:15 川島 高之(三井物産ロジスティクス・パートナーズ株式会社)
『仕事も私生活も、欲張ろう!』～ Work × Life × Social = Hybrid 人生のススメ～
- ▶ 15:30～15:50 近藤 高志(東京大学 先端科学技術研究センター)
『応用物理学会における男女共同参画活動』
- ▶ 15:50～16:10 青木 賢人(金沢大学地域創造学類)
『男性研究者のワーク・ライフバランス～ワークとライフの垣根を下げてみる～』
- ▶ 16:10～16:30 宋 苑瑞(JSPS Postdoctoral Research Fellow, Saitama University)
『日本の研究機関や大学での外国人研究者の雇用における相互利益と不安要因』
- ▶ 16:30～17:00 Discussion

ユ ニオンセッション

ユニオンセッションは、地球惑星科学のフロンティアや地球惑星科学のコミュニティ全体に共通する課題を全研究者に広く周知し、議論するためのセッションです。今年は、2つの国際セッションを含め合計6のセッションが開催されます。(全てオーラル発表となります。)

U-01 Geoscience and society

日時：5月24日(火) 10:45～12:15 会場：102

本セッションは初めての AGU との国際共同セッションで、Great Debate 形式で行います。テーマは、(1)地球科学者の社会的役割は何か?(2)社会は地球科学者を必要としているのか?(3)若い世代に地球科学の社会的役割に関する職業意識をどのように醸成するのか?というもので、広く地球科学と社会の関わりを話題とします。最初にパネリストから短い話をしてもらい、フロアからの質問も受けながら議論します。

**U-02 Earth and Planetary satellite observation projects
Part I**

日時：5月23日(月) 9:00～12:05 会場：303

本セッションでは、NASA および JAXA・NASA が共同で実施する地球惑星科学分野の宇宙ミッションについてレビュー講演を行います。NASA および国内からの招待講演者を迎えて、NASA および日米共同ミッションの最前線や、ミッションで得られたデータによる研究、日本の科学者がもたらしてきた成果などを紹介します。NASA からは科学ミッション本部・地球科学部長 Michael Freilich 博士と科学局太陽圏科学部長 Steven Clarke 博士の参加を予定しています。

**U-03 日本地球惑星科学連合と学術出版による
科学情報発信**

日時：5月23日(月) 13:45～15:15

会場：コンベンションホール B

日本の地球惑星科学コミュニティとして地球惑星科学における世界の一面を担えるジャーナルを目指し、JpGU は「Progress in Earth and Planetary Science (PEPS)」を SPRINGER 社と協力して 2014 年に創刊しました。日本の科学ジャーナルの現状と将来、そして、将来への展望と戦略を議論したいと思います。よろしくご協力のほどお願いいたします。

U-04 連合は環境・災害にどう向き合っていくのか？

日時：5月25日(水) 13:45～17:00 会場：国際会議室

本セッションでは、昨年に引き続き、東日本大震災やその他の大規模災害時における各学協会の活動について情報共有をはかり、単一の学会では対処できない複数の学協会にまたがる環境と災害の問題に対して、各学協会の枠を超えた実質的な連携を促進する上で連合にどのような体制を築いていくべきか、また 2016 年 1 月に発足した防災学術連携体との連携について議論します。

U-05 Future Earth

ー持続可能な地球へ向けた統合的研究

日時：5月22日(日) 13:45～17:00 会場：103

世界の地球環境研究は、Future Earth 計画の下で抜本的に再編成されつつあります。地球の営みと地球表層に生じる地人関係や自然災害を含む諸事象を主たる研究対象として、これまで地球環境研究において重要な役割を果たしてきた地球惑星科学にとって、Future Earth 計画への貢献は、全人類の使命です。その使命をわが国の地球惑星科学コミュニティとして、関連する諸分野や他の国々の研究者と連携してどう果たしていくべきかを議論します。

U-06 大型研究計画

ーマスタープラン 2017 とその先を見据えて

日時：5月24日(火) 13:45～16:55 会場：102

日本学術会議による、学術の大型研究計画(マスタープラン 2017)は、2016 年 2～3 月に公募見込です。本セッションでは、応募予定の大型研究計画について講演していただき、セッション聴講者一般からのコメントを地球惑星科学委員会として集約します。その結果は、大型研究計画(とくに重点大型研究)への推薦に参照することとし、地球惑星科学分野として何を推進すべきかについて共通認識を得ることを目指します。

各 種 展 示

期間：5月22日(日) 10:00～5月26日(木) 14:00

内容：大学・研究所・研究団体・企業・出版社などによる最新プロジェクト等の公開・研究発表・情報交換交流の場です。関係書籍の販売もおこなっております。ぜひお立ち寄りください。【 】内はブース番号

▼一般展示 場所：2F

【A01】 airGmap Aerospace Technology / 【A02】 4D ジオテック合同会社、GeoSIG Ltd / 【A03】 リトルリバーリサーチ&デザイン / 【A04】 Earth, Planets and Space / 【A05】 極東貿易株式会社 / 【A06】 Exelis VIS 株式会社 / 【A07～9】 Google Earth Engine / 【A10】 白山工業株式会社 / 【A11】 日本原子力研究開発機構 土岐地球年代学研究所 / 【A12】 国立研究開発法人防災科学技術研究所 / 【A13】 株式会社拓和 / 【A14】 地学・地理オリンピック / 【A15】 京都大学大学院工学研究科 応用地球物理学分野 / 【A16】 国立天文台 TMT 推進室

／【A17】 国立天文台チリ観測所(アルマ望遠鏡) / 【A18～A19】 株式会社ジオシス / 【A20】 株式会社ニューテック / 【A21】 メイジテック株式会社 / 【A22】 東京工業大学 地球生命研究所 / 【A23】 iRIC 研究会 / 【A24】 株式会社計測技研 / 【A25】 測位衛星技術株式会社 / 【A26】 安井器械株式会社 / 【A27】 国立研究開発法人産業技術総合研究所地質調査総合センター / 【A28】 三洋貿易株式会社 / 【A29～A31】 京都大学地球惑星科学連合 / 【A32】 愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター / 【A33】 新学術領域研究 核一マントルの相互作用と共進化 / 【A34】 名古屋大学宇宙地球環境研究所 / 【A35】 アジア航測株式会社 / 【A36】 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 / 【A37】 東京大学 大気海洋研究所 / 【A38】 東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻 / 【A39】 東京大学地震研究所 / 【A40】 東京大学海洋アライアンス / 【A41～42】 東北大学グローバル安全学トップリーダープログラム / 【A43】 北極域研究推進プロジェクト(ArCS) / 【A44】 有限会社イーオーアール / 【A45】 次世代海洋資源調査技術研究組合 / 【A46】 石油資源開発(株) / (株)地球科学総合研究所 / 【A47】 超高層大気長期変動の地球地上ネットワーク観測・研究 / 【A48】 太陽観測衛星「ひので」プロジェクト / 【A49】 オックスフォード・インストゥルメンツ株式会社 / 【A50】 ジャスコインタナショナル株式会社 / 【A51】 メイワフォーシス株式会社 / 【A52】 バイテックグローバルエレクトロニクス株式会社

▼一般展示 場所：1F

【A53】 国分寺市 / 【A54】 インターステラテクノロジズ株式会社 / 【A55】 日本ニューメリカルアルゴリズムズグループ株式会社

▼一般展示 場所：国際展示場 6 ホール

【B01～B02】 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 / 【B03】 宇宙航空研究開発機構 地球観測研究センター / 【B04】 株式会社マイクロサポート / 【B05】 九州大学大学院地球社会統合科学府 / 【B06】 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP) 次世代海洋資源調査技術 / 【B07～B08】 国立研究開発法人海洋研究開発機構 / 【B09】 株式会社ライトストーン / 【B10】 株式会社パレオ・ラボ / 【B11】 東京地学協会 / 【B12】 地球掘削科学 / 【B13】 高知コアセンター / 【B14】 ICDP International Continental Scientific Drilling Program

▼学術展示 場所：2F

【1】 名古屋大学博士課程教育リーディングプログラム「フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム」 / 【2】 大阪大学大学院 理学研究科 宇宙地球科学専攻 / 【3】 岡山理科大学 / 【4】 千葉科学大学 / 【5】 九州大学大学院 理学研究院 地球惑星科学部門 / 【6】 名古屋大学 生物地球科学グループ / 【7】 名古屋大学大学院 地球環境科学専攻 / 【8】 公立大学法人 会津大学 / 【9】 立正大学大学院 地球環境科学研究科 / 【10】 北海道大学大学院 理学院自然史科学専攻 地球惑星科学関連講座

▼書籍・関連商品展示 場所：1F

【1】 株式会社渡辺教具製作所 / 【2】 共立出版株式会社 / 【3】 ホリミナロジー株式会社 / 【4】 株式会社朝倉書店 / 【5～6】 シュプリンガー / 【7】 英文校正エナゴ / 【8】 エルゼビア・ジャパン株式会社 / 【9】 株式会社ニホン・ミック / 【10】 ケンブリッジ大学出版株式会社 / 【11～12】 ワイリー・ジャパン株式会社 / 【13】 株式会社ニュートリノ / 【14～15】 布引焼窯元 / 【16】 地学団体研究会 / 【17】 株式会社 ELSS / 【18】 京都大学学術出版会 / 【19】 一般財団法人東京大学出版会 / 【20】 ジオガシ旅行団 / 【21】 エルゼビア・ジャパン株式会社 / 【22】 株式会社古今書院 / 【23】 株式会社横山空間情報研究所 / 【24】 IOP Publishing / 【26】 株式会社テラハウス

▼学協会デスク 場所：1F

【1】 日本鉱物科学会 / 【2】 日本古生物学会 / 【3】 日本海洋学会 / 【4】

公益社団法人日本地震学会／【5-6】日本地球化学会／【7】一般社団法人日本地質学会／【8】特定非営利活動法人日本火山学会／【9】日本測地学会／【10】地球電磁気・地球惑星圏学会／【11】石油技術協会

▼ Pamphlet Stand 場所：1F

ベータ・アナリティック／金沢大学地球／株式会社加速器分析研究所／近未来社／株式会社アイ・アール・システム

▼ Special Exhibition 場所：国際展示場 6 ホール

JpGU & Friends (JpGU/AGU/AOGS/EGU)

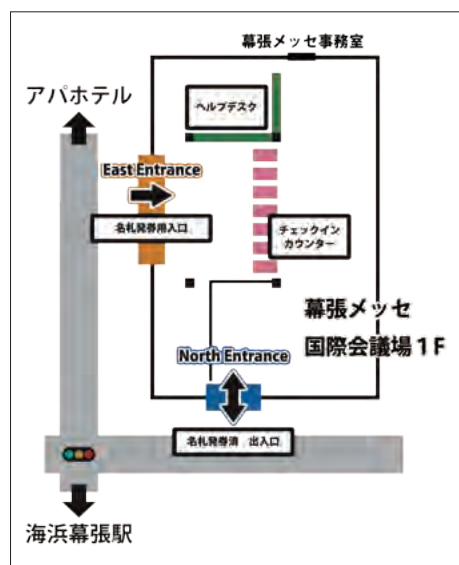
NASA (NASA-JAXA Hyperwall presentation)

JpGU 会長特別感謝状授与 —教育的アウトリーチ活動への貢献—

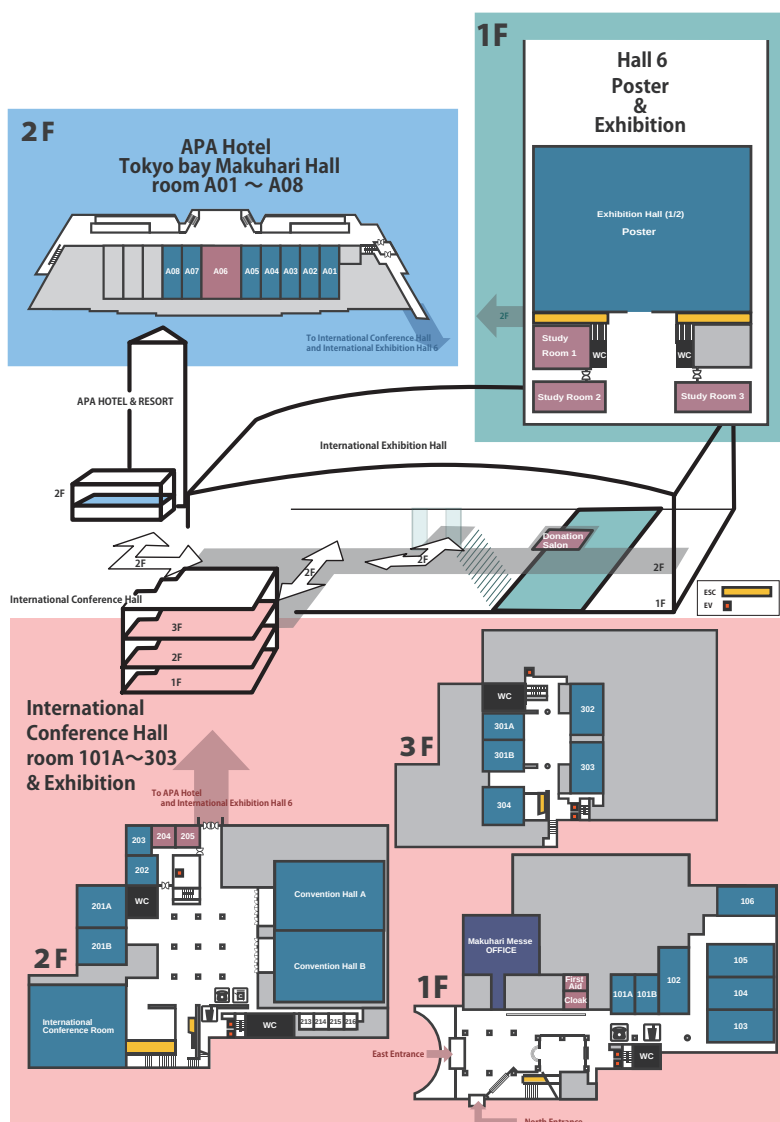
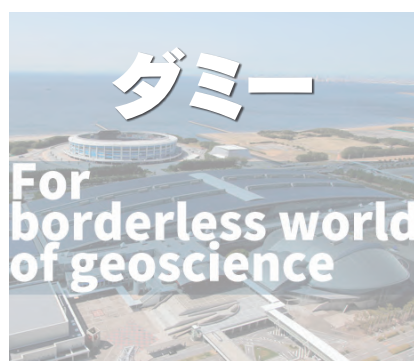
JpGU Meeting 2016 に際し、ハイパーウォール プレゼンテーションによる国際教育アウトリーチ活動を2014年以来成功に導いた Michael Freilich 氏と藤本正樹氏に深い謝意を表します。



ア クセスマップ & フロアマップ



受付会場詳細



〈口頭発表〉 赤字／パブリックセッション（一般公開プログラム）：無料 緑字／ユニオンセッション ★印／インターナショナルセッション ※色分けはポスター発表開催日による

会 場 (定員)		5月22日(日)				5月23日(月)				5月24日(火)		
		AM1		AM2	PM1	PM2	AM1	AM2	PM1	PM2	AM1	AM2
		9:00～10:30	10:45～12:15	13:45～15:15	15:30～17:00	9:00～10:30	10:45～12:15	13:45～15:15	15:30～17:00	9:00～10:30	10:45～12:15	
1F	101A (63)	G-03：アウトリーチ					★H-SC04： Future Earth, international	★H-CG10： Landscape appreciation		★H-DS06：Natural hazards impacts on technosphere	➡	
	101B (63)	★B-PT03： Biocalcification and Proxies		S-GL37：地域地質と構造発達史		M-IS09：ガスハイドレート			M-TT30： 統合物理探査	★H-DS07：Monitoring and prediction of disasters		
	102 (70)	H-CG27： Scientistsと Stakeholders	A-OS14： 海洋混合学	★A-OS04： Ocean Mixing Frontiers		★A-AS02： Weather and climate simulations	S-TT51： 地震観測・処理 システム	★A-CG09： Earth System Modeling		H-TT22：UAVが 拓く新しい世界	★U-01： Geoscience and society	
	103 (160)	★P-EM04：Space Weather					★P-EM08：Inner magnetosphere				★P-EM06：Magnetospheric Multi-Scale (MMS) mission	
	104 (160)	P-PS13：月の科学と探査			★P-CG10：Small Solar System Bodies			★P-PS02：Mars		P-PS12：太陽系惑星物質 ➡		
	105 (160)	★S-EM05： Geomagnetic secular variation		H-CG26： 堆積・侵食と 地球表層環境		H-SC16：人間環境と災害リスク		S-SS33：都市災害プロジェクト		S-SS25：強震動・地震災害 ➡		
	106 (100)	★S-SS01：Earthquake Early Warning development			S-SS29： 地震動・地殻変動即時解析		M-IS33： 微生物生態	★P-EM09： Coupling processes in Sun-Earth system			★P-EM03： MTI coupling	➡
2F	国際会議室 (456)	O-03：地球惑星 トップセミナー	O-02：高校生 発表セッション	O-04：ジオパークへ行こう		S-SS31：活断層と古地震					★S-SS02：Subduction zone earthquakes and tsunamis ➡	
	コンベンション ホールA (400)	S-VC48：火山・火成岩				★S-IT09：Hard-Rock Drilling		S-GL36：堆積盆 形成テクニクス	★P-EM04： Space Weather		➡	
	コンベンション ホールB (400)	O-05：地球科学と原子力発電		G-02： 総合的防災教育		★S-MP15： Oceanic/Continent Subduction Process-II	★S-MP13： Oceanic/Continent Subduction Process-I	U-03：地球惑星 科学連合と出版		S-VC49：火山現象の即時理解		
	201A (126)	S-SS26：地殻構造		★B-CG04： Earth and Planetary Frontiers		S-VC46： 火山防災	S-CG62：巨大地震と火山活動		S-VC45： 火山の熱水系	★S-CG20：Deep earthquakes		
	201B (123)	★S-IT07：Structure, dynamics of deep interiors			★S-SS04： Rethinking PSHA	★S-CG19： Hydrogen in the Earth's interior		★S-IT12：Tectonic processes on the incoming plate		S-GL39： 下部一中部更新統 境界GSSP	M-IS19： 南北両極の科学と 大型研究	
	202 (52)	★H-TT08：HD-topography & geophysical measurement		O-06：ダイバーシティ推進とは？		★A-OS03：Marine ecosystem and biogeochemistry		H-TT23：環境リモートセンシング		★A-CG06：Tropical ocean- atmosphere interaction		
	203 (45)	G-04：小・中・高・大の教育		S-TT53：ルミネッセンス年代		M-IS13：遠洋域の進化		M-IS14：大気電気学		P-CG20：宇宙探査計画と機器・技術		
3F	301A (85)	M-GI23： 新キッチン地球科学	M-TT29： ソーシャルメディア	O-01：地惑教育の資質・能力		A-AS13：ミクロスケール気象現象		★M-IS01： Changes in Northern Eurasia		A-CG23：水循環と陸海相互作用		
	301B (122)	★H-SC03： Socioecological Landscapes	M-ZZ32：地球 惑星科学の科学論	U-05：フューチャー・アース		H-GM14：地形		★H-GM01： Geomorphology	H-GG12： 2015年豪雨災害		➡	
	302 (154)	★S-TT18：Stress geomechanics		★A-AS02： Weather and climate simulations		★A-GE05：Mass Transport and Environ Assessment		S-CG61：K-NET20周年				S-GL40： 泥火山
	303 (154)	★P-CG10： Small Solar System Bodies	S-CG58：レオロジーと破壊・摩擦			★U-02：Earth and Planetary		★A-CG10：Satellite Earth obs.				
	304 (134)	H-TT24：地理情報システムと地図		★H-TT09：GIS and Cartography		★S-IT06：Core-mantle coevolution					H-CG25：原子力と地球惑星科学	
アパホテル&リゾート 東京ベイ幕張	A01 (126)	★P-EM03：MTI coupling					A-AS11：成層圏対流圏過程と気候				★M-IS02：IGGP	
	A02 (126)	★P-PS01：Outer solar system explorations			P-PS15： アルマで惑星科学	★M-GI04：Open Data in Earth & Planetary Sciences		B-CG09：生命-水-鉱物-大気		M-GI21：情報地球惑星科学		
	A03 (126)	M-IS06：生物地球化学			M-SD25： 宇宙農業	M-AG24：原発事故放射能の環境動態			M-IS10： 地球流体力学	★S-TT17：RAEG2016		
	A04 (126)	M-TT28：地球化学の最前線		M-TT27：データ駆動地球惑星科学		★A-CG08：Continental-Oceanic Mutual Interaction		M-IS17：古気候・古海洋変動 ➡				
	A05 (126)	S-TT54：SAR		S-GD22：重力・ジオイド		S-GD23：測地学一般・GGOS		S-SS32：地殻変動			S-CG60：地殻 流体と地殻変動	
	A07 (126)	M-IS12：結晶成長・溶解		S-GC50： 固体地惑化	H-CG28：閉鎖生態 系の生物システム	S-TT52： 空中地球計測	S-SS28：地震波伝播			M-GI22：計算惑星		
	A08 (126)	★S-CG21：slow earthquake science				S-CG63：変動帯ダイナミクス						

〈ポスター発表〉 幕張メッセ国際展示場 6 ホール

コアタイム	5月22日(日)	5月23日(月)	5月
17:15 18:30	O-02*/O-04/★P-PS01/P-PS13/P-PS15/★P-EM03/★P-EM04/★P-CG10/★A-AS02/★A-OS04/A-OS14/★H-SC03/★H-TT08/★H-TT09/H-TT24/H-CG26/H-CG27/H-CG28/S-GD22/★S-SS01/★S-SS04/S-SS26/S-SS29/★S-EM05/★S-IT07/S-GL37/S-VC48/S-GC50/★S-TT18/S-TT53/S-TT54/★S-CG21/S-CG58/★B-PT03/★B-CG04/G-02/G-03/G-04/M-IS06/M-IS12/M-GI23/M-SD25/M-TT27/M-TT28/M-TT29/M-ZZ32 *O-02のコアタイムは13:45~15:15	★P-PS02/★P-EM08/★P-EM09/A-AS11/A-AS13/★A-OS03/★A-GE05/★A-CG08/★A-CG09/★A-CG10/H-GG12/★H-GM01/H-GM14/H-SC16/H-TT23/★H-CG10/S-GD23/S-SS28/S-SS31/S-SS32/S-SS33/★S-IT06/★S-IT09/★S-IT12/S-GL36/★S-MP13/★S-MP15/S-VC45/S-VC46/S-TT51/S-TT52/★S-CG19/S-CG61/S-CG62/S-CG63/B-CG09/★G-01/★M-IS01/M-IS09/M-IS10/M-IS13/M-IS14/M-IS17/M-IS33/★M-GI04/M-AG24/M-TT30	P-PS12/★P-EM06/★P-EM07/P-CG20/★A-AS01/A-CG15/A-CG23/★H-DS06/H-RE20/H-TT21/H-TT22/S-SS25/S-EM34/★S-IT08/S-GL40/★S-MP14/S-VC47/★S-CG20/S-CG57/S-CG60/M-IS15/M-IS18/M-IS19/

5月24日(火)		5月25日(水)				5月26日(木)				会 場 (定員)
PM1	PM2	AM1	AM2	PM1	PM2	AM1	AM2	PM1	PM2	
13:45～15:15	15:30～17:00	9:00～10:30	10:45～12:15	13:45～15:15	15:30～17:00	9:00～10:30	10:45～12:15	13:45～15:15	15:30～17:00	
H-TT21：環境トレーサビリティ		M-IS07：ジオパーク		H-GG13：資源・環境の利用と管理		P-CG21：惑星大気圏・電磁圏		H-QR15：ヒト-環境系		101A (63)
★A-CG07：Asia-Pacific climate		A-CG22：陸域生態系の物質循環				A-HW17：水循環・水環境		P-CG21：惑星大気圏・電磁圏		101B (63)
U-06：大型研究マスタープラン		A-CC21：アイスコア		A-CC20：雪氷学		★H-CG11：River DELTAs				102 (70)
★P-EM07：Magnetosphere-Ionosphere			P-EM18：磁気圏・電離圏			M-IS16：地球掘削科学				103 (160)
⇒ P-PS12：太陽系惑星物質		P-PS14：宇宙物質		P-PS11：惑星科学						104 (160)
⇒ S-SS25：強震動・地震災害		B-PT05：地球史解説						S-SS24：地震予知・予測		105 (160)
P-EM16：大気圏・電離圏		S-SS30：地震活動		★S-SS03：Earthquake Predictability (CSEP-Japan)		★S-IT10：Do plumes exist?				106 (100)
⇒ ★S-SS02：Subduction zone earthquakes and tsunamis		S-EM35：地球惑星内部電磁気学		U-04：環境災害		M-IS11：津波堆積物				国際会議室 (456)
S-EM34：地磁気・古地磁気		緊急セッション M-IS34：2016年熊本地震		S-SS27：地震物理・断層レオロジー						コンベンション ホールA (400)
S-VC47：活動的火山				M-IS08：地震・火山電磁気現象		M-IS26：火山噴煙・積乱雲		S-VC47：活動的火山		コンベンション ホールB (400)
★S-IT08：Suboceanic Mantle		H-DS19：津波とその予測				★H-DS05：Landslides				201A (126)
M-IS15：南大洋・南極氷床		S-MP43：変形岩・変成岩			S-RD41：資源地質学		S-CG56：岩石・鉱物・資源			201B (123)
H-DS17：地質ハザード		A-HW18：同位体水文学2016		A-HW19：都市域の水環境と地質		M-TT31：低周波が繋ぐ多圏融合物理		★M-TT05：Cryoseismology		202 (52)
	A-CG15：サンゴ礁・藻場・ヒルギ林									203 (45)
A-CG15：サンゴ礁・藻場・ヒルギ林	M-GI20：山岳地域の自然環境変動	S-MP42：鉱物の物理化学		S-MP44：メルト-延性-脆性岩体				B-PT06：顕生代多様性	B-PT08：化学合成生態系の進化	301A (85)
H-RE20：温暖化防止		★H-SC02：Coupled Human-Water Systems		S-CG59：海洋底地球科学						301B (122)
P-EM17：宇宙プラズマ			P-EM19：太陽圏			A-HW16：水及び物質の輸送と循環				302 (154)
S-GL38：年代学・同位体		B-PT07：地球生命史		A-AS12：大気化学						303 (154)
⇒	M-IS18：海底マンガン鉱床	★M-IS03：Interdisciplinary studie		★S-GC16：Volatiles in the Deep Earth		A-CG24：北極域の科学				304 (134)
★B-AO01：Astrobiology										A01 (126)
⇒	S-TT55：HPCと固体地球科学の未来									A02 (126)
★A-AS01：Global Carbon Observation and Analysis										A03 (126)
⇒ M-IS17：古気候・古海洋変動										A04 (126)
★S-IT11：NE Asia and west Pac										A05 (126)
★S-MP14：Supercontinents and Crustal Evolution										A07 (126)
S-CG57：流体と沈み込み帯										A08 (126)

アパホテル&リゾート 東京ベイ幕張

24日(火)	5月25日(水)	5月26日(木) (コアタイムは 15:30-16:45)	コアタイム
/P-EM16/P-EM17/ ★A-CG06/★A-CG07/ ★H-DS07/H-DS17/ H-CG25/★S-SS02/ ★S-IT11/S-GL38/S-GL39/ S-VC49/★S-TT17/S-TT55/ ★B-AO01/★M-IS02/ M-GI20/M-GI21/M-GI22	P-PS11/P-PS14/★P-EM05/P-EM18/P-EM19/P-CG21/ A-AS12/A-HW17/A-HW18/A-HW19/A-CC20/A-CC21/ A-CG22/H-GG13/★H-SC02/H-DS19/★S-SS03/S-SS27/ S-SS30/S-EM35/S-RD41/S-MP42/S-MP43/S-MP44/ ★S-GC16/B-PT05/B-PT07/★M-IS03/M-IS07/M-IS08/ M-IS34* *M-IS34は26日まで継続掲示	P-CG21/A-HW16/A-CG24/H-QR15/★H-DS05/H-DS18/ ★H-CG11/S-SS24/★S-IT10/S-CG56/S-CG59/B-PT06/ B-PT08/M-IS11/M-IS16/M-IS26/M-IS34*/★M-TT05/ M-TT31	17:15 } 18:30

日本地球惑星科学連合 2016年大会 セッション一覧表

AM1 09:00-10:30 / AM2 10:45-12:15 / PM1 13:45-15:15 / PM2 15:30-17:00

ポスターコア会場：幕張メッセ国際展示場6ホール ★：国際セッション

記号:区分	セッション名称 (セッション名称短縮)	口頭発表開催日/会場	ポスターコア
U：ユニオン			
★U-01:	Geoscience and society (Geoscience and society)	24日 AM2/102	
★U-02:	Earth and Planetary satellite observation projects Part I (Earth and Planetary)	23日 AM1・AM2/303	
U-03:	日本地球惑星科学連合と学術出版による科学情報発信 (地球惑星科学連合と出版)	23日 PM1/コンベンションホールB	
U-04:	連合は環境・災害にどう向き合っていくのか? (環境災害)	25日 PM1・PM2/国際会議室	
U-05:	Future Earth - 持続可能な地球へ向けた統合的研究 (フューチャー・アース)	22日 PM1・PM2/301B	
U-06:	大型研究計画 - マスタープラン 2017 とその先を見据えて (大型研究マスタープラン)	24日 PM1・PM2/102	
O：パブリック			
O-01:	次期学習指導要領で求められる資質・能力の達成を目指して (地感教育の資質・能力)	22日 PM1・PM2/301A	
O-02:	高校生によるポスター発表 (高校生発表セッション)	22日 AM2/国際会議室	22日 13:45-15:15
O-03:	地球・惑星科学トップセミナー (地球惑星トップセミナー)	22日 AM1/国際会議室	
O-04:	ジオパークへ行こう (ジオパークへ行こう)	22日 PM1・PM2/国際会議室	22日 17:15-18:30
O-05:	地球科学界と原子力発電の関係 - 浜岡原発を題材として - (地球科学と原子力発電)	22日 AM1・AM2/コンベンションホールB	
O-06:	JpGU 所属の学生・研究者にのってのダイバーシティ推進とは何か? (ダイバーシティ推進とは?)	22日 PM1・PM2/202	
P：宇宙惑星科学			
【PS：惑星科学】			
★P-PS01:	Outer Solar System Exploration Today, and Tomorrow (Outer solar system explorations)	22日 AM1-PM1/A02	22日 17:15-18:30
★P-PS02:	Mars (Mars)	23日 PM1・PM2/104	23日 17:15-18:30
P-PS11:	惑星科学 (惑星科学)	25日 PM1-26日 PM1/104	25日 17:15-18:30
P-PS12:	太陽系における惑星物質の形成と進化 (太陽系惑星物質)	24日 AM1-PM2/104	24日 17:15-18:30
P-PS13:	月の科学と探査 (月の科学と探査)	22日 AM1-PM1/104	22日 17:15-18:30
P-PS14:	宇宙における物質の形成と進化 (宇宙物質)	25日 AM1・AM2/104	25日 17:15-18:30
P-PS15:	アルマによる惑星科学の新展開 (アルマで惑星科学)	22日 PM1/A02	22日 17:15-18:30
【EM：太陽地球系科学・宇宙電磁気学・宇宙環境】			
★P-EM03:	Mesosphere-Thermosphere-Ionosphere Coupling in the Earth's Atmosphere (MTI coupling)	22日 AM1-PM2/A01 24日 AM1/106	22日 17:15-18:30
★P-EM04:	Space Weather, Space Climate, and VarSITI (Space Weather)	22日 AM1-23日 AM1/103 23日 PM2/コンベンションホールA	22日 17:15-18:30
★P-EM05:	Cosmophysical plasma jets (Jets)		25日 17:15-18:30
★P-EM06:	Magnetospheric Multi-Scale (MMS) mission -- A new age of magnetospheric physics (Magnetospheric Multi-Scale (MMS) mission)	24日 AM1・AM2/103	24日 17:15-18:30
★P-EM07:	Dynamics in magnetosphere and ionosphere (Magnetosphere-Ionosphere)	24日 PM1-25日 AM1/103	24日 17:15-18:30
★P-EM08:	Inner magnetosphere: Latest results and new perspectives (Inner magnetosphere)	23日 AM2-PM2/103	23日 17:15-18:30
★P-EM09:	Study of coupling processes in solar-terrestrial system (Coupling processes in Sun-Earth system)	23日 AM2-PM2/106	23日 17:15-18:30
P-EM16:	大気圏・電離圏 (大気圏・電離圏)	24日 AM2-PM2/106	24日 17:15-18:30
P-EM17:	宇宙プラズマ理論・シミュレーション (宇宙プラズマ)	24日 PM1-25日 AM1/302	24日 17:15-18:30
P-EM18:	磁気圏-電離圏ダイナミクス (磁気圏・電離圏)	25日 AM2-PM2/103	25日 17:15-18:30
P-EM19:	太陽圏・惑星間空間 (太陽圏)	25日 AM2・PM1/302	25日 17:15-18:30
【CG：宇宙惑星科学複合領域・一般】			
★P-CG10:	Small Solar System Bodies: General and Mars Satellite Sample Return Mission (Small Solar System Bodies)	22日 AM1/303 22日 PM2-23日 AM2/104	22日 17:15-18:30
P-CG20:	宇宙科学・探査の将来計画と関連する機器・技術の現状と展望 (宇宙探査計画と機器・技術)	24日 AM1・AM2/203	24日 17:15-18:30
P-CG21:	惑星大気圏・電磁圏 (惑星大気圏・電磁圏)	25日 PM2/101A 26日 AM1-PM1/101B	26日 15:30-16:45
A：大気水圏科学			
【AS：大気科学・気象学・大気環境】			
★A-AS01:	Global Carbon Cycle Observation and Analysis (Global Carbon Observation and Analysis)	24日 PM1・PM2/A03	24日 17:15-18:30
★A-AS02:	High performance computing of next generation weather, climate, and environmental sciences using K (Weather and climate simulations)	22日 PM1・PM2/302 23日 AM1/102	22日 17:15-18:30
A-AS11:	成層圏・対流圏過程とその気候への影響 (成層圏対流圏過程と気候)	23日 AM2-PM2/A01	23日 17:15-18:30
A-AS12:	大気化学 (大気化学)	25日 PM1-26日 AM2/303	25日 17:15-18:30
A-AS13:	ミクロスケール気象現象解明にむけた稠密観測・予報の新展開 (ミクロスケール気象現象)	23日 AM1・AM2/301A	23日 17:15-18:30
【OS：海洋科学・海洋環境】			
★A-OS03:	Marine ecosystem and biogeochemical cycles: theory, observation and modeling (Marine ecosystem and biogeochemistry)	23日 AM1・AM2/202	23日 17:15-18:30
★A-OS04:	Ocean Mixing Frontiers (Ocean Mixing Frontiers)	22日 PM1・PM2/102	22日 17:15-18:30
A-OS14:	「海洋混合学」物質循環・気候・生態系の維持と長周期変動の解明 (海洋混合学)	22日 AM2/102	22日 17:15-18:30
【HW：水文・陸水・地下水・水環境】			
A-HW16:	流域生態系の水及び物質の輸送と循環 - 源流域から沿岸域まで - (水及び物質の輸送と循環)	26日 AM1-PM1/302	26日 15:30-16:45
A-HW17:	水循環・水環境 (水循環・水環境)	25日 PM2/101B	25日 17:15-18:30
A-HW18:	同位体水文学 2016 (同位体水文学 2016)	25日 AM1・AM2/202	25日 17:15-18:30
A-HW19:	都市域の水環境と地質 (都市域の水環境と地質)	25日 PM1/202	25日 17:15-18:30
【CC：雪氷学・寒冷環境】			
A-CC20:	雪氷学 (雪氷学)	25日 PM1・PM2/102	25日 17:15-18:30
A-CC21:	アイスコアと古環境変動 (アイスコア)	25日 AM1・AM2/102	25日 17:15-18:30
【GE：地質環境・土壌環境】			
★A-GE05:	Subsurface Mass Transport and Environmental Assessment (Mass Transport and Environ Assessment)	23日 AM1・AM2/302	23日 17:15-18:30
【CG：大気水圏科学複合領域・一般】			
★A-CG06:	Multi-scale ocean-atmosphere interaction in the tropics (Tropical ocean-atmosphere interaction)	24日 AM1・AM2/202	24日 17:15-18:30
★A-CG07:	Asia-Pacific climate variations on diurnal to secular time scales (Asia-Pacific climate)	24日 PM1・PM2/101B	24日 17:15-18:30
★A-CG08:	Continental-Oceanic Mutual Interaction: Global-scale Material Circulation through River Runoff (Continental-Oceanic Mutual Interaction)	23日 AM1・AM2/A04	23日 17:15-18:30
★A-CG09:	Development and application of land and ocean biogeochemistry components of Earth system models (Earth System Modeling)	23日 PM1・PM2/102	23日 17:15-18:30
★A-CG10:	Earth and Planetary satellite observation project Part II (Satellite Earth obs.)	23日 PM1-24日 AM2/303	23日 17:15-18:30
A-CG15:	沿岸海洋生態系 - 2. サンゴ礁・海草藻場・マングローブ (サンゴ礁・藻場・ヒルギ林)	24日 PM1/301A 24日 PM2/203	24日 17:15-18:30
A-CG22:	陸域生態系の物質循環 (陸域生態系の物質循環)	25日 AM1-PM1/101B	25日 17:15-18:30
A-CG23:	沿岸海洋生態系 - 1. 水循環と陸海相互作用 (水循環と陸海相互作用)	24日 AM1・AM2/301A	24日 17:15-18:30
A-CG24:	北極域の科学 (北極域の科学)	26日 AM1-PM1/304	26日 15:30-16:45
H：地球人間圏科学			
【GG：地理学】			
H-GG12:	平成 27 年 9 月関東・東北豪雨災害 (2015 年豪雨災害)	23日 PM1/301B	23日 17:15-18:30
H-GG13:	自然資源・環境の利用と管理 (資源・環境の利用と管理)	25日 PM1/101A	25日 17:15-18:30
【GM：地形学】			
★H-GM01:	Geomorphology (Geomorphology)	23日 PM1/301B	23日 17:15-18:30
H-GM14:	地形 (地形)	23日 AM1・AM2/301B	23日 17:15-18:30

記号:区分 セッション名称 (セッション名称短縮)	口頭発表開催日/会場	ポスターコア
【QR: 第四紀学】		
H-QR15: ヒト-環境系の時系列ダイナミクス (ヒト-環境系)	26日 AM1・AM2/101A	26日 15:30-16:45
【QR: 第四紀学】		
★H-SC02: Coupled Human-Water Dynamics across Scales: Observations, Understanding, Modeling, and Management (Coupled Human-Water Systems)	25日 AM1・AM2/301B	25日 17:15-18:30
★H-SC03: Complexity, Change and Adaptive Management of Socioecological Landscapes: An Earth System Perspective (Socioecological Landscapes)	22日 AM1/301B	22日 17:15-18:30
★H-SC04: Implementing Geoscience Research for the Earth's Future (Future Earth, international)	23日 AM2/101A	
H-SC16: 人間環境と災害リスク (人間環境と災害リスク)	23日 AM1・AM2/105	23日 17:15-18:30
【DS: 防災地球科学】		
★H-DS05: Landslides and related phenomena (Landslides)	26日 AM1・AM2/201A	26日 15:30-16:45
★H-DS06: Natural hazards impacts on the society, economics and technological systems (Natural hazards impacts on technosphere)	24日 AM1/101A	24日 17:15-18:30
★H-DS07: Monitoring and prediction of natural disasters using new methodologies (Monitoring and prediction of disasters)	24日 AM1・AM2/101B	24日 17:15-18:30
H-DS17: 湿潤変動帯の地質災害とその前兆 (地質ハザード)	24日 PM1・PM2/202	24日 17:15-18:30
H-DS18: 海底地すべりとその関連現象 (海底地すべり)		26日 15:30-16:45
H-DS19: 津波とその予測 (津波とその予測)	25日 AM1-PM2/201A	25日 17:15-18:30
【RE: 応用地質学・資源エネルギー利用】		
H-RE20: 地球温暖化防止と地学 (CO ₂ 地中貯留・有効利用, 地球工学) (温暖化防止)	24日 AM2-PM2/301B	24日 17:15-18:30
【TT: 計測技術・研究手法】		
★H-TT08: Geoscientific applications of high-definition topography and geophysical measurements (HD-topography & geophysical measurement)	22日 AM1・AM2/202	22日 17:15-18:30
★H-TT09: Geographic Information Systems and Cartography (GIS and Cartography)	22日 PM1・PM2/304	22日 17:15-18:30
H-TT21: 環境トレーサビリティ手法の開発と適用 (環境トレーサビリティ)	24日 AM2-PM2/101A	24日 17:15-18:30
H-TT22: UAV が拓く新しい世界 (UAV が拓く新しい世界)	24日 AM1/102	24日 17:15-18:30
H-TT23: 環境リモートセンシング (環境リモートセンシング)	23日 PM1・PM2/202	23日 17:15-18:30
H-TT24: 地理情報システムと地図・空間表現 (地理情報システムと地図)	22日 AM1・AM2/304	22日 17:15-18:30
【CG: 地球人間科学複合領域・一般】		
★H-CG10: International comparison of landscape appreciation (Landscape appreciation)	23日 PM1・PM2/101A	23日 17:15-18:30
★H-CG11: DELTAS: multidisciplinary analyses of complex systems (River DELTAS)	26日 AM1・AM2/102	26日 15:30-16:45
H-CG25: 原子力と地球惑星科学 (原子力と地球惑星科学)	24日 AM1-PM1/304	24日 17:15-18:30
H-CG26: 堆積・侵食・地形発達プロセスから読み取る地球表層環境変動 (堆積・侵食と地球表層環境)	22日 PM1/105	22日 17:15-18:30
H-CG27: 環境問題の現場における Scientists と Stakeholders との協働 (Scientists と Stakeholders)	22日 AM1/102	22日 17:15-18:30
H-CG28: 閉鎖生態系における生物のシステムを介した物質循環 (閉鎖生態系の生物システム)	22日 PM2/A07	22日 17:15-18:30
S: 固体地球科学		
【GD: 測地学】		
S-GD22: 重力・ジオイド (重力・ジオイド)	22日 PM1・PM2/A05	22日 17:15-18:30
S-GD23: 測地学一般・GGOS (測地学一般・GGOS)	23日 AM1・AM2/A05	23日 17:15-18:30
【SS: 地震学】		
★S-SS01: Earthquake early warning developments around the world (Earthquake Early Warning development)	22日 AM1・AM2/106	22日 17:15-18:30
★S-SS02: Frontier studies on subduction zone megathrust earthquakes and tsunamis (Subduction zone earthquakes and tsunamis)	24日 AM1-PM2/国際会議室	24日 17:15-18:30
★S-SS03: New frontiers in earthquake statistics, physics-based earthquake forecasting, and earthquake model testing (Earthquake Predictability (CSEP-Japan))	25日 PM1・PM2/106	25日 17:15-18:30
★S-SS04: Rethinking Probabilistic Seismic Hazard Analysis (Rethinking PSHA)	22日 PM2/201B	22日 17:15-18:30
S-SS24: 地震予知・予測 (地震予知・予測)	26日 PM1/105	26日 15:30-16:45
S-SS25: 強震動・地震災害 (強震動・地震災害)	24日 AM1-PM2/105	24日 17:15-18:30
S-SS26: 地殻構造 (地殻構造)	22日 AM1・AM2/201A	22日 17:15-18:30
S-SS27: 地震発生の物理・断層のレオロジー (地震物理・断層レオロジー)	25日 PM1-26日 PM1/コンベンションホールA	25日 17:15-18:30
S-SS28: 地震波伝播: 理論と応用 (地震波伝播)	23日 AM2-PM2/A07	23日 17:15-18:30
S-SS29: 地震動・地殻変動・火山データの即時把握・即時解析・即時予測 (地震動・地殻変動即時解析)	22日 PM1・PM2/106	22日 17:15-18:30
S-SS30: 地震活動 (地震活動)	25日 AM1・AM2/106	25日 17:15-18:30
S-SS31: 活断層と古地震 (活断層と古地震)	23日 AM1-PM2/国際会議室	23日 17:15-18:30
S-SS32: 地殻変動 (地殻変動)	23日 PM1-24日 AM1/A05	23日 17:15-18:30
S-SS33: 都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト (都市災害プロジェクト)	23日 PM1・PM2/105	23日 17:15-18:30
【EM: 固体地球電磁気学】		
★S-EM05: Full vector geomagnetic and paleomagnetic secular variation: direction, intensity and dynamo simulations (Geomagnetic secular variation)	22日 AM1・AM2/105	22日 17:15-18:30
S-EM34: 地磁気・古地磁気・岩石磁気 (地磁気・古地磁気)	24日 AM2-PM2/コンベンションホールA	24日 17:15-18:30
S-EM35: 電気伝導度・地殻活動電磁気学 (地球惑星内部電磁気学)	25日 AM1・AM2/国際会議室	25日 17:15-18:30
【IT: 地球内部科学・地球惑星テクトニクス】		
★S-IT06: Interaction and Coevolution of the Core and Mantle (Core-mantle coevolution)	23日 AM1-PM2/304	23日 17:15-18:30
★S-IT07: Structure and dynamics of Earth and Planetary deep interiors (Structure, dynamics of deep interiors)	22日 AM1-PM1/201B	22日 17:15-18:30
★S-IT08: Structure and Dynamics of Suboceanic Mantle (Suboceanic Mantle)	24日 PM1・PM2/201A	24日 17:15-18:30
★S-IT09: Hard-Rock Drilling: Oceanic Lithosphere to Continental Crust Formation (Hard-Rock Drilling)	23日 AM1・AM2/コンベンションホールA	23日 17:15-18:30
★S-IT10: Do plumes exist? (Do plumes exist?)	26日 AM1/106	26日 15:30-16:45
★S-IT11: Geodynamic evolution of northeast Asia and western Pacific (NE Asia and west Pac)	24日 PM1・PM2/A05	24日 17:15-18:30
★S-IT12: Tectonic processes on the incoming plate seaward of the trench: Inputs to subduction zones (Tectonic processes on the incoming plate)	23日 PM1・PM2/201B	23日 17:15-18:30
【GL: 地質学】		
S-GL36: プレート収束境界における堆積盆形成テクトニクスの新たな展望 (堆積盆形成テクトニクス)	23日 PM2/コンベンションホールA	23日 17:15-18:30
S-GL37: 地域地質と構造発達史 (地域地質と構造発達史)	22日 PM1・PM2/101B	22日 17:15-18:30
S-GL38: 地球年代学・同位体地球科学 (年代学・同位体)	24日 PM1・PM2/303	24日 17:15-18:30
S-GL39: 上総層群における下部-中部更新統境界 GSSP (下部-中部更新統境界 GSSP)	24日 AM1/201B	24日 17:15-18:30
S-GL40: 「泥火山」の新しい研究展開に向けて (泥火山)	24日 AM2/302	24日 17:15-18:30
【RD: 資源・鉱床・資源探査】		
S-RD41: 資源地質学 (資源地質学)	25日 PM2/201B	25日 17:15-18:30
【MP: 岩石学・鉱物学】		
★S-MP13: Oceanic and Continental Subduction Processes-I, from petrologic-geochemical perspective (Oceanic/Continent Subduction Process-I)	23日 AM2/コンベンションホールB	23日 17:15-18:30
★S-MP14: Supercontinents and Crustal Evolution (Supercontinents and Crustal Evolution)	24日 PM1・PM2/A07	24日 17:15-18:30
★S-MP15: Oceanic and Continental Subduction Processes-II, from structural-petrologic perspective (Oceanic/Continent Subduction Process-II)	23日 AM1/コンベンションホールB	23日 17:15-18:30
S-MP42: 鉱物の物理化学 (鉱物の物理化学)	25日 AM1・AM2/301A	25日 17:15-18:30
S-MP43: 変形岩・変成岩とテクトニクス (変形岩・変成岩)	25日 AM1-PM1/201B	25日 17:15-18:30
S-MP44: マルトー延性-脆性岩体のダイナミクスとエネルギー・システム (マルトー延性-脆性岩体)	25日 PM1・PM2/301A	25日 17:15-18:30
【VC: 火山学】		
S-VC45: 火山の熱水系 (火山の熱水系)	23日 PM2/201A	23日 17:15-18:30
S-VC46: 火山防災の基礎と応用 (火山防災)	23日 AM1/201A	23日 17:15-18:30

記号:区分 セッション名称 (セッション名称短縮)	口頭発表開催日/会場	ポスターコア
S-VC47: 活動的火山 (活動的火山)	24日 PM1-25日PM1・ 26日 PM1/コンベンションホールB	24日 17:15-18:30
S-VC48: 火山・火成活動と長期予測 (火山・火成岩)	22日 AM1-PM2/コンベンションホールA	22日 17:15-18:30
S-VC49: 火山現象の即時理解: 地球物理・物質科学観測と物理モデルの統合 (火山現象の即時理解)	24日 AM1・AM2/コンベンションホールB	24日 17:15-18:30
[GC: 固体地球化学]		
★S-GC16: Volatile Cycles in the Deep Earth - from Subduction Zones to the Mantle and Core (Volatiles in the Deep Earth)	25日 PM1・PM2/304	25日 17:15-18:30
S-GC50: 固体地球化学・惑星化学 (固体地惑化)	22日 PM1/A07	22日 17:15-18:30
[TT: 計測技術・研究手法]		
★S-TT17: Recent Advances in Exploration Geophysics (RAEG2016) (RAEG2016)	24日 AM1・AM2/A03	24日 17:15-18:30
★S-TT18: Stress geomechanics: observations, modelings and implications (Stress geomechanics)	22日 AM1・AM2/302	22日 17:15-18:30
S-TT51: 地震観測・処理システム (地震観測・処理システム)	23日 AM2/102	23日 17:15-18:30
S-TT52: 空中からの地球計測とモニタリング (空中地球計測)	23日 AM1/A07	23日 17:15-18:30
S-TT53: 地球科学へのルミネッセンス年代測定の貢献 (ルミネッセンス年代)	22日 PM1・PM2/203	22日 17:15-18:30
S-TT54: 合成開口レーダー (SAR)	22日 AM1・AM2/A05	22日 17:15-18:30
S-TT55: ハイパフォーマンスコンピューティングが拓く固体地球科学の未来 (HPCと固体地球科学の未来)	24日 PM2/A02	24日 17:15-18:30
[CG: 固体地球科学複合領域・一般]		
★S-CG19: Hydrogen in the Earth's interior from the crust to the core (Hydrogen in the Earth's interior)	23日 AM1・AM2/201B	23日 17:15-18:30
★S-CG20: Intermediate-depth and deep earthquakes (Deep earthquakes)	24日 AM1・AM2/201A	24日 17:15-18:30
★S-CG21: Recent advances and future directions in slow earthquake science (slow earthquake science)	22日 AM1-PM2/A08	22日 17:15-18:30
S-CG56: 岩石・鉱物・資源 (岩石・鉱物・資源)	26日 AM1-PM1/201B	26日 15:30-16:45
S-CG57: 流体と沈み込み帯のダイナミクス (流体と沈み込み帯)	24日 PM1・PM2/A08	24日 17:15-18:30
S-CG58: 地球惑星科学におけるレオロジーと破壊・摩擦の物理 (レオロジーと破壊・摩擦)	22日 AM2-PM2/303	22日 17:15-18:30
S-CG59: 海洋底地球科学 (海洋底地球科学)	25日 PM1-26日 PM1/301B	26日 15:30-16:45
S-CG60: 地殻流体と地殻変動 (地殻流体と地殻変動)	24日 AM2/A05	24日 17:15-18:30
S-CG61: K-NET 運用開始から 20 年: 強震観測網のこれまでとこれから (K-NET 20 周年)	23日 PM1・PM2/302	23日 17:15-18:30
S-CG62: 巨大地震と火山活動: 火山活性化過程の基礎研究 (巨大地震と火山活動)	23日 AM2・PM1/201A	23日 17:15-18:30
S-CG63: 変動帯ダイナミクス (変動帯ダイナミクス)	23日 AM1-24日 AM2/A08	23日 17:15-18:30
B: 地球生命科学		
[AO: 宇宙生物学・生命起源]		
★B-AO01: Astrobiology: Origins, Evolution, Distribution of Life (Astrobiology)	24日 PM1・PM2/A01	24日 17:15-18:30
[PT: 古生物学・古生態学]		
★B-PT03: Biomineralization and the Geochemistry of Proxies-Field ecology, Laboratory culture and Paleo (Biocalcification and Proxies)	22日 AM1・AM2/101B	22日 17:15-18:30
B-PT05: 地球史解説: 冥王代から現代まで (地球史解説)	25日 AM1-PM2/105	25日 17:15-18:30
B-PT06: 顕生代生物多様性の変遷: 絶滅と多様化 (顕生代多様性)	26日 AM2/301A	26日 15:30-16:45
B-PT07: 地球生命史 (地球生命史)	25日 AM1・AM2/303	25日 17:15-18:30
B-PT08: 化学合成生態系の進化をめぐって (化学合成生態系の進化)	26日 PM1/301A	26日 15:30-16:45
[PT: 古生物学・古生態学]		
★B-CG04: Earth and Planetary Science Frontiers for Life and Global Environment (Earth and Planetary Frontiers)	22日 PM1・PM2/201A	22日 17:15-18:30
B-CG09: 生命-水-鉱物-大気相互作用 (生命-水-鉱物-大気)	23日 PM1・PM2/A02	23日 17:15-18:30
G: 教育・アウトリーチ		
★G-01: Ocean Education in tomorrow classrooms (Ocean Education in tomorrow classrooms)		23日 17:15-18:30
G-02: 災害を乗り越えるための「総合的防災教育」(総合的防災教育)	22日 PM1/コンベンションホールB	22日 17:15-18:30
G-03: 地球惑星科学のアウトリーチ (アウトリーチ)	22日 AM1-PM2/101A	22日 17:15-18:30
G-04: 小・中・高・大の地球惑星科学教育 (小・中・高校の教育)	22日 AM1・AM2/203	22日 17:15-18:30
M: 領域外・複合領域		
[IS: ジョイント]		
★M-IS01: Environmental, socio-economic and climatic changes in Northern Eurasia and their feedbacks to the Earth System (Changes in Northern Eurasia)	23日 PM1・PM2/301A	23日 17:15-18:30
★M-IS02: International Geosciences and Geoparks Programme のこれから (IGGP)	24日 AM1・AM2/A01	24日 17:15-18:30
★M-IS03: Interdisciplinary studies on pre-earthquake processes (Interdisciplinary studie)	25日 AM1・AM2/304	25日 17:15-18:30
M-IS06: 生物地球化学 (生物地球化学)	22日 AM1-PM1/A03	22日 17:15-18:30
M-IS07: ジオパーク (ジオパーク)	25日 AM1・AM2/101A	25日 17:15-18:30
M-IS08: 地震・火山等の地殻活動に伴う地圏・大気圏・電離圏電磁現象 (地震・火山電磁気現象)	25日 PM2/コンベンションホールB	25日 17:15-18:30
M-IS09: ガスハイドレートと地球環境・資源科学 (ガスハイドレート)	23日 AM1-PM1/101B	23日 17:15-18:30
M-IS10: 地球流体力学: 地球惑星現象への分野横断的アプローチ (地球流体力学)	23日 PM2/A03	23日 17:15-18:30
M-IS11: 津波堆積物 (津波堆積物)	26日 AM1-PM1/国際会議室	26日 15:30-16:45
M-IS12: 結晶成長・溶解における界面・ナノ現象 (結晶成長・溶解)	22日 AM1・AM2/A07	22日 17:15-18:30
M-IS13: 遠洋域の進化 (遠洋域の進化)	23日 AM1・AM2/203	23日 17:15-18:30
M-IS14: 大気電気学 (大気電気学)	23日 PM1・PM2/203	23日 17:15-18:30
M-IS15: 南大洋・南極氷床が駆動する全球気候変動 (南大洋・南極氷床)	24日 PM1・PM2/201B	24日 17:15-18:30
M-IS16: 地球掘削科学 (地球掘削科学)	26日 AM1-PM1/103	26日 15:30-16:45
M-IS17: 古気候・古海洋変動 (古気候・古海洋変動)	23日 PM1-24日 PM2/A04	23日 17:15-18:30
M-IS18: 海底マンガングル床の生成・環境・起源 (海底マンガングル床)	24日 PM2/304	24日 17:15-18:30
M-IS19: 南北両極のサイエンスと大型研究 (南北両極の科学と大型研究)	24日 AM2/201B	24日 17:15-18:30
M-IS26: 火山噴煙・積乱雲のモデリングとリモートセンシング (火山噴煙・積乱雲)	26日 AM1・AM2/コンベンションホールB	26日 15:30-16:45
M-IS33: 地球惑星科学と微生物生態学の接点 (微生物生態)	23日 AM1/106	23日 17:15-18:30
M-IS34: 緊急セッション: 熊本地震	25日 AM1・AM2/コンベンションホールA	25日 17:15-18:30 26日 15:30-16:45
[GI: 地球科学一般・情報地球科学]		
★M-GI04: Open Research Data and Interoperable Science Infrastructures for Earth & Planetary Sciences (Open Data in Earth & Planetary Sciences)	23日 AM1・AM2/A02	23日 17:15-18:30
M-GI20: 山岳地域の自然環境変動 (山岳地域の自然環境変動)	24日 PM2/301A	24日 17:15-18:30
M-GI21: 情報地球惑星科学と大量データ処理 (情報地球惑星科学)	24日 AM1-PM1/A02	24日 17:15-18:30
M-GI22: 計算科学による惑星形成・進化・環境変動研究の新展開 (計算惑星)	24日 AM1・AM2/A07	24日 17:15-18:30
M-GI23: 新キッチン地球科学, 頭脳活性化ツールとしての役割 (新キッチン地球科学)	22日 AM1/301A	22日 17:15-18:30
[AG: 応用地球科学]		
M-AG24: 福島原発事故により放出された放射性核種の環境動態 (原発事故放射能の環境動態)	23日 AM1-PM1/A03	23日 17:15-18:30
[SD: 宇宙開発・地球観測]		
M-SD25: 宇宙食と宇宙農業 (宇宙農業)	22日 PM2/A03	22日 17:15-18:30
[TT: 計測技術・研究手法]		
★M-TT05: Cryoseismology - a new proxy for detecting surface environmental variations of the Earth - (Cryoseismology)	26日 AM2・PM1/202	26日 15:30-16:45
M-TT27: 地球惑星科学データ解析の新展開: データ駆動型アプローチ (データ駆動地球惑星科学)	22日 PM1・PM2/A04	22日 17:15-18:30
M-TT28: 地球化学の最前線: 未来の地球化学を展望して (地球化学の最前線)	22日 AM1・AM2/A04	22日 17:15-18:30
M-TT29: ソーシャルメディアと地球惑星科学 (ソーシャルメディア)	22日 AM2/301A	22日 17:15-18:30
M-TT30: 統合物理探査 (統合物理探査)	23日 PM2/101B	23日 17:15-18:30
M-TT31: インフラサウンド及び関連波動が繋ぐ多圏融合地球物理学の新描像 (低周波が繋ぐ多圏融合物理)	26日 AM1/202	26日 15:30-16:45
[ZZ: その他]		
M-ZZ32: 地球科学の科学史・科学哲学・科学技術社会論 (地球惑星科学の科学論)	22日 AM2/301B	22日 17:15-18:30

2016/05/06 第1回理事会

Board of Directors meeting #1

JpGU2017年大会準備タスクフォース 理事会報告 末廣 潔 (TFヘッド)

Report to Board of Directors K. Suyehiro (JpGU Task Force for 2017 Meeting)

前回第6回理事会 (03/10/2016) 以降の活動状況と活動方針 (since 3/10/16)
カレンダー

4/4 AGU と会合 (AGU_HQ) 2016/2017

4/6 NASA と会合 (NASA_HQ) Hyperwall など

4/8 AGU と会合 (AGU_HQ) 2017/ORCiD

1: 2016 年大会の AGU とのジョイントセッション及び関連イベント

JpGU-AGU Joint Sessions and events at 2016 Makuhari annual meeting

○ Oral sessions 3/12; O+P 45/178; P only 0/3=48/193

○ Great Debate (T Nishiyama and D-D Rousseau: conveners; A Taira: moderator) Geoscience and Society –The era of mega-disaster: what can we do for the society- 2016 年 AGU 大会・2017JpGU/AGU へ継続予定

○ Dinner with AGU President, CEO (5/22).

○ Four Unions' business meeting (5/26). Follow-up of 2015 Communiqué.

2: 2017 年大会の AGU とのジョイント大会及び関連イベント

JpGU-AGU Joint Meeting and events at 2017 Makuhari

○ ジョイント大会については、大会中のイベントは展示も含めて全て合同企画となる。学生旅費援助も共同して応募側から分かりやすくする。AGU 大会で行われている若手向け WS、ライブストリーミングなど対応を考える必要がある。

○ AGU 側からの 5 名のプログラム委員は最終決定中 (共同委員長は Liu Huixin 教授と入舩徹男教授)。

○ 大会参加登録システムは 2016 年システムの機能改善版を用いる。

○ AGU への期待値: +800 投稿数、+40 新セッション、>5000 発表数 (大会運営委員会からの採算ライン)。

3: 国際化の方針の具現 Implementation of the internationalization policy

○ AGU との今後の協力様式の検討必要。

構成メンバー (6 名) :

末廣潔 (TF ヘッド・事務局・GSC)、近藤康久 (情報システム)、高橋幸弘 (広報普及)、西山忠男 (2016 プログラム委員長)、三宅弘恵 (GSC)、Liu HuiXin (2017 プログラム委員長)

Y Kondo, H Liu, H Miyake, T Nishiyama, K Suyehiro, Y Takahashi

アドバイザーメンバー (6 名)

北和之 (財務委員長・理事)、木村学 (GSC 委員長・理事)、島津浩哲 (大会システム、8/19~)、浜野洋三 (大会運営委員長・理事・事務局長)、古村孝志 (総務委員長・理事)、村山泰啓 (情報システム委員長・理事)、

T Furumura, Y Hamano, G Kimura, K Kita, Y Murayama, H Shimazu

公益社団法人日本地球惑星科学連合

平成 28 年度 定時社員総会

資料

日 時 平成 28 年 5 月 23 日（月） 15 時 30 分～16 時 30 分
場 所 千葉幕張メッセ国際会議場 コンベンションホール B
(〒261-0023 千葉市美浜区中瀬 2-1)

目的事項

報告事項

- (1) 平成 27 年度（公益社団法人第 5 期）事業報告の件
- (2) 平成 28 年度（公益社団法人第 6 期）事業計画書及び収支予算書等の件
- (3) 団体会員に関する定款及び関連規則変更の検討状況報告
- (4) 法人運営基本規則第 10 条 2（再入会時の未納会費について）変更の検討状況報告
- (5) その他

決議事項

- (1) 第 1 号議案 平成 27 年度（公益社団法人第 5 期）決算承認の件
- (2) 第 2 号議案 役員（理事、監事）選任の件
- (3) 第 3 号議案 熊本・大分地震災害に関する声明

資料	1. 平成 27 年度事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 1～37
	2. 平成 28 年度事業計画書・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 38～51
	3. 平成 28 年度収支予算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 52～53
	4. 団体会員に関する定款及び関連規則変更の検討状況報告・・P. 54～56
	5. 法人運営基本規則第 10 条 2 変更の検討状況報告・・・・・・・・P. 57
	6. 平成 27 年度決算報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 58
	1) 貸借対照表・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 58
	2) 正味財産増減計算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 59
	3) 正味財産増減計算書内訳表・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 60
	4) 財務諸表に対する注記・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 61～62
	5) 附属明細書・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 62
	6) 財産目録・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 63
	7) 監査報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 64～66
	7. 役員候補者推薦委員会名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 67
	役員候補者推薦委員会議事録・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 68～69
	理事候補者選挙 投票結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 70
	理事候補者推薦一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 71～72

平成 27 年度 事業報告

自 平成 27 年 4 月 1 日

至 平成 28 年 3 月 31 日

公益社団法人日本地球惑星惑星科学連合

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4 階

電話：03-6914-2080

Fax：03-6914-2088

平成 27 年度 事 業 報 告

公益社団法人第 5 期（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

公益社団法人日本地球惑星科学連合が定款に定める事業の概要は以下の通りである。

1. 地球惑星科学に関わる研究発表会及び国際会議等の開催

- （1）日本地球惑星科学連合 2015 年大会（連合大会）の開催 [定款第 5 条（1）]
- （2）国際セッション・シンポジウム「JpGU International Session 2015」の開催 [定款第 5 条（1）]
- （3）公開プログラム「高校生によるポスター発表」の開催 [定款第 5 条（1）、（2）]
- （4）一般公開講演会の開催 [定款第 5 条（2）]
- （5）地球惑星科学関連、教育機関、学協会、プロジェクトの紹介・展示 [定款第 5 条（2）]
- （6）地球惑星科学関連資料・書籍の展示・頒布 [定款第 5 条（7）]

2. 学会誌その他の刊行物の発行と情報発信

- （1）学術雑誌等の出版の高度化 [定款第 5 条（2）]
- （2）加盟学協会による学術誌等の出版推進 [定款第 5 条（2）]
- （3）ニュースレター誌「Japan Geoscience Letters (JGL)」の発行 [定款第 5 条（2）]
- （4）ウェブ、メールニュースを活用した広報・普及事業 [定款第 5 条（2）]

3. 地球惑星科学コミュニティの意見集約と国および社会一般への諸要請への対応

- （1）学協会長会議の開催 [定款第 5 条（3）]
- （2）地球惑星科学コミュニティの意見集約 [定款第 5 条（3）（6）]

4. 地球惑星科学に関わる外国学協会との連携と国際プロジェクトの推進

- （1）地球惑星科学に関わる国際学協会との連携及び協力 [定款第 5 条（4）]
- （2）国際科学（地学・地理）オリンピック活動支援 [定款第 5 条（2）]

5. 地球惑星科学知見の社会還元

- （1）複合的自然災害への対応と科学的提言の発信 [定款第 5 条（5）]
- （2）複合的自然災害リテラシーの普及 [定款第 5 条（5）]

6. 委員会等活動

- （1）セクション・サイエンスボード活動 [定款第 5 条（3）（6）]
- （2）顕彰制度 [定款第 5 条（1）（2）]
- （3）各種委員会活動 [定款第 5 条（1）～（7）]

以下に、個別の事業の状況について述べる。

I. 事業の状況

1. 地球惑星科学に関わる研究発表会及び国際会議等の開催

地球惑星科学の一層の発展に寄与することを目的とし、当該科学に関連する研究、教育に携わる、あるいは関心を持つ全ての人々を対象に、公開で学術大会を開催し、学術講演、ポスター発表による関連分野の研究発表、情報交換の場を設けることを目的として、日本地球惑星科学連合大会（以下、「連合大会」という。）を開催した。連合大会の開催に関連して、講演募集、プログラム編成、ユニオン・パブリックセッションの設定、アウトリーチプログラムの企画等、に関わる事業を行った。

（1）日本地球惑星科学連合 2015 年大会（連合大会）の開催

日本地球惑星科学連合 2015 年大会（Japan Geoscience Union Meeting 2015）

会 期：2015 年 5 月 24 日（日）～28 日（木）5 日間

会場：幕張メッセ国際会議場、アパホテル&リゾート 東京ベイ幕張

主催：日本地球惑星科学連合

後援：46 団体

協賛：日本サンゴ礁学会、日本高圧力学会、日本天文学会、地震工学会、土木学会、地盤工学会、地すべり学会、砂防学会

開催セッション数：189

（参考：過去開催セッション数、2014 年 193、2013 年 180、2012 年 174、2011 年 174）

セッションカテゴリー	開催数	(*国際)
U: ユニオン	7	(*2)
O: パブリック	5	(*0)
P: 宇宙惑星科学	23	(*12)
A: 大気水圏科学	22	(*9)
H: 地球人間圏科学	24	(*8)
S: 固体地球科学	62	(*16)
B: 地球生命科学	10	(*2)
G: 教育アウトリーチ	5	(*1)
M: 学際・広領域	31	(*5)
計	189	(*55)

（過去国際セッション数：2014 年 43、2013 年 42、2012 年 42、2011 年 41）

【2015 年大会投稿数】

・発表論文数：4037 件（2014 年 3806 件、2013 年 3980 件、2012 年 3876 件）

口頭発表 2545 件（2014 年 2428 件、2013 年 2226 件、2012 年 1975 件）

ポスター 1492 件（2014 年 1378 件、2013 年 1754 件、2012 年 1901 件）

※ポスターは高校生セッションの 77 件を含む

■参加者数

参加者数：6689名（2014年7046名、2013年6824名、2012年7318名）

- ・事前参加登録者数：4106名

全日程 3437 1日券 669

一般 2820、小中高教員 35、大学院生 1074、シニア 75、学部生 91、高校生 11

- ・当日参加登録者数：1165名

全日程 582 1日券 583

一般 507、小中高教員 8、大学院生 144、シニア 56、学部生 434、高校生 16

- ・同伴者 26名

- ・総合案内来場者数：1392名

一般 203名、小中高教員 33名、大学院生 4名、シニア 4名、学部生以下 227名、
高校生発表 177名、ジオパーク 121名、プレス 84名、会合参加者 96名、
出展関係者 355名、中学生アウトリーチイベント参加者 88名

■出展関係

- ・団体展示：65ブース（2014年80、2013年63、2012年43）

※2014年は大学インフォメーションパネルを含む数

- ・大学インフォメーションパネル：11ブース（2013年11、2012年13）

- ・書籍・関連商品：26ブース（2014年27、2013年25、2012年29）

- ・パンフレットデスク：7ブース（2014年7、2013年10、2012年8）

- ・学協会エリア 個別デスク：10ブース（2014年10、2013年9、2012年10）

■その他

- ・会期中開催会合数：95（学協会総会等関連：45、連合関連：18、一般：32）

- ・アルバイト：のべ355名

（2）国際セッション・シンポジウム「JpGU International Session 2015」の開催

連合大会の国際化を推進するために、連合大会において英語を発表言語とするセッションを55件開催し、これを国際セッション・国際シンポジウムとして位置づけた。

（3）公開プログラム「高校生によるポスター発表」の開催

連合大会において、高校生を対象とした公開プログラム「高校生によるポスター発表」を開催し、高校生の研究成果発表に対して研究者や一般の参加者が聴講し意見交換を行ない、また優秀発表を表彰した。

開催日：2015年5月24日（日）

場 所：幕張メッセ国際会議場

主 催：公益社団法人日本地球惑星科学連合 広報普及委員会

責任者 原 辰彦（独立行政法人建築研究所、広報普及委員会副委員長）

後 援：千葉県教育委員会、千葉市教育委員会

発表数：77 件

参加者数：177 名

参加高校：43 校

愛知県立一宮高等学校、茨城県立日立第一高等学校、県立浦和高等学校、大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎、大阪府立堺東高等学校、大阪府立春日丘高等学校 定時制の課程、岡山県立津山高等学校、海城中学高等学校、京都府立嵯峨野高等学校、京都府立洛東高等学校、群馬県立前橋女子高等学校、群馬県立太田女子高等学校、慶應義塾高等学校、慶應義塾志木高等学校、栄東高等学校、佐野日本大学高等学校、埼玉県立所沢高等学校、滋賀県立米原高等学校、湘南白百合学園高等学校、静岡県立磐田南高等学校、島根県立吉賀高等学校、滝高等学校、千葉県立長生高等学校、鳥取県立鳥取東高等学校、東京学芸大学附属高等学校、東京都立戸山高等学校、東京都立立川高等学校、長野県屋代高等学校、長野県諏訪清陵高等学校、奈良県立青翔高等学校、東筑紫学園高等学校、兵庫県立加古川東高等学校、兵庫県立西脇高等学校、兵庫県立豊岡高等学校、福井県立藤島高等学校、福島県立磐城高等学校、北海道札幌開成高等学校、私立本郷高校、宮崎県立宮崎北高等学校、宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校、山梨県立吉田高等学校、山梨県立日川高等学校、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校

表彰発表：

・最優秀賞（1 件）

海城中学高等学校 『新宿区立おとめ山公園周辺の地下水の変動把握および涵養域の推定』

・優秀賞（3 件）

静岡県立磐田南高等学校『磐田市遠州灘鮫島海岸で発見されたガーネットサンドに含まれる磁鉄鉱の起源』

海城中学高等学校『エアロゾルが夜空の明るさに及ぼす影響』

兵庫県立加古川東高等学校『加古川市域の流紋岩に見られる円構造の成因』

・奨励賞（12 件）

兵庫県立西脇高等学校 『兵庫県南部地震の余震による地盤変動と宅地整備の提言

東京学芸大学附属高等学校 『破片化したヤスリツノガイ化石の体サイズ復元

横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 『館山湾から産出した有孔虫化石による海洋環境の考察』

奈良県立青翔高等学校 『2つの系外惑星のトランジット観測』

群馬県立前橋女子高等学校 『暗順応による星空の見え方の変化』

埼玉県立所沢高等学校 『霜柱の成長に関する実験的研究』

静岡県立磐田南高等学校 『静岡県太田川低地における歴史地震による津波遡上範囲の推定』

宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校 『Is it really aurora ? ～宮崎で観測された光の謎を解く～』

滝高等学校 『視程と大気汚染物質の関係』

東筑紫学園高等学校 『夜空の明るさについて 2002～2015』

岡山県立津山高等学校 『津山周辺における新第三紀海成層の研究』

海城中学高等学校 『裸眼及び SQM による夜空の明るさ観測の比較』

(4) 一般公開講演会の開催

社会に対する地球惑星科学関連の研究成果の広報・普及活動を通して、地球惑星科学の発展に資するとともに、安全・安心な社会の構築に寄与することを目的に、一般講演会を開催した。4～5 月の連合大会においてパブリックセッション「地球惑星科学トップセミナー」を開催するとともに、8 月には「高校生のための夏休み講座 2015」を開催した。

1. ジオパークへ行こう

5 月 24 日（日）14:15～18:00 幕張メッセ国際会議場国際会議室にて 9 講演が行われた。参加者数約 250 名。

2. 地球惑星科学トップセミナー

5 月 24 日（日）9:45～11:30 幕張メッセ国際会議場国際会議室にて 3 講演が行われた。参加者数約 190 人

3. 高校生によるポスター発表

5 月 24 日（日）11:30～12:30 幕張メッセ国際会議場国際会議室にて 77 件の発表が行われた。

4. 研究者の多様なキャリア形成を考える

5 月 24 日（日）14:15～18:00 幕張メッセ国際会議場 101 号室 A にて 3 講演および総合討論が行われた。参加者数約 50 名。

5. Future Earth 構想と地学教育および地理教育との連携を考える

5 月 24 日（日）14:15～18:00 幕張メッセ国際会議場 104 号室にて 6 講演および総合討論が行われた。参加者数約 45 名。

6. 高校生のための夏休み講座 2015

8 月 19 日（水）13:00～16:00 東京大学本郷キャンパス小柴ホールにて 2 講演が行われた。

講師 成田憲保 （国立天文台） 「望遠鏡で探る太陽系外惑星の空」

講師 東塚知己 （東京大学） 「異常気象を引き起こす気候変動現象」

(5) スペシャルレクチャーの開催

学部生や院生を主たる対象として、連合大会会期中の昼食時にスペシャルレクチャーをシリーズで開催する。異分野の聴衆を対象とするわかりやすい内容の講演会を開催した

5月24日（日）沖 大幹（東京大学生産技術研究所）

「人間—地球系のグローバルな水循環研究」

5月25日（月）David Rubie（University of Bayreuth）

「Accretion and Early Differentiation of the Terrestrial Planets」

5月27日（水）鈴木 淳（産業技術総合研究所）

「サンゴ、サンゴ礁と地球環境—生物学と地球科学の連携研究—」

5月28日（木）片岡龍峰（国立極地研究所）

「オーロラ研究の新展開」

（6）地球惑星科学関連、教育機関、学協会、プロジェクトの紹介・展示

地球惑星科学に関連した教育機関、学協会、ならびに各種プロジェクトについて、関係者のみならず、高校生を含む一般に紹介・広報することを目的に、プロジェクトを推進する諸機関、団体に対して連合大会会場にて展示活動を支援する場を設けた。これらの紹介・展示に関わる募集活動、展示準備作業等を行った。

団体展示：65ブース（2014年80、2013年63、2012年43、2011年44）

大学インフォメーションパネル：11ブース（2013年11、2012年13、2011年11、2010年10）

（7）地球惑星科学関連資料・書籍の展示・頒布

毎年、多数の地球惑星科学に関連する書籍、資料が公刊されているが、それらに対するアクセスは必ずしも容易ではないことから、連合大会の折に、これらを多数展示し、頒布するための場を設けて、地球惑星科学関連の研究、教育に携わる人々や、高校生を含む一般の方々に利用促進をはかった。これらの活動に必要な手配や現場での作業を行った。

書籍出版（関連商品）：26ブース（2014年27、2013年25、2012年29）

パンフレットデスク：7ブース（2014年7、2013年10、2012年8）

学協会エリア 個別デスク：10ブース（2014年10、2013年9、2012年10）

2. 学会誌その他の刊行物の発行と情報発信

（1）学術雑誌等の出版の高度化

国際情報発信力強化を目的に、日本学術振興会から科学研究費補助金（研究成果公開促進費）を受け 2014 年 4 月に出版を開始した連合の新規オープン・アクセス（OA）電子ジャーナル「Progress in Earth and Planetary Science (PEPS)」の編集・出版事業を、ジャーナル出版委員会とジャーナル出版事務局の協働により行った。

優れた論文の投稿を促進する施策として、①地球惑星科学の知識などを整理したレビュー（総論）のための国際シンポジウムのサポート、②注目のテーマの論文投稿を呼びかける SPEPS (SPecial call for Excellent Papers on hot topicS) の推進、③2015 年連合大会発表の中からコンビーナー推薦の優秀発表への投稿依頼等を行った。また、出版論文の閲覧・引用を促すために、専用ホームページや SNS、MyJpGU を活用して積極的に出版論文の紹介を行った。さらに、新ジャーナルを広く周知するために、AGU、EGU、INQUA、AOGS などの国際会議へのブース出展、連合大会始め加盟学会主催の国内学会などにおいても広報活動に取り組んだ。この結果、JST や

Directory of Open Access Journals (DOAJ)等の文献データベースへ収録された。12月末までの投稿論文数 58 本、出版論文数 40 本（H26 年度同時期投稿論文数 40 本、出版論文数 25 本）と昨年度に比べ順調に増加している。

また、他誌との連携について協議を開始するとともに、EPS 誌と共同で特集号の製本化やジャーナルの PR を行った。

（２）加盟学協会による学術誌等の出版推進

海外で開催された国際学術大会で連合ブースを出展し、連合加盟学協会が出版する学術誌の展示等を行うなど、地球惑星科学及び関連科学の学術出版物の広報普及に関する支援を行った。

（３）ニュースレター誌「Japan Geoscience Letters (JGL)」の発行

研究の推進から得られた科学的成果を広く社会一般に広報し、普及させることを目的とするアウトリーチ誌「JGL」を昨年同様に年間４号定期発行した。ニュースレター（JGL）の発行日、部数は以下のとおりである。

発行日	No.	発行部数
平成 27 年 ５月 1 日	Vol. 10 No. 2	29,000 部
平成 27 年 ８月 1 日	Vol. 10 No. 3	26,000 部
平成 27 年 11 月 1 日	Vol. 10 No. 4	26,000 部
平成 28 年 ２月 1 日	Vol. 11 No. 1	26,000 部

（４）ウェブ、メールニュースを活用した広報・普及事業

連合ウェブサイトや毎月発行のメールニュース等を通して、地球惑星科学に関連する各種ニュースとともに、国内外の学会、シンポジウム、研究集会、公開イベントの情報や、求人・公募情報等を配信した。今期は、基幹となるウェブシステムを新たに整備するとともに、毎月、定期的にメールニュースを発刊した。

発行日	No.	種類
2015 年 1 月 8 日	No. 221	臨時号
2015 年 1 月 13 日	No. 222	定期 1 月号
2015 年 1 月 30 日	No. 223	臨時号
2015 年 2 月 10 日	No. 224	定期 2 月号
2015 年 2 月 12 日	No. 225	臨時号
2015 年 2 月 17 日	No. 226	臨時号
2015 年 3 月 10 日	No. 227	定期 3 月号
2015 年 3 月 12 日	No. 228	臨時号
2015 年 4 月 1 日	No. 229	臨時号
2015 年 4 月 7 日	No. 230	臨時号
2015 年 4 月 10 日	No. 231	定期 4 月号
2015 年 4 月 24 日	No. 232	臨時号
2015 年 5 月 11 日	No. 233	定期 5 月号
2015 年 5 月 14 日	No. 234	臨時号
2015 年 6 月 10 日	No. 237	定期 6 月号

2015 年 7 月 8 日	No. 238	臨時号
2015 年 7 月 10 日	No. 239	定期 7 月号
2015 年 8 月 10 日	No. 240	定期 8 月号
2015 年 8 月 25 日	No. 241	臨時号
2015 年 9 月 1 日	No. 242	臨時号
2015 年 9 月 7 日	No. 243	臨時号
2015 年 9 月 10 日	No. 244	定期 9 月号
2015 年 9 月 14 日	No. 245	臨時号
2015 年 9 月 18 日	No. 246	臨時号
2015 年 9 月 29 日	No. 247	臨時号
2015 年 10 月 2 日	No. 248	臨時号
2015 年 10 月 13 日	No. 249	定期 10 月
2015 年 10 月 20 日	No. 250	臨時号
2015 年 10 月 27 日	No. 251	臨時号
2015 年 11 月 2 日	No. 252	臨時号
2015 年 11 月 10 日	No. 253	定期 11 月
2015 年 11 月 18 日	No. 254	臨時号
2015 年 11 月 24 日	No. 255	臨時号
2015 年 12 月 10 日	No. 256	定期 12 月
2015 年 12 月 14 日	No. 257	臨時号
2016 年 1 月 7 日	No. 258	臨時号
2016 年 1 月 12 日	No. 259	1 月号
2016 年 1 月 14 日	No. 260	臨時号
2016 年 1 月 25 日	No. 261	臨時号
2016 年 2 月 3 日	No. 262	臨時号
2016 年 2 月 10 日	No. 263	2 月号
2016 年 2 月 17 日	No. 264	臨時号
2016 年 2 月 18 日	No. 265	臨時号
2016 年 3 月 10 日	No. 266	3 月号

3. 国及び社会一般からの諸要請に対応した地球惑星科学コミュニティーにおける意見集約とこれに基づく提言

地球惑星科学コミュニティーの意見を集約するとともに、日本学術会議を含む国及び社会一般への諸要請への対応に関わる要請に対応するために、以下の活動を行なった。

(1) 学協会長会議の開催

国内の地球惑星科学及び関連分野の研究者を対象に、学協会長会議を年に 2 回開催して、地球惑星科学コミュニティーの意見集約を行うとともに、自然科学に関わる国内外の情勢についての情報交換を行なった。連合理事会からの諮問、及び学協会や日本学術会議から提案される重要な課題について議論し、意見集約と対外的情報発信を行なった。

第 12 回学協会長会議

期日：2015 年 5 月 27 日（水）13：00～14：00

場所：幕張メッセ国際会議場 302 号室

第 13 回学協会長会議

期日：2015 年 10 月 8 日（木）15：00～17：00

場所：東京大学地震研究所 1 号館 2 階セミナー室

（〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1）

（2）地球惑星科学コミュニティの意見集約

国及び社会一般からの諸要請に基づき、地球惑星科学コミュニティの意見集約と、コミュニティへの情報伝達を行なった。特に、日本学術会議が発出する声明を連合ウェブやメールニュース、関連メーリングリストを通じて地球惑星科学コミュニティへの周知をサポートした。

また、学術会議からの依頼に基づき連合大会会期中に全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会を開催した。

■全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会

日 時：連合大会 会期中

主 催：日本学術会議地球惑星科学委員会、日本地球惑星科学連合大学及び大学院教育小委員会

内 容：全国の地球惑星科学系専攻長・学科長が一同に会し、地球惑星科学系大学の発展と大学院教育の在り方についての情報交換を行う。

4. 地球惑星科学に関わる外国学協会との連携と国際プロジェクトの推進

（1）地球惑星科学に関わる国際学協会との連携及び協力

我が国の地球惑星科学コミュニティを代表して、地球惑星科学に関する国際的な研究協力、交流の推進を図るために、ヨーロッパの EGU、米国の AGU、アジアの AOGS 等の国際的な学協会と連携協力しながら、地球惑星科学の発展に資する活動を行い、地球惑星科学に関わる国際会議等の企画、開催、国際的プロジェクトの支援等を行うための準備を進めた。EGU、AOGS とは、それぞれが主催する学術大会において共通のセッションを設けた。また、海外で開催される関連学会において、ブースを設置し、日本国内で得られた成果に関する広報、資料頒布等の海外学会展示を実施した。

・AOGS Annual Meeting 2015 ブース出展

日程：2015 年 8 月 2～7 日

会場：シンガポール

・AGU Fall Meeting 2015 ブース出展

日程：2015 年 12 月 14 日～18 日

会場：サンフランシスコ、アメリカ合衆国

・12 月 14 日（月）、NASA および JAXA 担当者との会合を行った。

・12 月 17 日（木）、AGU 執行部との会合を行い、2017 大会共催に関する MOU にサインを交換した。

(2) 国際科学（地学・地理）オリンピック活動支援

1) 国際地学オリンピック活動支援

国際地学オリンピックなどの国際的な活動を通じて、多くの高校生がサイエンスにより深く触れる機会を提供することを目的に、以下の地学オリンピック事業に関連する支援と活動を積極的に進めた。

- ・9月13日から20日までブラジルのポソス・デ・カルダスで第9回国際地学オリンピック・ブラジル大会が開催された。日本は金メダル1、銀メダル2、銅メダル2の成績であった。

- ・3月13日から15日につくば市で開催される第8回日本地学オリンピック本選にて、「日本地球惑星科学連合賞」として、本選で最優秀成績を獲得した女性に賞状ならびに記念品の授与を行い、参加高校生のモチベーションの向上を図り、本活動への支援の強化を行った。

- ・2016年8月20日から27日に開催される第10回国際地学オリンピック日本大会（三重）の準備を進めた。

2) 国際地理オリンピック活動支援

- ・2015年度は、国際地理学連合（IGU）の国際会議に合わせて8月11日から8月17日にかけて、モスクワ近郊のトヴェリ（ロシア）及びその周辺で第12回国際地理オリンピックが開催された。日本の成績は、銀3、銅1であった。

- ・2016年度は8月16日から8月22日にかけて、北京（中国）及びその周辺にて第13回国際地理オリンピックが開催される予定であり、国内選抜が1月9日（第1次選抜）、2月21日（第2次選抜）、3月13日（第3次選抜）に行われた。

5. 地球惑星科学知見の社会還元

地球惑星科学の研究成果を統合的な形で社会へ還元し、科学的提言を発信した。

2016年1月9日に開催された日本学術会議主催の学術フォーラム「防災学術連携体の設立と東日本大震災の総合対応の継承」において、日本地球惑星科学連合のこれまでの取組みを紹介した。

6. セクションサイエンスボード、及び委員会等活動

(1) サイエンスボード活動

多様な分野を含む地球惑星科学を、一定の基準のもとにくくり、各々の分野の更なる発展をめざすサイエンスボードを組織し、個々のサイエンスを長期的な視点から、強力に支援する活動を推進した。

■宇宙惑星科学セクション

- ・2014年5月26日（火）19時～20時の間、幕張メッセ国際会議場の203号室で開催ボードミーティングを開催した。セクションボードメンバーは選挙で選ばれた代議員15名を含む25名である。

- ・連合大会では、地球惑星科学トップセミナーの講演者として、コロラド大学のDaniel N. Baker氏を招聘した。

- ・昨年度の連合大会から他セッションに並び学生優秀発表賞表彰に参加した。
- 140 件をこえる審査対象から最終的に 14 件を選んだ。審査の過程では、80 名の会員に審査員として協力していただいた。平成 28 年度も継続して学生賞表彰に参加する。
- ・2016 年大会に向けて国際セッションを維持拡大する努力をするとともに、
「International Collaboration in Space and Planetary Sciences: 宇宙惑星科学における国際協力」というセッションをセッションボード提案という形で行った。JAXA 宇宙科学研究所長の常田氏や国立天文台 ALMA 観測所長の長谷川氏に、大型計画についての話をいただくとともに、規模の小さな計画、地上観測、個人ベースの国際協力についての議論も行われた。アメリカ NASA-JPL の Brent Sherwood 博士を JPGU 予算で招聘し、このセッションでエンセラダスなど新規計画においての国際協力について講演いただいた。

■大気水圏科学セッション

1) 連合大会に関する活動

- ・2015 年度連合大会において NASA と連携したユニオンセッション「**Science Landscape of Japan with NASA Space Missions**」を共同で開催し、招聘講演者に旅費を支給した。
- ・2015 年度連合大会においてセッションボードメンバー及び代議員を招集しセッションボードミーティングを開催した。また、学生優秀発表の審査、高校生セッションの審査、一般・報道向けのハイライト論文の選出を行った。
- ・2016 年度連合大会に向けて AGU とのジョイントセッション提案の調整を行い、また、プログラム案の作成を行った。

2) 大気水圏科学分野に関係する研究集会の支援

- ・日本気象学会が主催する研究集会「航空機観測による気候・地球システム科学研究の推進」を共催した（名古屋、2015 年 9 月 1-2 日）。
- ・日本学術会議の環境学・地球惑星科学両委員会合同 IGBP・WCRP・DIVERSITAS（IWD）合同分科会が主催した公開シンポジウム「生命を育む地球環境の変動予測と適応—我が国における IGBP25 年間の歩み」を共同で後援した（東京、2015 年 11 月 15 日）。
- ・MAHASRI 国際科学委員会が主催した国際会議「モンスーンアジア水文気候研究計画(MAHASRI) 国際科学会議(The International Science Conference on MAHASRI)」をセッションとして協賛し、会議開催にかかる費用の一部を援助した（東京、2016 年 3 月 2-4 日）。

3) 地球観測の将来計画に関する提言

- ・今後の宇宙開発体制のあり方に関する「タスクフォース会合・リモートセンシング分科会(TF)」コミュニティ（以下、TF）の地球科学研究高度化ワーキンググループの活動に参加して、「我が国の地球観測の将来計画に関する提言」の作成に携わった。

■地球人間圏科学セッション

- ・2015 年 5 月 27 日（水）幕張メッセ 101A 室にてボードミーティングを開催した。
- ・学生優秀発表賞の選考と表彰を実施した。

- ・ 連合大会におけるユニオンセッション、特に「Future Earth -持続可能な地球へ向けた統合的研究」(U-05)に積極的に関わった。また一般公開セッション O-05「Future Earth と地惑教育」にも関わった。他にも Future Earth 計画と統合的防災・災害研究の推進および関連する一般市民向け活動や教育活動等にも積極的に取り組んだ。
- ・ メーリングリスト等を用いて Future Earth、シンポジウム等について頻繁に議論し、また情報を発信した。
- ・ 日本学術会議主催学術フォーラム「われわれはどこに住めばよいのか? ~地図を作り、読み、災害から身を守る~」(日本地球惑星科学連合ほか後援、平成 27 年 6 月 20 日(土) 日本学術会議講堂にて開催)の開催を支援した。
- ・ 2015 年 7 月 27 日(月)~8 月 2 日(日)に名古屋で開催された INQUA Congress 2015 の特別セッション”future earth research for global sustainability with INQUA”の開催を支援した。

■ 固体地球科学セッション

- ・ 2015 年 1 月~3 月、5 月のボードミーティングに向けて、事業内容を議論した。
- ・ セクションの活動を活性化するために、セッションボードに新たなメンバーを迎え充実させた。
- ・ AGU との共催セッション提案を促すために、対応する AGU のセッションに対応する代表をセッションボードに選出した。2016 年ジョイントセッションに向けての提案すべきセッション(9~12 月)を検討した。
- ・ 学生発表賞の選考と表彰: 選考委員を 1 名から 2 名に増員し、選考過程を改善した。
- ・ セクションの内部構造として地球深部科学フォーカスグループの活動を引き続き支援した。
- ・ このフォーカスグループの事業として、2015 年度 10 月に連合の共催で地球深部研究会を地震研究所の研究会として開催した。
- ・ 固体地球科学セッションのホームページの内容を充実させた。固体地球科学セッション関係者への公募情報などを WEB に掲載し発信した。
- ・ セクション内部の構造についてのメーリングリストにもとづいて、議論を行った。
- ・ メーリングリスト等を用いてのボードメンバー間にて、ハイライト論文(2015 年 4 月)を選出した。
- ・ 固体地球科学セッションの褒賞制度を検討するワーキンググループを設置し、可能な褒賞の案、褒賞の選考規定等の検討を行った。
- ・ 連合の新英文誌 PEPS のレビュー論文の適切なトピックスと執筆候補者を検討した。適切な候補者に執筆を依頼し、原稿の投稿を依頼した。

■ 地球生命科学セッション

- ・ 連合大会でハイライト論文を選考した。
- ・ 連合大会におけるスペシャルレクチャーの講師として鈴木 淳氏を選出した。
- ・ 連合大会ユニオンセッション Geoscience Ahead 講師として上野雄一郎氏を選出した。
- ・ 連合大会の地球生命科学関連セッションで学生賞の審査を行った。
- ・ 連合大会期間中にセッションボードのビジネスミーティングを開いた。

- ・山岸明彦氏と高橋嘉夫氏をプログラム委員に選出した。
- ・来年度の連合大会に向けて地球生命科学関連セッションの提案を呼びかけた。
- ・2015 年度選挙の選挙管理委員として癸生川陽子氏を選出した。
- ・地球生命学セッション登録者に代議員選挙を周知した。

(2) 顕彰制度関連活動

1) 連合大会における「学生優秀発表」の表彰

学生優秀発表賞は、4 回目の実施である。前回に引き続き、参加セッションは全セッションに及んだ。また、学生優秀発表賞のシステムの充実を図り、制度の安定的な運営を目的に、WEB システムの増強を行った。

2) 連合フェローの顕彰

2015 年度フェローの顕彰を行った。また、2016 年度フェロー候補者の募集と審査を行った。

3) 地球惑星科学振興西田賞授賞式の表彰

第 1 回地球惑星科学振興西田賞受賞者を表彰した。2016 年度大会における特別講演の準備を行った。

(3) 各種委員会活動

理事会の取り決めにより委員会を組織して、各種事業を進めた。

■総務委員会

- ・公益社団法人の円滑な運営に向けて諸規則の制定を行った。
- ・総会資料と理事会開催資料を事務局との協働により行った。
- ・共催、協賛、後援等の外部折衝と理事会への照会を行った
- ・事務局の運営に関して監修と助言を行った。

■財務委員会

- ・国際対応と連合大会規模拡大に伴い 2016 年、2017 年度に必要となる費用を推算、今後 3 年間の予算収支について検討して、連合大会参加費値上げ案を理事会に提案した。
- ・2016 年 1 月 20 日(水)10:00～13:00 連合事務局にて委員会を開催した。
- ・平成 27 年度決算書、平成 28 年度予算書を策定した。

■広報普及委員会

- ・2015 年連合大会でパブリックセッション「高校生によるポスター発表」及び「地球・惑星科学トップセミナー」を開催した。
- ・「地球・惑星科学トップセミナー」の映像を記録して動画配信を行った。
- ・2015 年 8 月 19 日(水) 東京大学本郷キャンパス小柴ホールにて「日本地球惑星科学連合高校生のための夏休み講座 2015」を開催した。映像を記録して動画配信を行った。
- ・ニュースレター誌 JGL を年間 4 号発行し、会員のほか加盟学協会、高等学校、関連企業等に配

布のほか、pdf を連合 Web に掲載した。

- ・ニュースレター誌 JGL 特別号として 2014 年度フェロー受賞者の記念文集を発行し、pdf 版を連合 Web に掲載した。また、2015 年度フェロー受賞者については、JGL 夏号から順次掲載した。
- ・メールニュース定期号を年間 12 件、臨時号を年間 29 件発信した。
- ・連合ウェブで連合の活動や関連トピックスを画像ニュースとして公開した。
- ・連合ウェブで多様なお知らせやニュース等の情報発信を行った。
- ・「あかつきの金星到着に寄せて（声明）」および「2017 年における JpGU-AGU 共同大会開催について」のプレスリリースを行った。
- ・その他、連合の活動及び地球惑星科学分野での最新トピックスや学術会議の活動をコミュニティ内外に迅速に伝えるための活動を行った。

■環境災害対応委員会

- ・大規模災害発生時における各学協会の緊急対応方策や連絡方法を整理するとともに、2016 年 1 月に設立された防災学術連携体への対応をした。
- ・2015 年連合大会において、ユニオンセッション「連合は環境・災害にどう向き合っていくのか？」を開催した。
- ・2015 年 5 月 27 日（水）幕張メッセ国際会議場 106 号室にて委員会を開催した。
- ・委員会ホームページ (<http://www2.jpгу.org/n-dis/>) 上で各学協会が発信している災害関連情報へのリンクを集約した。
- ・2016 年 2 月 10 日（水）広島大学東京オフィス 408 会議室にて委員会を開催した。

■男女共同参画委員会

- ・大会期間中：委員会を実施した。キャリア支援委員会と連携してパブリックセッション「研究者の多様なキャリア形成を考える」を開催し、キャリア支援ブースを展開した。保育室を運営した。
- ・7 月 18 日（土）：平成 27 年度第 2 回理事会にて両委員会の統合を承認し、後日名称をダイバーシティ推進委員会と定めた。
- ・8 月男女共同参画学協会連絡会：「若手支援」ワーキンググループ（WG）の主活動学会となることが第 13 期第 1 回の連絡会運営委員会（2015 年 1 月）にて承認された。今後は他の学協会の参加も募りつつ、同 WG のリード役として活動する。
- ・8 月 6～8 日：国立女性教育会館/JST 事業「女子中高生夏の学校」に企画段階から参加し、女子中高生への理系教育及びキャリア支援に協力した。
- ・1 月 15 日（金）第 1 回ダイバーシティ推進委員会を開催した。
- ・男女共同参画学協会連絡会対応と若手研究者育成 WG 活動を通年で行った。

■キャリア支援委員会

- ・キャリアパスアンケートを実施し（1 月～5 月）、結果速報を配布した（連合大会時）。
- ・2015 年連合大会でのパブリックセッション「研究者の多様なキャリア形成を考える」を開催した。

- ・2015 年連合大会でのキャリアパス支援ブースの運営を行った。
- ・キャリアパスアンケート解析、ウェブ等での結果報告を行った（通年）。
- ・一般社団法人 知的人材連携センターが主催する「ビッグデータやデータサイエンスに関わる学生／研究者、企業の異分野異業種交流会 ～知と知の触発とデータ活用能力を活かしたキャリア発見～」2016 年 1 月 31 日（日）（於東京大学 本郷キャンパス）に出席した。
- ・委員会ウェブを整備した（通年）。

■教育問題検討委員会

学校教育および社会教育における地球惑星科学に関わる諸問題に対し。以下の活動を行った。

- ・2015 年 1 月 24 日 第 56 回教育課程小委員会開催（海城高校）連合大会パブリックセッション「Future Earth 構想と地学教育および地理教育との連携を考える」に向けた準備、および高校教員に向けた「地学基礎」に関する連合 web アンケート調査結果の分析結果の検討などを行った。
- ・2015 年 3 月 8 日 第 57 回教育課程小委員会開催（海城高校）連合大会パブリックセッション「Future Earth 構想と地学教育および地理教育との連携を考える」で配布する資料の校正等、高校教員に向けた「地学基礎」に関する連合 web アンケート調査結果のまとめなどを行った。
- ・2015 年 4 月 18 日 第 58 回教育課程小委員会開催（海城高校）連合大会パブリックセッション「Future Earth 構想と地学教育および地理教育との連携を考える」の当日の運営に関する打ち合わせを行った。また、本セッションで本小委員会委員が発表に用いる PPT の内容検討なども行った。
- ・2015 年 5 月 9 日 第 59 回教育課程小委員会開催（海城高校）連合大会パブリックセッション「Future Earth 構想と地学教育および地理教育との連携を考える」開催に向けた最終調整を行った。また、本セッションで本小委員会委員が発表に用いる PPT の最終案を確定した。
- ・2015 年 5 月 24 日 幕張メッセにて、教育検討委員会主催パブリックセッションを地学・地理教育シンポジウムとして開催し、地学基礎アンケート調査結果に基づき、次期学習指導要領改訂に向けて作成する提言の内容に関する議論などを行った。また、「総合的防災教育」セッション、「小・中・高等学校の地球惑星科学教育」セッション、「学部生向けの教育」セッションの開催支援を行った。
- ・2015 年 5 月 24 日 幕張メッセにて教育検討委員会（総会）を開催し、各小委員会の活動報告、平成 27 年度の活動方針を討議した。
- ・2015 年 7 月 12 日 第 60 回教育課程小委員会開催（海城高校） 本小委員会が関わった連合大会パブリックセッションの総括を行った。また、次年度の連合大会パブリックセッションの開催に向けた活動方針を討議した。さらに、8 月に開催される京都大学防災研究所研究集会の企画について議論を行った。
- ・2015 年 8 月 12 日 第 61 回教育課程小委員会開催（海城高校） 8 月下旬に開催される京都大学防災研究所研究集会での発表予定者から発表内容の概要報告があり、最終調整を行った。あわせて、教科書に掲載された用語不統一問題に関する実態調査を行い議論した。
- ・2015 年 8 月 29－30 日 京都大学防災研究所研究集会「自然災害科学としての地学教育－防災・減災知識の普及に向けて－」の開催に協力し、教育課程小委員会委員 6 名が発表を行った。

- ・2015年10月12日 第62回教育課程小委員会開催（学会センタービル） 次年度の連合大会パブリックセッションに向けて招待講演者の人選方法を検討した。また、中教審・教育課程企画特別部会による論点整理を受け、次期学習指導要領改訂に向けての提言作成方法を討議した。
- ・2015年11月8日 理数系学会教育問題連絡会によるシンポジウム「理数系教育におけるアクティブ・ラーニング」（筑波大学文京キャンパス）を共催した。
- ・2015年11月23日 地学オリンピック日本委員会との協同で、生徒および学校教員向け「ちきゅう」の見学会を行った。
- ・2015年11月28日 第63回教育課程小委員会開催（学会センタービル） 次期学習指導要領での「地学基礎」のあり方に関して討議した。また、次年度の連合大会パブリックセッション開催に向け、招待講演者の受諾の状況などを確認し、各委員の役割を決定した。
- ・2016年1月11日 第64回教育課程小委員会開催（海城高校） 文部科学省へ年度内提出を目指す提言の骨子を議論の上、決定した。また、日本学術会議地球惑星科学委員会人材育成分科会との協働にて用語不統一問題への取り組みを開始することを決定し、議論の開始に向けた方針を討議した。
- ・2016年1月13日 日本学術会議 広報。科学力増進分科会 高校理科教育検討小委員会の委員である教育課程小委員会委員長が、文部科学省教育課程課との懇談に出席し、意見交換を行った。
- ・教員免許状更新講習会の開催を行っている（公社）日本地震学会が主催する講習にて教育検討委員会のメンバーが講師として参加した。また、（公社）日本地球惑星科学連合主催による開催を行うための準備および理事会での協議を行った。

■情報システム委員会

- ・2016年大会システムにむけて、JpGU-AGU 合同大会となる2017年大会での運営もみすえて、予稿投稿システム、会員管理システムの刷新を、2017年大会準備タスクフォースと連携して行った。これまでの作業形態では事務局による手作業負担の大きかったAGUとの会員情報やりとりや大会セッションプログラム編成などを抜本的に変更して、想定されるAGU側との情報流通などの業務もオンラインでできるだけ人手を介さず行える設計とした。2016年1月からの予稿投稿から投稿システムの運用を開始した。
- ・2015年10月29日（木）、国立情報学研究所においてCODATA Japan データサイテーションワークショップを後援した。
- ・MyJpGUで採用しているオープンサイエンスにおいて重要とされる研究者の国際ID「ORCID」との調整協議を行い、JpGUからのORCID会員料金の支払いは、ORCID登録JpGU会員が増えるまでは保留することで合意した。

■ジャーナル企画経営委員会

- ・2015年6月26日（金）メール会議にてジャーナル企画経営委員会を開催、H25年度・26年度会計報告、H27年度実行計画についての説明および採択を行った。
- ・2015年10月26日（月）メールにて中間評価のための進捗状況報告書の内容を検討し承認を得

た。

- ・2015年11月12日（木）メール会議にてジャーナル企画経営委員会を開催、2016年連合大会 JpGU 特別セッション提案の採択について検討し、採択された提案者に速やかに通知した。

■ジャーナル編集委員会

- ・2015年5月8日（金）浜松町 WTC コンファレンスセンターにおいて編集長会議を開催、WOS と SCOPUS への採録申請状況の報告、EPS との共同出版、不正投稿に関するペナルティ等について検討した。
- ・2015年5月26日（火）TKP ガーデンシティ幕張にて編集委員会を開催（24名参加、内2名外国人、2名海外から参加）、現状報告、SNS への取組の紹介と意見交換、Web サイトの新機能・Springer の今後の取組についての紹介があった。
- ・2015年6月9日編集委員会メール会議にて、論文の不正投稿に対するペナルティについて活発な議論を行い、正式な対応としては警告にとどめる事となった。
- ・2015年7月16日（木）浜松町 WTC コンファレンスセンターにおいて編集長会議を開催、不正投稿ペナルティに関するメール会議総括、学術会議からの検討依頼事項である Authorship と2重投稿の規程整備、DataPublication について検討した。また、地震学会の論文賞の選考対象として PEPS が追加承認された事が報告された。
- ・2015年8月27日（木）貸会議室プラザ八重洲北口において編集長会議を開催、論文表紙（CoverImage）の採用、DataPublication について検討した。また、編集者が投稿システム上で確認できる CrossCheck のオプション機能の説明、出版にかかるコストについて説明があった。
- ・2015年10月13日（火）浜松町 WTC コンファレンスセンターにおいて編集長会議を開催、PEPS の表彰制度、解像度の悪い査読終了論文・タイトルに問題のある論文への対応等を検討し、投稿テンプレートの更新について説明があった。
- ・2015年11月27日（金）TKP ガーデンシティ仙台において編集長会議を開催した。

■大会運営委員会

- ・2015年地球惑星科学連合大会を開催した。
- ・2015年9月9日（月）東京大学理学部1号館にて委員会を開催した。
- ・2015年11月28日（土）12:30～15:00 TKP 品川カンファレンスセンターにてプログラム編成会議を行った

■グローバル戦略委員会

- ・連合大会にて国際シンポジウム Geoscience Ahead を開催した。
- ・5月15日、8月18日、9月15日、11月24日グローバル戦略委員会開催を開催した。

■顕彰委員会

メーリングリスト等を用いて委員会ボードメンバー間にて顕彰関連の事案について検討を行った。

■フェロー審査委員会

- ・2015 年 12 月 31 日（木）を締切として、2016 年日本地球惑星科学連合フェローの候補者募集を行った。
- ・2016 年 2 月 19 日（金）学会センタービルにて委員会を開催し、フェロー候補者の審査を行った。

■地球惑星科学振興西田賞審査委員会

- ・2015 年大会において、第 1 回受賞者を表彰した。

■25 周年記念事業実行委員会（旧名称：25 周年記念事業準備委員会）

- ・2015 年度大会期間中に記念シンポジウムを開催し、海外協力学会から研究者を招聘した。
- ・25 周年記念行事が終了したため、第 6 回理事会にて本委員会の解散が承認された。

Ⅱ. 処務の状況

1. 役員等に関する事項

(1) 公益社団法人第5期会長、理事、監事

役 職			氏 名				所 属			
会 副 理	会 〃 〃 事 〃<									

(2) 公益社団法人第5期（平成26年度）社員

個人 98 名

（定款第11条 代議員の定数は、80名以上200名以内で社員総会において別に定める数とする。）

宇宙惑星科学選出 15 名

大村 善治	（京 都 大 学）	橘 省吾	（北 海 道 大 学）
小久保 英一郎	（国 立 天 文 台）	中村 正人	（宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構）
小嶋 浩嗣	（京 都 大 学）	長妻 努	（情 報 通 信 研 究 機 構）
草野 完也	（名 古 屋 大 学）	永原 裕子	（東 京 大 学）
倉本 圭	（北 海 道 大 学）	横山 央明	（東 京 大 学）
佐々木 晶	（大 阪 大 学）	吉川 顕正	（九 州 大 学）
関 華奈子	（名 古 屋 大 学）	渡邊誠一郎	（名 古 屋 大 学）
高橋 幸弘	（北 海 道 大 学）		

大気水圏科学選出 19 名

大手 信人	（東 京 大 学）	田中 博	（筑 波 大 学）
沖 理子	（宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構）	谷口 真人	（総 合 地 球 環 境 学 研 究 所）
蒲生 俊敬	（東 京 大 学）	知北 和久	（北 海 道 大 学）
河宮 未知生	（海 洋 研 究 開 発 機 構）	津田 敏隆	（京 都 大 学）
北 和之	（茨 城 大 学）	中島 映至	（東 京 大 学）
近藤 豊	（東 京 大 学）	原田 尚美	（海 洋 研 究 開 発 機 構）
佐藤 薫	（東 京 大 学）	日比谷紀之	（東 京 大 学）

杉田 倫明 (筑 波 大 学)
 鈴木 啓助 (信 州 大 学)
 田中 賢治 (京 都 大 学)

村山 泰啓 (情 報 通 信 研 究 機 構)
 吉田 尚弘 (東 京 工 業 大 学)

地球人間圏科学選出 13 名

井田 仁康 (筑 波 大 学)
 小口 高 (東 京 大 学)
 奥村 晃史 (広 島 大 学)
 近藤 昭彦 (千 葉 大 学)
 佐竹 健治 (東 京 大 学)
 島津 弘 (立 正 大 学)
 中村 俊夫 (名 古 屋 大 学)

七山 太 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
 春山 成子 (三 重 大 学)
 氷見山幸夫 (北 海 道 教 育 大 学)
 松本 淳 (首 都 大 学 東 京)
 安成 哲三 (総 合 地 球 環 境 学 研 究 所)
 横山 祐典 (東 京 大 学)

固体地球科学選出 30 名

井口 正人 (京 都 大 学)
 石渡 明 (東 北 大 学)
 岩森 光 (東 京 工 業 大 学)
 入船 徹男 (愛 媛 大 学)
 ウオリス サイモン (名 古 屋 大 学)
 歌田 久司 (東 京 大 学)
 大久保修平 (東 京 大 学)
 太田 雄策 (東 北 大 学)
 大谷 栄治 (東 北 大 学)
 鍵 裕之 (東 京 大 学)
 加藤 愛太郎 (東 京 大 学)
 川勝 均 (東 京 大 学)
 木村 学 (東 京 大 学)
 木村 純一 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 古村 孝志 (東 京 大 学)

竹村 恵二 (京 都 大 学)
 田中 聡 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 田中 愛幸 (東 京 大 学)
 中川 光弘 (北 海 道 大 学)
 中田 節也 (東 京 大 学)
 中谷 正生 (東 京 大 学)
 中村美千彦 (東 北 大 学)
 成瀬 元 (京 都 大 学)
 西村 卓也 (京 都 大 学)
 西山 忠男 (熊 本 大 学)
 浜野 洋三 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 深畑 幸俊 (京 都 大 学)
 松澤 暢 (東 北 大 学)
 道林 克禎 (静 岡 大 学)
 三井 雄太 (静 岡 大 学)

地球生命科学選出 10 名

磯崎 行雄 (東 京 大 学)
 井龍 康文 (東 北 大 学)
 遠藤 一佳 (東 京 大 学)
 大河内直彦 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 掛川 武 (東 北 大 学)

川幡 穂高 (東 京 大 学)
 北村 晃寿 (静 岡 大 学)
 小林 憲正 (横 浜 国 立 大 学)
 西 弘嗣 (東 北 大 学)
 高橋 嘉夫 (広 島 大 学)

地球惑星科学総合選出 11 名

飯田 佑輔 (宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)
 阿部 國廣 (自 然 再 生 セ ン タ ー)
 片山 直美 (名 古 屋 女 子 大 学)
 熊谷 英憲 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 佐野 有司 (東 京 大 学)
 瀧上 豊 (関 東 学 園 大 学)

畠山 正恒 (聖 光 学 院 中 学 高 等 学 校)
 宮嶋 敏 (埼 玉 県 立 深 谷 第 一 高 等 学 校)
 矢島 道子 (東 京 医 科 歯 科 大 学)
 山本 高司 (川 崎 地 質 (株))
 横山 広美 (東 京 大 学)

団体会員 50

日本宇宙生物科学会	生命の起原および進化学会	日本地熱学会
日本応用地質学会	石油技術協会	地理科学学会
日本温泉科学会	日本雪氷学会	日本地理学会
日本海洋学会	日本測地学会	日本地理教育学会
日本火山学会	日本大気化学会	地理教育研究会
形の科学会	日本大気電気学会	地理情報システム学会
日本活断層学会	日本堆積学会	東京地学協会
日本気象学会	日本第四紀学会	東北地理学会
日本鉱物科学会	日本地学教育学会	土壌物理学会
日本古生物学会	地学団体研究会	日本粘土学会
日本沙漠学会	日本地下水学会	日本農業気象学会
資源地質学会	日本地球化学会	物理探査学会
日本地震学会	地球環境史学会	日本陸水学会
日本情報地質学会	地球電磁気・地球惑星圏学会	陸水物理研究会
日本水文科学会	日本地形学連合	日本リモートセンシング学会
水文・水資源学会	日本地質学会	日本惑星科学会
生態工学会	日本地図学会	

(3) セクションボード

宇宙惑星科学セクション

佐々木 晶	(大 阪 大 学)	橘 省吾	(北 海 道 大 学)
高橋 幸弘	(北 海 道 大 学)	常田 佐久	(宇宙航空研究開発機構)
中村 昭子	(神 戸 大 学)	長妻 努	(情 報 通 信 研 究 機 構)
吉川 顕正	(九 州 大 学)	永原 裕子	(東 京 大 学)
牛尾 知雄	(大 阪 大 学)	中村 正人	(宇宙航空研究開発機構)
大村 善治	(京 都 大 学)	藤井 良一	(名 古 屋 大 学)
加藤 雄人	(東 北 大 学)	藤本 正樹	(宇宙航空研究開発機構)
草野 完也	(名 古 屋 大 学)	横山 央明	(東 京 大 学)
倉本 圭	(北 海 道 大 学)	塚本 尚義	(北 海 道 大 学)
小久保英一郎	(国 立 天 文 台)	渡邊誠一郎	(名 古 屋 大 学)
小嶋 浩嗣	(京 都 大 学)	渡部 潤一	(国 立 天 文 台)
関 華奈子	(名 古 屋 大 学)	和田 浩二	(千 葉 工 業 大 学)
田近 英一	(東 京 大 学)		

大気水圏科学セクション

中島 映至	(東 京 大 学)	多田 隆治	(東 京 大 学)
杉田 倫明	(筑 波 大 学)	知北 和久	(北 海 道 大 学)
川合 義美	(海洋研究開発機構)	花輪 公雄	(東 北 大 学)
沖 理子	(宇宙航空研究開発機構)	日比谷紀之	(東 京 大 学)
神沢 博	(名 古 屋 大 学)	松本 淳	(首 都 大 学 東 京)
鬼頭 昭雄	(気 象 庁)	村山 泰啓	(情 報 通 信 研 究 機 構)
近藤 豊	(東 京 大 学)		

地球人間圏科学セクション

氷見山幸夫	(北海道教育大学)	小口 千明	(埼 玉 大 学)
佐竹 健治	(東 京 大 学)	後藤 和久	(東 北 大 学)
春山 成子	(三 重 大 学)	近藤 昭彦	(千 葉 大 学)
島津 弘	(立 正 大 学)	鈴木 毅彦	(首 都 大 学 東 京)
須貝 俊彦	(東 京 大 学)	鈴木 康弘	(名 古 屋 大 学)

青木 賢人	(金 沢 大 学)	瀧上 豊	(関 東 学 園 大 学)
秋本 弘章	(獨 協 大 学)	千木良雅弘	(京 都 大 学)
荒井 良雄	(東 京 大 学)	藤原 広行	(防 災 科 学 技 術 研 究 所)
井田 仁康	(筑 波 大 学)	中村 俊夫	(名 古 屋 大 学)
上田 元	(東 北 大 学)	七山 太	(産 業 技 術 総 合 研 究 所)
碓井 照子	(奈 良 大 学)	松本 淳	(首 都 大 学 東 京)
海津 正倫	(名 古 屋 大 学)	目代 邦康	(自 然 保 護 助 成 基 金)
岡本 耕平	(名 古 屋 大 学)	安成 哲三	(総 合 地 球 環 境 学 研 究 所)
奥村 晃史	(広 島 大 学)	横山 祐典	(東 京 大 学)
小口 高	(東 京 大 学)	渡辺 悌二	(北 海 道 大 学)

固体地球科学セクション

大谷 栄治	(東 北 大 学)	サティッシュ クマール マトースダシ	(新 潟 大 学)
西山 忠男	(熊 本 大 学)	鈴木 勝彦	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
木村 純一	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	田中 聡	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
入船 徹男	(愛 媛 大 学)	中川 光弘	(北 海 道 大 学)
岩森 光	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	中田 節也	(東 京 大 学)
ウリス サイモン	(名 古 屋 大 学)	成瀬 元	(京 都 大 学)
歌田 久司	(東 京 大 学)	古村 孝志	(東 京 大 学)
大久保修平	(東 京 大 学)	日置 幸介	(北 海 道 大 学)
金川 久一	(千 葉 大 学)	松澤 暢	(東 北 大 学)
唐戸俊一郎	(Yale University)	道林 克禎	(静 岡 大 学)
川勝 均	(東 京 大 学)		

地球生命科学セクション

小林 憲正	(横 浜 国 立 大 学)	大河内直彦	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
川幡 穂高	(東 京 大 学)	掛川 武	(東 北 大 学)
磯崎 行雄	(東 京 大 学)	北村 晃寿	(静 岡 大 学)
生形 貴男	(京 都 大 学)	鈴木 庸平	(東 京 大 学)
高野 淑識	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	高橋 嘉夫	(広 島 大 学)
稲垣 史生	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	西 弘嗣	(東 北 大 学)
井龍 康文	(東 北 大 学)	真鍋 真	(国 立 科 学 博 物 館)
遠藤 一佳	(東 京 大 学)	山岸 明彦	(東 京 薬 科 大 学)
北里 洋	Founder President (海 洋 研 究 開 発 機 構)		

(4) 委員会等

総務委員会

古村 孝志	(東 京 大 学)	川合 義美	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
成瀬 元	(京 都 大 学)		

財務委員会

北 和之	(茨 城 大 学)	高野 修	(石 油 資 源 開 発 株 式 有 限 公 司)
西 弘嗣	(東 北 大 学)	向山 栄	(国 際 航 空 株 式 有 限 公 司)
山田 泰広	(海 洋 研 究 開 発 機 構)		

広報普及委員会

田近 英一	(東 京 大 学)	佐藤 活志	(京 都 大 学)
原 辰彦	(建 築 研 究 所)	関根 康人	(東 京 大 学)
成瀬 元	(京 都 大 学)	高橋 幸弘	(北 海 道 大 学)

道林 克禎	(静 岡 大 学)	瀧上 豊	(関 東 学 園 大 学)
阿部 彩子	(東 京 大 学)	橘 省吾	(北 海 道 大 学)
安藤 寿男	(茨 城 大 学)	谷 篤史	(大 阪 大 学)
生形 貴男	(京 都 大 学)	東宮 昭彦	(産業技術総合研究所)
大河内直彦	(海洋研究開発機構)	宮本 英昭	(東 京 大 学)
奥村 晃史	(広 島 大 学)	山田 耕	(早 稲 田 大 学)
笠井 康子	(通 信 総 合 研 究 所)	横山 広美	(東 京 大 学)
久利 美和	(東 北 大 学)	吉本 和生	(横 浜 市 立 大 学)
紺屋 恵子	(海洋研究開発機構)		

環境災害対応委員会

田中 賢治	(京 都 大 学)	後藤真太郎	(立 正 大 学)
奥村 晃史	(広 島 大 学)	作野 裕司	(広 島 大 学)
北 和之	(茨 城 大 学)	塩竈 秀夫	(国 立 環 境 研 究 所)
小荒井 衛	(国 土 地 理 院)	志村 喬	(上 越 教 育 大 学)
吾妻 崇	(産業技術総合研究所)	鈴木 正哉	(産業技術総合研究所)
井口 隆	(防災科学技術研究所)	竹村 貴人	(日 本 大 学)
石峯 康浩	(国立保健医療科学院)	知北 和久	(北 海 道 大 学)
宇根 寛	(国 土 地 理 院)	林 武司	(秋 田 大 学)
卜部 厚志	(新 潟 大 学)	前杵 英明	(法 政 大 学)
大月 義徳	(東 北 大 学)	益田 晴恵	(大 阪 市 立 大 学)
大野 博之	((株) 環 境 地 質)	松島 大	(千 葉 工 業 大 学)
小田 啓邦	(産業技術総合研究所)	松本 淳	(首 都 大 学 東 京)
加藤 愛太郎	(名 古 屋 大 学)	宮地 良典	(産業技術総合研究所)
加藤 俊吾	(首 都 大 学 東 京)	村山 良之	(山 形 大 学)
河島 克久	(新 潟 大 学)	柳澤 教雄	(産業技術総合研究所)
川畑 大作	(産業技術総合研究所)	山崎 淳司	(早 稲 田 大 学)
北村 晃寿	(静 岡 大 学)	山下 亜紀郎	(筑 波 大 学)
熊木 洋太	(専 修 大 学)	吉川 顕正	(九 州 大 学)
小司 禎教	(気 象 研 究 所)	吉本 充宏	(富 士 山 科 学 研 究 所)
後藤 和久	(東 北 大 学)		

ダイバーシティ推進委員会

原田 尚美	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	小口 千明	(埼 玉 大 学)
坂野井 和代	(駒 澤 大 学)	高橋 幸弘	(北 海 道 大 学)
中村 正人	(宇宙航空研究開発機構)	渡邊 誠一郎	(名 古 屋 大 学)
小川 佳子	(会 津 大 学)	坂野井 健	(東 北 大 学)
天野 敦子	(産業技術総合研究所)	下司 信夫	(産業技術総合研究所)
紺屋 恵子	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	清野 直子	(気 象 研 究 所)
宋 苑瑞	(東 京 大 学)	土屋 範芳	(東 北 大 学)
西澤 あずさ	(海 上 保 安 庁)	富樫 茂子	(産業技術総合研究所)
宮下 由香里	(産業技術総合研究所)	若狭 幸	(秋 田 大 学)
末吉 哲雄	(国 立 極 地 研 究 所)	小杉 緑子	(京 都 大 学 大 学 院)
田近 英一	(東 京 大 学)	津野 宏	(横 浜 国 立 大 学)
藤光 康宏	(九 州 大 学)	松山 洋	(首 都 大 学 東 京)
佐藤 薫	(東 京 大 学)	栗田 敬	(東 京 大 学)
新井 真由美	(日 本 科 学 未 来 館)	浜田 盛久	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
守屋 和佳	(早 稲 田 大 学)	濱村 奈津子	(九 州 大 学)
吉川 知里	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	南雲 直子	(土 木 研 究 所)
古市 剛久	(University of the Sunshine Coast)	井岡 聖一郎	(弘 前 大 学)

教育検討委員会

畠山 正恒	(聖光学院中学高等学校)	武田 和久	(㈱開発設計コンサルタント)
瀧上 豊	(関東学園大学)	辻村 真貴	(筑波大学)
渡邊誠一郎	(名古屋大学)	津野 宏	(横浜国立大学)
縣 秀彦	(国立天文台)	中井 仁	(茨木工科高等学校)
阿部 國廣	(自然再生センター)	中井 睦美	(大東文化大学)
新井 真由美	(日本科学未来館)	西木 敏夫	(目白学園)
飯田 和明	(浦和東高等学校)	縫村 崇行	(千葉科学大学)
伊東 明彦	(宇都宮大学)	根本 泰雄	(桜美林大学)
伊藤 孝	(茨城大学)	納口 恭明	(防災科学技術研究所)
大園 真子	(山形大学)	濱田 浩美	(千葉大学)
大谷 具幸	(岐阜大学)	林 慶一	(甲南大学)
大村 善治	(京都大学)	林田 佐智子	(奈良女子大学)
小川 康雄	(東京工業大学)	廣内 大助	(信州大学)
奥野 誠	(東京大学)	藤 浩明	(京都大学)
奥山 康子	(産業技術総合研究所)	藤本 光一郎	(東京学芸大学)
海東 達也	(竹早高校)	松浦 執	(東海大学)
加藤 禎夫	(松山高等学校)	松島 潤	(東京大学)
川合 美千代	(東京海洋大学)	松本 剛	(琉球大学)
熊原 康博	(広島大学)	萬年 一剛	(神奈川県温泉地学研究所)
小谷 亜由美	(名古屋大学)	三田 肇	(福岡工業大学)
小寺 浩二	(法政大学)	南島 正重	(両国高等学校)
西城 潔	(宮城教育大学)	宮岡 邦任	(三重大学)
坂本 正徳	(国学院大学)	宮崎 忠國	(東京農業大学)
佐溝 信幸	(資源開発(株))	宮下 敦	(成蹊中学高等学校)
佐々木 晶	(大阪大学)	宮嶋 敏	(深谷第一高等学校)
芝川 明義	(花園高等学校)	山崎 淳司	(早稲田大学)
島津 弘	(立正大学)	山下 敏	(熊谷女子高等学校)
鈴木 文二	(春日部女子高校)	山田 伸之	(福岡教育大学)
高橋 栄一	(東京工業大学)	山野 誠	(東京大学)
滝沢 由美子	(帝京大学)	吉本 充宏	(山梨県富士山科学研究所)
竹内 裕一	(千葉大学)		

情報システム委員会

村山 泰啓	(情報通信研究機構)	金田平太郎	(千葉大学)
小口 高	(東京大学)	坂口 有人	(山口大学)
近藤 康久	(総合地球環境学研究所)	篠原 育	(宇宙航空研究開発機構)
古村 孝志	(東京大学)	横山 央明	(東京大学)

ジャーナル企画経営委員会

川幡 穂高	(東京大学)	小林 憲正	(横浜国立大学)
津田 敏隆	(京都大学)	佐々木 晶	(大阪大学)
木村 学	(東京大学)	佐藤 正樹	(東京大学)
中村 正人	(宇宙航空研究開発機構)	多田 隆治	(東京大学)
井龍 康文	(東北大学)	田近 英一	(東京大学)
大谷 栄治	(東北大学)	中島 映至	(東京大学)
小田 啓邦	(産業技術総合研究所)	氷見山 幸夫	(北海道教育大学)
小原 一成	(東京大学)	杉田 倫明	(筑波大学)
西 弘嗣	(東北大学)		

ジャーナル編集委員会

川幡 穂高	(東 京 大 学)	佐藤 正樹	(東 京 大 学)
井龍 康文	(東 北 大 学)	渋谷 和雄	(国 立 極 地 研 究 所)
池原 研	(産 業 技 術 総 合 研 究 所)	清水 久芳	(東 京 大 学)
井上 源喜	(大 妻 女 子 大 学)	杉田 文	(千 葉 商 科 大 学)
ウリス サイモン	(名 古 屋 大 学)	多田 隆治	(東 京 大 学)
遠藤 一佳	(東 京 大 学)	千木良 雅弘	(京 都 大 学)
大竹 真紀子	(宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)	中田 節也	(東 京 大 学)
大谷 栄治	(東 北 大 学)	長妻 努	(情 報 通 信 研 究 機 構)
大手 信人	(東 京 大 学)	早坂 忠裕	(東 北 大 学)
小原 一成	(東 京 大 学)	日比谷 紀之	(東 京 大 学)
加藤 照之	(東 京 大 学)	平島 崇男	(京 都 大 学)
金谷 有剛	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	松本 淳	(首 都 大 学 東 京)
川勝 均	(東 京 大 学)	三ヶ田 均	(京 都 大 学)
菊地 俊夫	(首 都 大 学 東 京)	宮内 崇裕	(千 葉 大 学)
倉本 圭	(北 海 道 大 学)	村山 祐司	(筑 波 大 学)
兒玉 裕二	(国 立 極 地 研 究 所)	山本 衛	(京 都 大 学)
小林 憲正	(横 浜 国 立 大 学)	芳村 圭	(東 京 大 学)
近藤 昭彦	(千 葉 大 学)	渡辺 寧	(秋 田 大 学)

大会運営委員会

浜野 洋三	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	近藤 昭彦	(千 葉 大 学)
岩上 直幹	(東 京 大 学)	財城 真寿美	(成 蹊 大 学)
興野 純	(筑 波 大 学)	高橋 幸弘	(北 海 道 大 学)
北 和之	(茨 城 大 学)	中村 昭子	(神 戸 大 学)
赤坂 郁美	(専 修 大 学)	能勢 正仁	(京 都 大 学)
大月 祥子	(専 修 大 学)	和田 浩二	(千 葉 工 業 大 学)
金川 久一	(千 葉 大 学)		

グローバル戦略委員会

木村 学	(東 京 大 学)	末広 潔	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
ウリス サイモン	(名 古 屋 大 学)	多田 隆治	(東 京 大 学)
関 華奈子	(名 古 屋 大 学)	田島 文子	(University of California)
橘 省吾	(北 海 道 大 学)	中島 映至	(東 京 大 学)
高橋 幸弘	(北 海 道 大 学)	中村 尚	(東 京 大 学)
日比谷 紀之	(東 京 大 学)	春山 成子	(三 重 大 学)
大谷 栄治	(東 北 大 学)	氷見山 幸夫	(北 海 道 教 育 大 学)
加藤 照之	(東 京 大 学)	藤本 正樹	(宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)
小林 憲正	(横 浜 国 立 大 学)	村山 泰啓	(情 報 通 信 研 究 機 構)
佐々木 晶	(大 阪 大 学)	三宅 弘恵	(東 京 大 学)

顕彰委員会

中村 正人	(宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)	奥村 晃史	(広 島 大 学)
成瀬 元	(京 都 大 学)	須貝 俊彦	(東 京 大 学)
諸田 智克	(名 古 屋 大 学)	ウリス サイモン	(名 古 屋 大 学)
渡部 重十	(北 海 道 大 学)	川勝 均	(東 京 大 学)
飯田 真一	(森 林 総 合 研 究 所)	磯崎 行雄	(東 京 大 学)
田中 博	(筑 波 大 学)	真鍋 真	(国 立 科 学 博 物 館)

フェロー審査委員会

* 審査委員会規則第6条により、委員名は当該年度の全委員が改選された時点で公表するものとする。

25周年記念事業実行委員会

津田 敏隆	(京 都 大 学)	田近 英一	(東 京 大 学)
小口 高	(東 京 大 学)	中村 正人	(宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)
川幡 穂高	(東 京 大 学)	浜野 洋三	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
木村 学	(東 京 大 学)	古村 孝志	(東 京 大 学)

2. 役員会等に関する事項

(1) 平成27年定期社員総会

平成27年5月27日(水) 16:15~17:15、千葉幕張メッセ国際会議場 国際会議室において開催。次の議案が付議され、原案通り承認された。

開催月日	議 事 事 項	
5月27日	第1号議案 平成26年度(公益社団法人第4期)決算承認の件 第2号議案 法人運営基本規程第3条(団体会員の入会基準)改正の件	承認

(2) 理事会

6回開催した。主要決議事項は以下の通りである。

開催月日	議 事 事 項	
平成27年 5月7日(第1回)	第1号議案 会員(正会員)入会承認の件 第2号議案 委員会委員承認の件 第3号議案 代議員選挙規則改正の件 第4号議案 役員選考関連規則改正の件 第5号議案 総会議事および資料承認の件 第6号議案 国内準備タスクフォース(仮称)設置の件	承認 承認 承認 承認 承認 承認
7月18日(第2回)	第1号議案 会員(正会員)入会承認の件 第2号議案 委員会委員承認の件 第3号議案 大会参加登録費改訂の件 第4号議案 選挙管理委員会設置の件 第5号議案 調達規則改正の件 第6号議案 会計規則設置の件 第7号議案 男女共同委員会キャリア支援委員会統合の件 第8号議案 地震連絡学会継続加入の件 第9号議案 事務局職員雇用の件 第10号議案 教員免許更新講習事業の件 第11号議案 その他 ・日本気象学会研究集会「航空機観測による気候・地球システム科学研究の推進」への共催について ・時給規則について	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認
9月16日(第3回)	第1号議案 新入会員承認の件 第2号議案 委員会委員承認の件 第3号議案 フェロー制度規則改定の件 第4号議案 EGUとのMOUの改定の件 第5号議案 理数系学会教育問題連絡会シンポジウム 共同主催の件 第6号議案 その他 「防災学術連携体」(同連絡会より改称)への年会費5万円の支出について	承認 承認 承認 承認 承認 承認

10月26日(第4回)	第1号議案 会員(正会員)入会承認の件 第2号議案 委員会委員承認の件 第3号議案 教員免許更新講座の件	承認 承認 継続審議
平成28年1月28日 (第5回)	第1号議案 会員(正会員)入会承認の件 第2号議案 JpGU-AGU共同事業推進資金(仮称)化について	承認 承認
3月10日(第6回)	第1号議案 新入会員承認 第2号議案 平成28年度事業計画および収支予算書承認の件 第3号議案 2016年度連合フェローの承認の件 第4号議案 IAG-IASPEI2017大会協賛の件 第5号議案 IGAC-iCACGP2018 サポートレター承認の件 第6号議案 25周年記念行事実行委員会の解散の件 第7号議案 (理事会開催以前に取り下げのため審議事項より削除) 第8号議案 教員免許更新講習開設の件 第9号議案 その他	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認

メール審議

開催月日	審議事項	
3月18日発出	高等学校「理科」の基礎が付された全4科目必修化に関する提言 「地学基礎」の内容の精選と深化を求める提言	承認 継続審議

(3) 学協会長会議

平成27年5月27日(水) 午後1時から2時 幕張メッセ国際会議場 302号室

平成27年10月8日(木) 午後3時から5時 東京大学地震研究所1号館2階セミナー室

にて開催された。議題は以下の通りである。

開催月日	議 事 事 項
第12回 5月27日	1. 前回議事録確認 2. 日本地球惑星科学連合活動報告 3. 法人運営基本規程第3条(団体会員の入会基準)の変更について 4. 日本学術会議の近況報告 5. 次期学協会長議長の選任□
第13回 10月8日	1. 前回議事録確認 2. 日本地球惑星科学連合活動報告 3. 日本学術会議の近況報告 4. その他

3. 関連団体との連携及び協力に関する事項

・共催・協賛・後援等

承認日	種別	会合名等	開催期間
4月1日	後援	われわれはどこに住めばよいのか?～地図を作り、読み、災害から身を守る～	2015年6月20日(土)
4月17日	協賛	第56回高圧討論会	2015年11月10日(火)～11月12日(木)
6月15日	協賛	日本地質学第122年学術大会巡検	2015年9月10日(木)～15日(火)
6月24日	協賛	2015年 URSI 日本電波科学会議	2015年9月3日(木)～4日(金)
7月7日	協賛	女子中高生夏の学校 2015～科学・技術・人との出会い～	2017年8月6日(木)～8日(土)
7月8日	後援	「沈み込み帯堆積盆地のリソスフェア・ダイナミクス」	2015年10月5日(月)～2015年10月9日(金)
7月18日	共催	研究集会「航空機観測による気候・地球システム科学研究の推進」	2015年9月1日(火)～2日(水)
8月19日	共催	第10回科学地理オリンピック日本選手権および第13回国際地理オリンピック日本代表選抜大会	2015年10月1日(木)～2016年3月13日(日)
9月24日	後援	非線形波動とカオス国際ワークショップ	2017年3月20日(月)～3月24日(金)
9月15日	共同主催	「理数系教育におけるアクティブ・ラーニング」	2015年11月8日(日)
9月24日	後援	ジオハザードに対処できる人材の育成:防災国際ネットワーク構築に向けた国内連携のあり方	2015年11月20日(金)
10月5日	共催	ビッグデータ・データサイエンスに関わる学生/研究者、企業人の異分野・異業種交流会	2016年1月31日(日)
10月13日	後援	強靱で安全・安心な都市を支える地質地盤—あなたの家の足元は大丈夫?—	2016年1月23日(土)
10月21日	後援	公開シンポジウム「生命を育む地球環境の変動予測と適応—我が国における IGBP25 年間の歩み」	2015年11月15日(日)
10月22日	協賛	CODATA ジャパン・データサイテーション・ワークショップ	2015年10月29日(木)
11月19日	協賛	モンスーンアジア文気候研究計画(MAHASRI)国際科学会議(The International Science Conference on MAHASRI)	2016年3月2日(水)～3月4日(金)
11月27日	後援	サイエンスキャッスル 2015 東北大会	2015年12月6日(日)
11月27日	後援	サイエンスキャッスル 2015 関東大会	2015年12月20日(日)
11月27日	後援	サイエンスキャッスル 2015 関西大会	2015年12月23日(水)
12月2日	後援	データシェアリングシンポジウム	2016年2月29日(月)
12月14日	協賛	2015年度量子ビームサイエンスフェスタ	2016年3月15日(火)～13月6日(水)
12月17日	協賛	ハイパフォーマンスコンピューティングと計算科学シンポジウム	2016年6月6日(月)～6月7日(火)
2月5日	協賛	第20回計算工学講演会	2016年5月31日(火)～6月2日(木)
3月9日	後援	科学教育研究協議会 第63回全国研究大会・静岡大会	2016年8月6日(土)～8月8日(月)
3月10日	協賛	IAG-IASPEI 2017 Joint Assembly	2017年7月30日～8月4日

・サポートレターの発行

承認日	件名	申請者
4 月 14 日	名古屋大学宇宙地球環境研究所(仮称)共同利用・共同研究拠点の認定について	名古屋大学太陽地球環境研究所 所長 町田 忍
5 月 21 日	「連携ネットワーク型共同利用・共同研究拠点」申請にかかるサポートレター	海洋研究開発機構北極環境変動総合 研究センター長 河野 健
3 月 20 日	Joint 14th Quadrennial iCACGP Symposium/15th IGAC Science Conference in 2018 in Takamatsu, Kagawa 開催	国立環境研究所 地球環境研究セン ター 地球大気化学研究室室長 谷本 浩志

・声明文・談話の発表

「あかつきの金星到着に寄せて」2015 年 12 月 10 日

・プレスリリース

「2017 年における JpGU-AGU 共同大会開催について」2015 年 12 月 25 日

4. 登記、申請等に関する事項

なし

5. 職員に関する事項

勤務形態	当期末 (平成 27 年 3 月末)	前期末比増減	備考
週 5 日勤務	3 名	1 名	山本味沙 (平成 27 年 9 月 1 日採用)
週 4 日勤務	2 名	0 名	
週 2 日勤務	3 名	0 名	
週 1 日勤務	5 名	0 名	
合 計	13 名	0 名	

6. その他

(1) 特定費用準備資金、25周年記念事業開催に関する事項

特定費用準備資金「日本地球惑星科学連合大会記念行事開催資金」から、計画通り大会会場の拡充、また記念シンポジウム「Geoscience Ahead」に出席する研究者の招聘旅費等に使用した。

(2) 特定費用準備資金、国際化推進に関する事項

特定費用準備資金「日本地球惑星科学連合国際化推進資金」から、AGUとの大会準備に向けた会合に関わる出張旅費、また国際会議INQUA Congress 2015における情報発信のためのブース出展等に使用した。

(3) 連合諸規則・規程等の制定と改正

- ・代議員選挙規則の改正
- ・役員候補者推薦委員会規則および選挙管理委員会規則の改正
- ・役員候補者選挙規則、役員候補者選挙実施細則の廃止
- ・理事候補者選挙規則、理事候補者選挙実施細則を設置
- ・調達規則の改正
- ・会計処理規則および公印取り扱い規則を設置
- ・フェロー制度規則の改正
- ・男女共同参画委員会およびキャリア支援委員会を統合しダイバーシティ推進委員会を設置、それに基づき委員会規則設置、ならびに関連規則委員会名変更
- ・25周年記念事業実行委員会解散

(4) 代議員構成に関する将来構想

- ・10月8日(木)に開催された学協会長会議にて、前年度に引き続き意見交換をした。
- ・10月16日(金)に開催された経営企画会議にて、学協会長会議での議論を踏まえ意見交換をした。
- ・10月26日(木)理事会にて学協会長会議、経営企画会議で出た意見や議論を報告し、それに基づいて意見交換をした。定款や規則を変更して体制を新たにする場合の新体制などが議論された。
- ・1月28日(木)第5回理事会にて意見交換をした。平成29年度定時社員総会で定款変更をする場合のスケジュールや、新体制のあり方が議論された。
- ・3月10日(木)第6回理事会にて会長より検討状況の報告があった。今後検討・改訂の必要な規則

が示され、意見交換を行った。

(5) 代議員選挙・セクションプレジデント選挙に関する事項

・選挙管理委員会を組織し、代議員選挙、セクションプレジデント選挙および理事候補者選挙を以下の日程で行った。開票結果詳細は、日本地球惑星科学連合ホームページに掲載した。

選挙管理委員名簿

浜田 盛久	海洋研究開発機構
行松 彰	極地研究所
長谷川拓也	海洋研究開発機構
吉田英嗣	明治大学
飯塚 毅	東京大学
癸生川 陽子	横浜国立大学

1. 代議員選挙

代議員選挙日程

代議員選挙公示	平成27年 8月 4日 (月)
代議員選挙立候補等受付開始	平成27年 8月12日 (水)
代議員選挙立候補等受付締切	平成27年 9月14日 (月)
代議員選挙投票開始	平成27年 9月29日 (火)
代議員選挙投票締切	平成27年 10月28日 (水)
代議員選挙開票、結果報告	平成27年 11月 2日 (月)

代議員選挙定数

有権者総数	7936 名
投票総数	1510 名 (投票率19.0%)
代議員選出総数	100名
宇宙惑星科学	: 16名
大気水圏科学	: 19名
地球人間圏科学	: 14名
固体地球科学	: 31名
地球生命科学	: 10名
地球惑星科学総合	: 11名

2015 年代議員選挙選出代議員 (100 名) 任期 : 2016 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日
(登録区分別、50 音順)

■宇宙惑星科学選出 16 名

笠羽 康正 (東 北 大 学)
 倉本 圭 (北 海 道 大 学)
 佐々木 晶 (大 阪 大 学)
 高橋 幸弘 (北 海 道 大 学)
 橘 省吾 (北 海 道 大 学)
 中村 昭子 (神 戸 大 学)
 中村 正人 (宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)
 吉川 顕正 (九 州 大 学)

草野 完也 (名 古 屋 大 学)
 小久保 英一郎 (国 立 天 文 台)
 関 華奈子 (名 古 屋 大 学)
 田近 英一 (東 京 大 学)
 長妻 努 (情 報 通 信 研 究 機 構)
 中村 卓司 (国 立 極 地 研 究 所)
 能勢 正仁 (京 都 大 学)
 渡邊 誠一郎 (名 古 屋 大 学)

■大気水圏科学選出 19 名

伊藤 進一 (東 京 大 学)
 蒲生 俊敬 (東 京 大 学)
 河宮 未知生 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 近藤 豊 (国 立 極 地 研 究 所)
 佐藤 正樹 (東 京 大 学)
 坪木 和久 (名 古 屋 大 学)
 花輪 公雄 (東 北 大 学)
 原田 尚美 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 日比谷 紀之 (東 京 大 学)
 吉田 尚弘 (東 京 工 業 大 学)

沖 理子 (宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)
 川合 義美 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 北 和之 (茨 城 大 学 理 学 部)
 佐藤 薫 (東 京 大 学)
 津田 敏隆 (京 都 大 学)
 中村 尚 (東 京 大 学)
 早坂 忠裕 (東 北 大 学)
 東塚 知己 (東 京 大 学)
 安成 哲平 (北 海 道 大 学)

■地球人間圏科学選出 14 名

秋本 弘章 (獨 協 大 学)
 小口 千明 (埼 玉 大 学)
 近藤 昭彦 (千 葉 大 学)
 島津 弘 (立 正 大 学)
 七山 太 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
 氷見山 幸夫 (北 海 道 教 育 大 学 名 誉 教 授)
 松本 淳 (首 都 大 学 東 京)

小口 高 (東 京 大 学)
 奥村 晃史 (広 島 大 学)
 佐竹 健治 (東 京 大 学)
 須貝 俊彦 (東 京 大 学)
 春山 成子 (三 重 大 学)
 古谷 勝則 (千 葉 大 学)
 安成 哲三 (総 合 地 球 環 境 学 研 究 所)

■固体地球科学選出 31 名

阿部 なつ江 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 入舩 徹男 (愛 媛 大 学)
 岩森 光 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 歌田 久司 (東 京 大 学)
 太田 雄策 (東 北 大 学)
 鍵 裕之 (東 京 大 学)
 亀 伸樹 (東 京 大 学)
 木村 学 (東 京 大 学)
 久家 慶子 (京 都 大 学)
 島 伸和 (神 戸 大 学)
 田中 聡 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 西村 卓也 (京 都 大 学 防 災 研 究 所)
 橋本 武志 (北 海 道 大 学)
 林 能成 (関 西 大 学)
 松澤 暢 (東 北 大 学)
 山岡 耕春 (名 古 屋 大 学)

井出 哲 (東 京 大 学)
 岩田 知孝 (京 都 大 学)
 ウォリス サイモン (名 古 屋 大 学)
 大久保 修平 (東 京 大 学)
 大谷 栄治 (東 北 大 学)
 片山 郁夫 (広 島 大 学)
 川勝 均 (東 京 大 学)
 木村 純一 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 篠原 宏志 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
 下司 信夫 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
 趙 大鵬 (東 北 大 学)
 西村 太志 (東 北 大 学)
 浜野 洋三 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 古村 孝志 (東 京 大 学)
 道林 克禎 (静 岡 大 学)

■地球生命科学選出 9 名

井龍 康文 (東 北 大 学)
 大河内 直彦 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 北村 晃寿 (静 岡 大 学)
 高野 淑識 (海 洋 研 究 開 発 機 構)

遠藤 一佳 (東 京 大 学)
 川幡 穂高 (東 京 大 学)
 高井 研 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 高橋 嘉夫 (東 京 大 学)

西 弘嗣 (東 北 大)

■地球惑星科学総合選出 11 名

阿部 國廣	(認定 P O 法人自然再生センター)	飯田 佑輔	(宇宙航空研究開発機構)
小田 啓邦	(産業技術総合研究所)	熊谷 英憲	(海洋研究開発機構)
小林 則彦	(西 武 学 園)	佐野 有司	(東 京 大 学)
瀧上 豊	(関 東 学 園 大 学)	畠山 正恒	(聖光学院中学高等学校)
宮嶋 敏	(埼玉県立深谷第一高等学校)	矢島 道子	(東京医科歯科大学)
横山 広美	(東 京 大 学)		

2. セクションプレジデント選挙

セクションプレジデント選挙日程

セクションプレジデント選挙、公示	平成27年	11月 2日 (金)
セクションプレジデント選挙、候補者受付開始	平成27年	11月 5日 (木)
セクションプレジデント選挙、候補者受付締切	平成27年	11月16日 (月)
セクションプレジデント選挙、投票開始	平成27年	11月25日 (水)
セクションプレジデント選挙、投票締切	平成27年	12月 8日 (火)
セクションプレジデント選挙、開票、結果報告	平成27年	12月14日 (月)

2015年セクションプレジデント選挙結果

全てのセクションにおいて、それぞれ1名ずつ立候補・推薦があり、会員による投票をまたず、セクションプレジデントを決定した。 任期は、2016年6月1日～2018年5月31日

■宇宙惑星科学セクションプレジデント

高橋 幸弘 (北 海 道 大 学)

■大気水圏科学セクションプレジデント

蒲生 俊敬 (東 京 大 学)

■地球人間圏科学セクションプレジデント

春山 成子 (三 重 大 学)

■固体地球科学セクションプレジデント

大谷 栄治 (東 北 大 学)

■地球生命科学セクションプレジデント

遠藤 一佳 (東 京 大 学)

3. 理事候補者選挙

理事候補者選挙日程

公示 平成 27 年 12月14日 (月)

候補者受付開始 平成 27 年 12 月 21日 (月)

候補者受付締切 平成 28 年 1 月 8日 (金)

投票開始 平成 28 年 1 月 29 日（金）

投票締切 平成 28 年 2 月 15 日（月）

開票 平成 28 年 2 月 19 日（金）

開票集計後、投票結果を役員候補者推薦委員会に提出した。

4. 役員候補者推薦委員会

平成 28 年 2 月 29 日（月）役員候補者推薦委員会会議開催

選挙管理委員会より提出された理事候補者選挙の選挙結果を元に、理事候補者 20 名を選出した。また監事候補者 3 名を選出した。この候補者を来年度定時社員総会へ提出する。

役員候補者推薦委員会名簿

会長	津田敏隆	（京都大学）
学協会長会議議長	日比谷紀之	（東京大学）
セクションプレジデント		
宇宙惑星科学	高橋幸弘	（北海道大学）
大気水圏科学	蒲生俊敬	（東京大学）
地球人間圏科学	春山成子	（三重大学）
固体地球科学	大谷栄治	（東北大学）
地球生命科学	遠藤一佳	（東京大学）

理事候補者（50 音順）

氏名	
井出 哲	（東京大学）
ウォリス サイモン	（名古屋大学）
小口 高	（東京大学）
小口 千明	（埼玉大学）
奥村 晃史	（広島大学）
川幡 穂高	（東京大学）
北 和之	（茨城大学）
木村 学	（東京大学）
倉本 圭	（北海道大学）
瀧上 豊	（関東学園大学）
田近 英一	（東京大学）
津田 敏隆	（京都大学）
中村 昭子	（神戸大学）
中村 正人	（宇宙航空開発機構）
西 弘嗣	（東北大学）

浜野 洋三	(海洋研究開発機構)
原田 尚美	(海洋研究開発機構)
日比谷 紀之	(東京大学)
古村 孝志	(東京大学)
道林 克禎	(静岡大学)

監事候補者（50 音順）

北里 洋	(海洋研究開発機構)
鈴木 善和	(プラタナス法律事務所)
氷見山 幸夫	(北海道教育大学名誉教授)

Ⅱ. 会員の状況

(平成 27 年 3 月末)

	第 1 期末	第 2 期末	第 3 期末	第 4 期末	第 5 期末	増減
--	--------	--------	--------	--------	--------	----

個人会員

正会員	7139	7304	7540	7610	8021	+ 411
準会員 (学部生以下)	390	392	392	410	418	+ 8
大会会員	631	634	665	699	1061	+ 362

団体会員

	48	49	50	50	50	0
--	----	----	----	----	----	---

賛助会員

	0	1	1	2	2	0
--	---	---	---	---	---	---

平成 28 年度 事業計画書

自 平成 28 年 4 月 1 日

至 平成 29 年 3 月 31 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4 階
電話：03-6914-2080 Fax：03-6914-2088

平成 28 年度 事 業 計 画 書

公益社団法人第 6 期（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

平成 28 年（2016 年）度は、公益社団法人日本地球惑星科学連合（以下、「連合」という。）がこれまで推進してきた「我が国の地球惑星科学コミュニティーを代表し、国際連携及び社会への情報発信、関連分野の研究発表及び情報交換を行い、学術及び科学技術の振興等に寄与することを目的とする活動」を推進する。特に、

- 1) 日本地球惑星科学連合大会の更なる発展
- 2) 一般公開講座や高校生セッション等の開催や国際地学・地理オリンピック活動支援等を通しての、関連科学の一般への普及
- 3) 国の科学・技術政策、教育問題の検討や提言、キャリアパス支援活動等を通しての教育・キャリア支援
- 4) 連合ジャーナルの刊行

の活動を強化する。

ヨーロッパ地球惑星科学連合(EGU)、アジア太平洋地球科学学会(AOGS)及びアメリカ地球物理連合(AGU)等の組織との国際連携を一層強化して、地球惑星科学の更なる国際化の展開と発展を目指す。

また、2016 年連合大会は、AGU と連携し、多数の国際セッションを合同で開催する。

I. 事業の概要

1. 地球惑星科学に関わる研究発表会及び国際会議等の開催

(1) 日本地球惑星科学連合 2016 年大会（連合大会）の開催

地球惑星科学に関する学理及びその応用に関する研究発表を通じて、地球惑星科学の進歩と普及を図ることを目的に、当該科学に関連する研究、教育に携わる、あるいは関心を持つ全ての人々を対象として、公開による学術大会を開催し、関連分野の研究発表と情報交換の場を設ける。また、地球惑星科学に関連した研究教育機関、学協会、民間企業からの最新の情報や、各種プロジェクトの成果を大会参加者に紹介するための展示を設けるとともに、学術研究及び教育に有益な、地球惑星科学関連書籍・機器・資料の展示を行う。

日本地球惑星科学連合 2016 年大会（Japan Geoscience Union Meeting 2016）

会 期：2016 年 5 月 22 日（日）～26 日（木）

場 所：幕張メッセ国際会議場、国際展示場 6 ホール、APA ホテル（〒261-0023 千葉県美浜区中瀬 2-1）

大会委員長：日比谷紀之（東京大学）

主 催：公益社団法人日本地球惑星科学連合

後 援：46 団体（日本学術会議、文部科学省、国土交通省 国土地理院、気象庁 気象研究所、気象庁地磁気観測所、国土交通省 海上保安庁 海洋情報部、北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部 地質研究所、宇宙航空研究開発機構、海洋研究開発機構、日本科学未来館、建築研究所、国立科学博物館、国立環境研究所、産業技術総合研究所、情報通信研究機構、森林総合研究所、石油天然ガス・金属鉱物資源機構、土木研究所、日本原子力研究開発機構、農業環境技術研究所、農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所、物質・材料研究機構、災科学技術研究所、理化学研究所、国立教育政策研究所、高エネルギー加速器研究機構、自然科学研究機構 国立天文台、情報・システム研究機構 国立極地研究所、大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所、総合地球環境学研究所、地震予知総合研究振興会、地球環境産業技術研究機構、電力中央研究所、日本宇宙フォーラム、日本地図センター、深田地質研究所、全国地質調査業協会連合会、電子情報通信学会、東京都地質調査業協会、日本機械学会、日本航空宇宙学会、日本測量協会、日本分析機器工業会、千葉県教育委員会、千葉市、千葉市教育委員会、ちば国際コンベンションビューロー）

協 賛：6 学協会（日本高圧力学会、日本サンゴ礁学会、日本天文学会、日本地震工学会、土木学会、地盤工学会、日本地すべり学会、砂防学会）

開催セッション数：

カテゴリー別	開催数	
U: ユニオンセッション	6	(*2)
O: パブリック	6	(*0)
P: 宇宙惑星科学	21	(*10)
A: 大気水圏科学	24	(*10)
H: 地球人間圏科学	28	(*11)
S: 固体地球科学	63	(*21)

B: 地球生命科学	9	(*4)
G: 教育アウトリーチ	5	(*1)
M: 領域外・複数領域	33	(*5)
計	195	(*64)

(*) 国際セッション数 (内数)

発表論文数：4300 件 (概算、予定)

参加者数：7000 人 (見込み)

展示企画 (ブース数)：団体展示 (65)、書籍出版関連商品 (26)、大学インフォメーションパネル (11)、学協会エリア個別デスク (10)、パンフレットデスク展示 (6)

(2) 「高校生によるポスター発表」の開催

将来を担う高校生を対象に、授業や課外活動で行った地球惑星科学に関する研究や学習の成果を研究者に対して発表するための、連合大会初日 (5 月 22 日、日曜日) にポスター発表会を開催する。今年度は、前年度程度 (71 件) の発表を予定している。

(3) 地球惑星科学関連の一般公開プログラムの開催

一般市民を対象として、地球惑星科学に関連した研究成果の広報・普及活動を通して地球惑星科学の普及を図るために、連合大会会期中に一般公開プログラムを開催する。

また、秋季 (11 月予定) に一般市民 (とくに高校生) を対象として、「秋の公開講演会」を開催予定である。

■次期学習指導要領で求められる資質・能力の達成を目指して

期 日：5 月 22 日 (日)

主 催：教育検討委員会

■高校生によるポスター発表

期 日：5 月 22 日 (日)

主 催：広報普及委員会

■地球惑星科学トップセミナー

期 日：5 月 22 日 (日)

主 催：広報普及委員会

内 容：地球惑星科学分野における最新の成果を招待講演者に分かりやすく紹介していただく
・講師及び内容 (予定)

生駒 大洋 (東京大学) 「系外惑星研究：新時代の始まり」

今村 剛 (宇宙航空研究開発機構) 「金星探査機「あかつき」が拓く惑星大気科学の未来」

石井 信明（宇宙航空研究開発機構） 「日本初の惑星周回衛星「あかつき」の軌道制御」

■ジオパークへ行こう

期 日：平成 27 年 5 月 22 日（日）

主 催：日本ジオパーク委員会

内 容：

ジオパークに興味のある市民、高校生、教員の方々を対象として、日本各地のジオパークで活躍するジオガイドが、ジオパークの見どころをわかりやすく面白く紹介する。ポスターセッションでは各地のジオパークやジオパークをめざす地域から、教育活動や普及活動の事例報告を行う。

■地球科学界と原子力発電の関係 ―浜岡原発を題材として―

期 日：平成 27 年 5 月 22 日（日）

内 容：

日本における原子力発電所の在り方について、地球科学的見地からの議論を行う場をオープンにかつ継続的に設けることは、地球科学と社会とのかかわりを考える上で必要な作業であると考え、2013 年よりセッションを開催している。昨年のセッション「日本の原子力発電と地球科学：地震・火山科学の限界を踏まえて」において、コミュニティー内にとどまって議論するのではなく「公共空間」での議論の必要性が認識された。今回はそれをふまえて、パブリックセッションで議論する。

静岡県浜岡原子力発電所は巨大地震の想定震源域直上に位置し、地震・津波の想定に基づく様々な対策が取られている。このような事情から同原発は原子力発電と自然災害および地球科学の関係を象徴する存在と考えられる。本セッションでは対象を浜岡原発に絞り、同原発に関する最新の地球科学的研究成果の検討を軸に、同原発と地球科学界との関連の歴史的総括及び今後のあるべき関係、といったトランスサイエンス的な話題も取り入れて議論する。

■JpGU 所属の学生・研究者にとってのダイバーシティ推進とは何か？

期 日：平成 27 年 5 月 22 日（日）

主 催：ダイバーシティ推進委員会

内 容：

組織等において、多様な能力を活かし組織の活動を活性化させるという観点から、「ダイバーシティ」という言葉が使われるようになって約 10 年がたつ。しかしながら、大学・研究現場においてはまだ「ダイバーシティ」という概念の浸透度が低く、課題が多いのが現状である。

ダイバーシティ推進のためには、多様な人材が持つ能力を最大限発揮できる研究環境の整備や、多様性を尊重するという意識が重要であり、女性/男性、外国人 /日本人、若手/中堅/ベテランの研究者のいずれもが、その特性を活かした能力を発揮して研究・教育活動に参画していけるようにすることが必要であると考えられる。

JpGU では、2016 年度より正式に、キャリア支援委員会と男女共同参画委員会とを統合し、ダイバーシティ推進委員会として新たな一歩を踏み出した。この機会に「JpGU 所属の学生・研究者にとってのダイバーシティ推進とは何か？」という問題を改めて問い直す。

■日本地球惑星科学連合 秋の公開講演会

期 日：2016 年 11 月 （予定）

場 所：（未定）

主 催：広報普及委員会

内 容：（未定）

（4）「スペシャルレクチャー」の開催

学部生や院生を主たる対象として、連合大会会期中の昼食時にスペシャルレクチャーをシリーズで開催する。異分野の聴衆を対象とするわかりやすい内容の講演会を開催する。

期 日：平成 2 年 5 月 22 日（日）～5 月 26 日（金）

場 所：会場内

主 催：大会運営委員会

内 容：本年度は、第 1 回地球惑星科学振興西田賞受賞者による記念講演を行う。

講演者予定：相川 祐理（筑波大学） 河北 秀世（京都産業大学） 是永 淳（イェール大学）
鈴木 建（東京大学） 竹村 俊彦（九州大学） 長谷川 洋（宇宙航空開発研究機構） 三
好 建正（理化学研究所） 三好 由純（名古屋大学） 渡部 雅浩（東京大学）

（5）地球惑星科学関連の研究教育機関・学協会・プロジェクト・民間企業の紹介および展示，地球惑星科学関連書籍・機器・資料の展示・頒布

地球惑星科学に関連した教育機関、学協会、ならびに各種プロジェクトについて、関係者のみならず、高校生を含む一般に紹介・広報することを目的に、プロジェクトを推進する諸機関、団体に対して連合大会会場にて展示活動を支援する場を設ける。

また、毎年、多数の地球惑星科学に関連する書籍、資料が公刊されているが、それらに対するアクセスは必ずしも容易ではないことから、連合大会の折に、これらを多数展示し、頒布するための場を設けて、地球惑星科学関連の研究、教育に携わる人々や、高校生を含む一般の方々に利用促進をはかる。

2. 地球惑星科学に関わる研究成果の刊行及び教育普及

我が国の地球惑星科学及び関連科学の振興と普及を目的として、地球惑星科学に関する学理及びその応用に関する知識や情報の交換の促進を図るために、連合学術誌の出版事業とともに、連合加盟学協会の出版事業の広報普及の支援を行う。

（1）連合学術誌の出版の高度化

2014 年 4 月に初版が発刊された連合のオープン・アクセス（OA）電子ジャーナルのさらなる国際情報発信力強化に取り組む。そのために、日本学術振興会からの科学研究費補助金（研究成果公開促進費）を有効に活用して、投稿及び引用を促進するための施策を引き続き推進する予定である。具体的には、①2013～15 年度に引き続き、2016 年連合大会の発表の中からコンピーナー推薦の優秀発表への投稿依頼、②2014～15 年度において成果のあった、ジャーナル特別国際セッション及びジャーナル関連特別シ

ンポジウムにおける旅費の支援と原稿依頼、③科学的にホットなテーマを取り上げて論文の投稿を呼びかける SPEPS の推進、④内閣府においても促進を検討中のカテゴリーであるデータ出版への新規取組などを進める。また、新ジャーナルの認知度を高めるために、引き続き国際会議へのブース出展や連合参加学会が主催する会議でのこまめな紹介などを通じて、広報活動にも努めると。日本語 Abstract や SNS を活用して出版論文を紹介し、引用促進にも取り組む。H28 年度は 60 論文程度の出版を目指す。

さらに、出版開始後 2 年を経過し、Springer から申請条件を満たしたとの判断を得たことから、学術文献・引用検索データベース（Thomson Reuter の WOS 及び Elsevier の SCOPUS）への収録を申請するとともに、関係者に働きかけを行う。

また、他誌との連携に向けた協議を進める。

（2）連合加盟学協会による学術誌出版の広報普及支援

連合加盟学会による十数種の国際誌出版を数えると、全体としては AGU、EGU に匹敵していることに鑑み、国際誌を出版する学協会に連合ロゴの掲載を依頼するなど、日本の地球惑星科学のジャーナルの「見える化」を促進する。具体的には、連合のホームページ上での紹介、海外で開催される国際学術大会で連合ブース出展、連合加盟学協会が出版する学術誌の展示等を行うなど、地球惑星科学及び関連科学の学術出版物の広報普及に関する支援を系統的に行なっていく。

（3）ニュースレター誌「Japan Geoscience Letters (JGL)」の発行

連合の会員（個人・団体会員）及び、科学館、博物館、高等学校教員、関連企業等の関係者や一般市民を対象として、地球惑星科学の研究成果の広報・普及を目的としてニュースレター誌「JGL」を年 4 号（予定）定期発行する。

発行部数 : 26,000～30,000 部

配布先 : 会員（個人、団体）

国立国会図書館

科学館（日本科学未来館、日本科学技術館他）

博物館（国立科学博物館、神奈川県立生命の星・地球博物館他）

高等学校（東京都立戸山高等学校、千葉県立船橋高等学校、早稲田大学高等学院他）

関連企業（NPG ネイチャーアジア・パシフィック、株式会社タイロス他）

（4）ウェブサイト、メールニュースを活用した広報・普及事業

連合の会員及び一般市民を対象に、ウェブサイトや毎月発行のメールニュース等を通して、地球惑星科学に関連するニュース、国内外の学会・シンポジウム・研究集会・一般公開イベントや求人・公募等の情報を配信する。メールニュースの内容を一層充実させ、毎月定期号を配信するほか、ウェブサイトによる情報発信及びコンテンツの充実を図り、会員及び一般市民が地球惑星科学関連情報にアクセスしやすい環境を提供する。

3. 国及び社会一般からの諸要請に対応した地球惑星科学コミュニティにおける意見集約とこれに基づく提言

地球惑星科学コミュニティーの意見を集約するとともに、日本学術会議を含む国及び社会一般からの諸要請への対応に向け、以下の活動を行う。

(1) 学協会長会議の開催

国内の地球惑星科学及び関連分野の研究者を対象に、学協会長会議を年に2回開催して、地球惑星科学コミュニティーの意見集約を行うとともに、自然科学に関わる国内外の情勢についての情報交換を行う。連合理事会からの諮問、及び学協会や日本学術会議から提案される重要な課題について議論し、意見集約と対外的情報発信を行う。

第14回学協会長会議

期日：2016年5月23日（月）12：30～13：30（予定）

場所：幕張メッセ国際会議場（予定）

第15回学協会長会議

期日：2016年10月（予定）

場所：東京大学（東京都文京区）（予定）

(2) 地球惑星科学コミュニティーの意見集約

国及び社会一般からの諸要請に基づき、地球惑星科学コミュニティーの意見集約と、コミュニティーへの情報伝達を行う。特に、日本学術会議が発出する声明を連合ウェブやメールニュース、関連メーリングリストを通じて地球惑星科学コミュニティーへの周知をサポートする。

また、学術会議からの依頼に基づき連合大会会期中に全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会を開催する。

■全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会

期日：連合大会 会期中

場所：幕張メッセ国際会議場（予定）

4. 地球惑星科学に関わる外国学協会との連携と国際プロジェクトの推進

我が国の地球惑星科学コミュニティーを代表して、地球惑星科学の国際的な発展に寄与することを目的に、地球惑星科学に関する国際的な研究協力と交流活動の推進を図る。

(1) 地球惑星科学に関わる国際学協会との連携及び協力

ヨーロッパの EGU、米国の AGU、ならびにアジアの AOGS 等の国際的な学協会と連携協力し、地球惑星科学に関わる国際会議等の企画、開催、国際的プロジェクトの推進等を行う。

開催日	開催場所	出展大会名
2016 年 4 月 17-22 日	ウィーン (オーストリア)	EGU General Assembly 2016
2016 年 8 月 2-7 日	北京 (中国)	AOGS 13th Annual Meeting
2016 年 12 月 12-16 日	サンフランシスコ (アメリカ合衆国)	AGU 2016 Fall Meeting

(2) 国際科学（地学・地理）オリンピック活動支援

高校生を対象に、地球惑星科学への認識を高めるとともに地球惑星科学の学習を促進と若年層による国際交流を深めることを目的に、国際科学（地学・地理）オリンピックの日本大会を連合の共催事業として行うほか、外国開催に関わる支援を行う。

第 13 回国際地理オリンピック

期日：2016 年 8 月 16 日～22 日

場所：北京（中国）

第 10 回国際地学オリンピック

期日：2016 年 8 月 20 日～27 日

場所：三重県（日本）

5. 地球惑星科学知見の社会還元

地球惑星科学の研究成果を統合的な形で社会へ還元し、科学的提言を発信する。

(1) 複合的自然災害への対応と科学的提言の発信

地球上で起こる自然災害事象の複合化に備え、地球惑星科学の総合的、かつ蓄積された研究成果を社会へ還元することを目的として、風水害、地震、火山、津波などの自然災害などの統合的な対策にむけた科学的提言を行う。

(2) 複合的自然災害リテラシーの普及

複合的自然災害に対して、国民の基礎知識を高め、突発的災害によるリスクを最小化することを目指し、自然災害に関する大量の情報の中から必要なものを探し、情報を加工して意思決定するための基礎的な知識や技能（複合的自然災害リテラシー）の普及を支援するための活動を行う。

6. セクションサイエンスボードおよび委員会活動

広く国内外の地球惑星科学関連分野の研究者を対象に、地球惑星科学の推進と学術の推進振興を図ることを目的として、ユニオンサイエンスボード及びセクションサイエンスボード、ならびに各委員会の活動を推進する。

(1) サイエンスボードの活動

■宇宙惑星科学セクション

宇宙惑星科学セクションでは、当該分野の研究の長期的なビジョンと日本の果たすべき役割について、学術会議のロードマップ、JAXA の宇宙科学 RFI (工程表) に基づく議論を進め、関連諸学会との協力により意見をまとめる。その他の活用予定は以下の通り：

- ・連合大会において、宇宙惑星科学セクションは半数が国際セッションであり、その多くが AGU との合同セッションとなった。今後もセッションの国際化は強化する方向で努力を続ける。
- ・連合大会において、昨年に引き続き、学生優秀発表を選考して表彰する。連合の新ジャーナル PEPS 誌、及び宇宙惑星科学分野もこれまで深く関与してきた EPS 誌を支援する。連合の顕彰、主催講演会などに候補者を推薦する。
- ・セクションの活動のために、連合大会期間中にセクションボード会議を行うほか、関連学会の秋季講演会などの機会を利用してセクションボード会議を頻繁に開催する。

■大気水圏科学セクション

- ・連合大会時にセクションボードメンバー及び代議員を招集しセクションボードミーティングを開催する。
- ・連合大会のセッションに講演者を招聘し旅費の援助を行う。また、2017 年度の JpGU-AGU 共同大会に向けてジョイントセッション提案の準備を進める。
- ・大気水圏科学分野に関係する研究集会にセクションとして共催または協賛し開催を援助する。

■地球人間圏科学セクション

- ・連合大会において、以下の活動を行う：
- ・セクションボードミーティングの開催。
- ・H-SC04 “Implementing Geoscience Research for the Earth’s Future” ほかの AGU とのジョイントセッションを成功させ、次年度における本格的な JpGU と AGU の協働につなげる。
- ・U-05 「Future Earth - 持続可能な地球へ向けた統合的研究」を他セクションと共同で開催する。
- ・学生優秀発表賞の選考と表彰を行う
- ・地球環境問題、大規模災害、フューチャー・アースへの対応(シンポジウム、研究計画提案、アウトリーチ、論文・報告執筆など)を行う。
- ・日本学術会議地球惑星科学委員会活動との連携(シンポジウム、ロードマップ、大型研究計画など)をはかる。
- ・ジオユニオン活動 (IGU 大会、ICA 大会など) との連携を進める。

■固体地球科学セッション

- ・連合大会時にセッションボードメンバーを招集しセッションボードミーティングを開催する。
- ・学生優秀発表賞の選考と表彰については、選考委員 2 名体制で選考方法を充実させる。
- ・ホームページをさらに充実させる。
- ・セッションの内部構造を構築するために、新たなフォーカスグループの創設を目指す。このフォーカスグループが継続的に連合大会で国際セッションを提案し、海外の組織と連携した国際会議の共催を支援する。
- ・国際セッションのコンビーナーを中心に、内部組織としてのフォーカスグループの創設を支援する。
- ・2016 年、2017 年の AGU などとの共催セッションの継続的な提案を可能にする。
- ・セッションの褒賞制度を充実させるために、連合の顕彰委員会と緊密に連携して新たな褒賞制度を検討する。

■地球生命科学セッション

- ・連合大会において地球生命科学関連セッション（国際セッション含む）を開催する。
- ・連合大会期間中にサイエンスボードのビジネスミーティングを行う。
- ・連合大会の地球生命科学関連セッションで学生賞の審査を行う。
- ・地球生命科学の長期的ビジョンの模索を行う。
- ・PEPS への地球生命科学関連論文の投稿を呼びかける。

（2）顕彰制度関連活動

- ・連合大会における「学生優秀発表」の表彰を行う。
連合大会における学生優秀発表賞の表彰をセッション単位で実施する。学生優秀発表賞のシステムの充実を図り、増強された WEB システムを利用して、学生優秀発表表彰制度の安定的な運営をめざす。
- ・連合フェロー顕彰：
2016 年度フェローを表彰する。2017 年度フェロー授賞候補者を募集し審査する。
- ・地球惑星科学振興西田賞：
2016 年度大会における特別講演を行う。第 2 回地球惑星科学振興西田賞受賞候補者の募集と審査を行う。
- ・学生旅費補助制度：
2016 年度大会において学生旅費補助制度を新設し、補助対象者の募集と審査を行う。

（3）各委員会活動

各委員会では年間を通じて委員会を随時開催するとともに、担当理事を通じて理事会への活動報告を行い、委員会と理事会の意志疎通をはかる。特に今年度は以下の委員会活動を推進する。

■総務委員会

公益社団法人の円滑な運営と体制強化のための、諸規則の整備を図る。特に連合事務局の就業規則や給与関連規則等の整備を進める。連合の代議員構成のありかたについて、ワーキンググループで継続審議し、時

期代議員選挙時の組織の見直しに向けて社員総会等で説明するなど準備を進める。

■財務委員会

連合の運営基盤の強化のために、支出の効率化など中長期的に学会運営に関して経理面の課題と対策を検討する。

■大会運営委員会

連合大会の参加者増を目指し、満足度の高いプログラムや企画の充実にむけた方策を企画検討する。

■情報システム委員会

2017 年の JpGU-AGU 合同大会へむけて、2015 年度に刷新した投稿システムなどオンラインシステムの改良作業を行う。

■グローバル戦略委員会

- ・連合大会において AGU とのジョイントセッションの活性化を図る。
- ・同大会で International Mixer Luncheon を開催する。昨年大会に引き続き連携海外組織とミーティングを開催し連携力強化を図る。
- ・2017 年 JpGU-AGU ジョイントミーティングの開催準備を行う。
- ・EGU・Goldschmidt・AOGS・AGU 等の連携海外組織の大会にブース出展をし、連合、ジャーナル、加盟学協会の活動紹介をする。
- ・発信力強化のため、連合ホームページにおける英語ページの充実をはかる。またパブリックアナウンスメントがある場合、翻訳し掲載する。

■教育検討委員会

- ・次期学習指導要領改訂に向けての中央教育審議会での作業進行に対し、教育課程小委員会からのカリキュラム案作成、文部科学省への提言の作成、及び教員養成等小委員会からの教員の研修や養成のあり方について意見や提言を出せるよう、準備を進める。
- ・教科書に用いられている用語に起因する課題解決に向けた取り組みを、日本学術会議地球惑星科学委員会人材育成分科会と協同にて行う。日本学術会議に対して、小～高等学校・大学・大学院教育に関わる課題解決等に向けた協力を進める。
- ・Future Earth や ESD (Education for Sustainable Development) において地球惑星科学がリーダーシップを取れるような体制作りへの協力を行う。
- ・地球惑星科学教育が十分に行われていない地域の学校・教員への支援を引き続き行う。
- ・JpGU での新規事業（教員免許状更新講習の開設・試行・実施）の実施に向けた準備を継続して進める。
- ・地学オリンピック、地理オリンピックへの協力を引き続き行う。高校生を対象に、地球惑星科学への認識を高め地球惑星科学の学習の促進と若年層による国際交流を深めることを目的に、国際科学(地学・地理)オリンピックの日本大会を連合の共催事業として行う。また、地理オリンピックの外国開催、及び第 10 回国際地学オリンピック日本大会開催の支援を行う。

第 13 回国際地理オリンピック

期日：2016 年 8 月 17 日～21 日

場所：北京（中華人民共和国）

（国内選抜は、2016 年 1 月 9 日（第 1 次選抜）、2 月 21 日（第 2 次選抜）、3 月 12 日～13 日（第 3 次選抜）にて実施。）

第 10 回国際地学オリンピック

期日：2016 年 8 月 20 日～27 日

場所：三重県（日本）

（国内選抜は、2015 年 12 月 20 日（予選）、2016 年 3 月 13 日～15 日（本選）にて実施。）

- ・理数系学会教育問題連絡会に参加し、学校での理数・情報教育の改善に向けた対応に努める。また、理数系教育シンポジウムを共催する。
- ・AGI と合同で普及教育活動を企画・実施する。

■広報普及委員会

- ・連合大会でパブリックセッション「高校生によるポスター発表」及び「地球・惑星科学トップセミナー」、高校生・学部生向け企画「大学生・大学院生に地球惑星科学について聞いてみよう」を開催予定。
- ・「地球・惑星科学トップセミナー」の映像を記録して動画配信予定。
- ・2016 年 11 月頃に「日本地球惑星科学連合 2016 年秋の公開講演会」を開催予定。映像を記録して動画配信予定。
- ・ニュースレター誌 JGL を年間 4 号発行予定。
- ・メールニュース定期号を年間 12 号、臨時号を必要に応じて随時配信予定。
- ・ウェブサイトを活用した広報・普及事業（公開講演会等の動画配信を含む）を行う予定。
- ・英語版ウェブサイトの充実をはかる。
- ・2016 年度フェロー受賞者の紹介を JGL に掲載予定。
- ・必要に応じてプレスリリースや記者会見を行う。

■ジャーナル企画経営委員会

- ・ジャーナルの中長期経営戦略（企画、財政、方針など）及び他誌との協調・発展について、随時委員会を開催して検討する。また、事業の中間評価実施年度への対応についても検討する。

■ジャーナル編集委員会

- ・編集長会議と全体編集会議を開催し、論文投稿及び引用を促進するための施策、編集方針や問題点の解決策について検討する。

■ダイバーシティ推進委員会

- ・キャリアパスアンケートを実施（1 月～5 月）し、結果速報を連合大会時に配布する。

- ・連合大会でのパブリックセッションまたは集会を開催する。
- ・連合大会でのキャリアパス支援ブースを運営する
- ・連合大会での保育室の運営を行う。
- ・キャリアパスアンケート解析、ウェブ等での結果報告を通年で行う。
- ・男女共同参画学協会連絡会対応と若手研究者育成 WG 活動を通年で行う。
- ・女子中高生夏の学校（8 月）に参画する。実行委員の派遣、ポスター発表による JpGU の宣伝などを行う。
- ・秋または冬頃（10 月～12 月）にキャリア関係シンポを開催予定。
- ・委員会ウェブの整備を通年で行う。
- ・AGU、EGU 等のブースでの留学生対応を実施予定。

■環境災害対応委員会

環境・災害問題に関する重要課題を調査し、大規模災害発生時の連合の緊急対応方策及び各学協会の連携方法を確立すると共に、連合大会においてセッションを開催する。防災学術連携体の対応を行う。

■顕彰委員会 学生優秀発表賞小委員会

- ・日本地球惑星科学連合の顕彰活動に関連する事案を検討し、顕彰制度の規則などの設計ならびに運営に関する議論を行い、理事会へ答申する。
- ・顕彰事業の一環として、連合大会における学生旅費補助審査を行う。
- ・顕彰委員会内に設けた学生優秀発表賞小委員会により、連合大会における学生優秀発表賞制度を運営する。

■フェロー審査委員会

連合大会でのフェロー表彰に向けて、フェローを選考し、理事会に推薦する。

■地球惑星科学振興西田賞審査委員会

本章の審査は隔年で行う。本年度は受賞候補者の募集および審査を行う。第 1 回受賞者による特別講演会を連合大会にて開催する。

平成28年度 収支予算書

公益目的事業会計

科 目		平成28年度 予算額	前年度 予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基 本 財 産 運 用 益		1,600	1,250	350
特 定 資 産 運 用 受 取 利 息		1,600	1,250	350
受 取 特 定 資 産 運 用 受 取 利 息		2,000	3,000	-1,000
受 取 年 度 費 費		12,200,000	11,000,000	1,200,000
事 業 収 入		135,450,192	102,445,200	33,004,992
学 術 大 会 参 加 料 料 収 入		134,942,692	102,295,200	32,647,492
大 会 参 加 料 料 収 入		92,900,000	65,050,000	27,850,000
投 稿 料 料 収 入		16,731,260	14,300,000	2,431,260
団 体 展 示 料 料 収 入		19,473,000	18,300,000	1,173,000
大学インフォメーションパネル収入		760,000	770,000	-10,000
書 籍 展 示 料 料 収 入		1,300,000	1,200,000	100,000
パ ン フ レ ッ ト デ ス ク 収 入		21,000	40,000	-19,000
会 議 室 使 用 料 料 収 入		2,097,090	1,744,000	353,090
会 議 室 使 用 料 料 収 入		546,394	291,200	255,194
学 協 会 出 展 料 料 収 入		360,000	300,000	60,000
日 本 協 会 出 展 料 料 収 入		54,000	50,000	4,000
そ の 他		699,948	250,000	449,948
刊 行 事 業 収 入		507,500	150,000	357,500
J G L 広 告 料 料 収 入		507,500	150,000	357,500
雑 収 益		10,000	5,000	5,000
受 取 利 息		10,000	5,000	5,000
受 取 補 助 金 等		43,138,260	34,838,260	8,300,000
26年度科学研究費補助金研究成果公開促進費		0	0	0
千葉コンベンションビューロー補助金		0	200,000	-200,000
28年度科学研究費補助金研究成果公開促進費		38,138,260	34,638,260	3,500,000
寄付金 地球惑星科学振興西田賞		5,000,000	0	5,000,000
会員寄附金		0	0	0
経常収益計		190,802,052	148,292,710	42,509,342
(2) 経常費用				
事 業 費		181,412,621	144,566,130	36,846,491
給 料 手 当 費		26,330,000	21,797,870	4,532,130
法 定 福 利 賃 金		2,200,000	2,530,000	-330,000
臨 時 雇 用 費		6,092,000	4,624,000	1,468,000
ホ ー ム ペ ー ジ 作 成 費		100,000	400,000	-300,000
会 費		5,992,000	4,224,000	1,768,000
旅 費		6,434,000	3,483,000	2,951,000
通 交 費		21,931,500	22,499,500	-568,000
通 信 運 通 搬 費		1,200,000	1,470,000	-270,000
減 価 償 却 費		20,731,500	21,029,500	-298,000
消 耗 什 器 備 品 費		3,188,400	2,970,400	218,000
印 刷 費		3,906,820	3,838,260	68,560
消 耗 什 器 備 品 費		300,000	100,000	200,000
印 刷 費		5,058,600	3,726,500	1,332,100
印 刷 費		17,371,620	15,630,400	1,741,220
印 刷 費		500,000	638,000	-138,000
印 刷 費		2,790,000	2,100,000	690,000
印 刷 費		120,000	121,000	-1,000
印 刷 費		4,029,120	3,773,520	255,600
印 刷 費		8,000,000	6,800,000	1,200,000
印 刷 費		1,932,500	2,197,880	-265,380
印 刷 費		40,000	0	40,000
印 刷 費		480,000	1,100,000	-620,000
印 刷 費		41,655,001	34,720,600	6,934,401
印 刷 費		2,646,465	3,446,500	-800,035
印 刷 費		328,536	174,000	154,536
印 刷 費		25,030,000	19,728,800	5,301,200
印 刷 費		12,800,000	11,101,300	1,698,700
印 刷 費		850,000	270,000	580,000
印 刷 費		5,200,000	2,810,000	2,390,000
印 刷 費		3,300,000	1,410,000	1,890,000
印 刷 費		3,050,000	2,330,000	720,000
印 刷 費		3,635,000	3,464,600	170,400
印 刷 費		1,205,000	825,000	380,000
印 刷 費		15,036,680	14,178,000	858,680
印 刷 費		4,220,000	6,270,000	-2,050,000
印 刷 費		10,816,680	7,908,000	2,908,680
印 刷 費		4,200,000		
印 刷 費		5,000,000		
印 刷 費		145,000	395,000	-250,000
印 刷 費		53,000	33,000	20,000
印 刷 費		5,600,000	2,100,000	3,500,000
管 理 費		11,693,502	9,534,380	2,159,122
給 料 手 当 費		6,570,000	4,920,000	1,650,000
法 定 福 利 賃 金		200,000	300,000	-100,000
臨 時 雇 用 費		0	0	0
ホ ー ム ペ ー ジ 作 成 費		1,650,000	1,280,000	370,000
会 費		450,000	280,000	170,000
旅 費		1,200,000	1,000,000	200,000
通 交 費		150,000	137,500	12,500
通 信 運 通 搬 費		100,000	50,000	50,000
減 価 償 却 費		224,400	280,500	-56,100
消 耗 什 器 備 品 費		12,000	12,000	0
印 刷 費		879,102	1,020,380	-141,278
印 刷 費		736,438	919,380	-182,942
印 刷 費		92,664	66,000	26,664

経常費用計	193,106,123	154,100,510	39,005,613
評価損益等調整前当期経常増減額	-2,304,071	-5,807,800	3,503,729
損益評価等計			
当期経常増減額			
2. 経常外増減の部			
一般正味財産期首残高			
一般正味財産期末残高			
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金			
受取寄付金（西田賞）			
特定資産運用益			
一般正味財産への振替額			
当期指定正味財産増減額			
指定正味財産期首残高			
指定正味財産期末残高			
III 正味財産期末残高			

報告事項 団体会員に関する定款及び関連規則変更の検討状況報告

平成 27 年度 定時社員総会（平成 27 年 5 月 27 日開催）

議事録より

第 2 号議案 法人運営基本規程第 3 条（団体会員の入会基準）改正の件

議長の指名により，会長津田敏隆氏から，法人運営基本規程第 3 条の改正について説明があった。連合の団体会員の入会基準を，「地球惑星科学に関わる活動実績を有する「日本学術会議協力学術研究団体」に登録された学術研究団体、又はこれに準ずる学術研究団体で、この法人の目的及び事業に賛同し、入会を希望する団体。」と改正することを諮ったところ，社員の賛成多数により承認された。

第 13 回学協会長会議（平成 27 年 10 月 8 日開催）

議事録より

（４）法人運営基本規程第 3 条改正について

法人運営基本規程第 3 条の改正について，津田会長より報告があった。平成 27 年度定時社員総会（5 月 27 日）にて改正された。連合の団体会員の入会基準を，「地球惑星科学に関わる活動実績を有する「日本学術会議協力学術研究団体」に登録された学術研究団体、又はこれに準ずる学術研究団体で、この法人の目的及び事業に賛同し、入会を希望する団体。」と改正した。

これは第 11 回学協会長会議（平成 26 年 10 月 16 日）にて報告があったとおり，内閣府公益認定等委員会事務局からの二点の指摘のうち一点に基づく改正である。

もう一点の指摘についても検討している。すなわち，「連合の社員（代議員）は，正会員により選出された代議員（選出代議員）と団体会員（加盟学協会）の代表（団体代議員）により構成されるが，正会員によっては，自身が加盟する学協会の代表の選出を通じて二重に連合の意志決定に参画できることになり，公平性に欠けるのではないか」という指摘である。これについての意見交換を行った。

現状の規則や制度の中での公平性を十分に説明できれば，現在の体制が認められるのではないかという意見，仮に体制を変更することになった場合の団体会員の意見の反映のための制度についての意見など，様々な意見が挙げられた。引き続き，連合理事会でも議論を続けてゆく。

日本地球惑星科学連合第 4 回理事会 （平成 27 年 10 月 26 日開催）

議事録より

(1) 津田敏隆代表理事職務報告

津田代表理事より、連合全体の活動について報告があった。

10 月 16 日（金）に開催された経営企画会議についての報告があった。中でも、かねてより内閣府公益認定等委員会から指摘を受けている連合の社員構成の件についての検討状況が報告され、当理事会でも意見交換を行った。今後も充分検討する必要があるとした。

日本地球惑星科学連合第 5 回理事会 （平成 28 年 1 月 28 日開催）

議事録より

(1) 津田敏隆代表理事職務報告

津田代表理事より、社員の体制に関する検討について報告があった。

前回理事会までの議論を踏まえ、現在の団体会員を社員とする体制を変更する場合の新たな体制、理事会との関わり方の検討や、学協会長会議幹事会（仮）の設置について提案があり、意見交換を行った。将来的な定款の改定を伴う体制の変更に向け、今後更に検討してゆくこととなった。

日本地球惑星科学連合第 6 回理事会 （平成 28 年 3 月 10 日開催）

議事録より

(1) 津田敏隆代表理事職務報告（抜粋）

団体会員について、これまでの議論に基づき、定款および規則の変更箇所を議論した。

社員構成では団体会員を除き、選出代議員のみで構成することが議論された。今後、社員（代議員）の定数を検討する必要がある。また、学協会長会議の位置づけと、社員総会と理事会との協調関係についてさらに検討を加える必要がある。この提案を次回の社員総会で紹介し、次々回の社員総会で定款の改訂を目指す。

法人運営基本規程（抜粋）

（代議員の定数）

第6条 代議員の定数は、理事会の定めにより別に設ける代議員の選出のための正会員による選挙の日を公示した日（以下「選挙公示日」という。）の前日における団体会員の数の2倍とする。

（社員の出席）

第15条 代議員たる社員は、自ら又は他の代議員たる社員を代理人に選任して、社員総会に出席する。

2 団体会員たる社員は、代表者自ら若しくはその団体の役員、会員、社員若しくは使用人を指定して又は代議員たる社員を代理人に選任して、社員総会に出席する。

3 社員総会の招集通知は、定時総会にあっては4月末日現在、臨時社員総会にあってはその開催日の3週間前の時点での社員名簿の登録に従って発すれば足りるものとする。

4 社員総会に出席する者は、会場の受付にて、次のとおり、その出席資格の確認を受けなければならない。

(1) 代議員たる社員本人が出席する場合には、本人であること

(2) 代議員たる社員又は団体会員の代理人として出席する場合には、委任状等の提出によりその代理権を有する者であること

(3) 団体会員たる社員の代表者が出席する場合には、その団体の代表者本人であること

(4) 団体会員から指定を受けた役員又は使用人として出席する場合には、その旨の書面により、その団体から指定を受けた者であること

5 代理人欄が空欄の委任状が提出された場合には、社員総会の議長が選任されたものとみなす。

法人運営基本規則（抜粋）

第8章 学協会長会議

（任期等）

第15条 学協会長会議の委員は、団体会員の登録代表者が就任し、登録代表者の交代に伴い委員も当然に交代するものとする。

2 学協会長会議の議長は、委員の互選により選出する。

3 委員本人がやむを得ず出席できない場合には、団体会員にあってこれに準ずる立場の者が委員本人に代わって出席できるものとする。

報告事項 法人運営基本規則第 10 条 2（再入会時の未納会費について）変更の検討状況

日本地球惑星科学連合第 6 回理事会 （平成 28 年 3 月 10 日開催）

議事録より

報告事項

（5）古村孝志理事（総務担当）職務報告（抜粋）

年会費関連規則の運用上の問題点について古村理事より報告があり、今後、検討することとした。

法人運営基本規則（抜粋）

（会費滞納に対する処分）

第10条 会費を滞納した会員については、次に掲げる各号の処置をとることができる。

- （1）登録料等を非会員扱いとすること。
- （2）ニュース，雑誌への投稿を制限すること。

2 本法人に再入会する者で、過去に未納会費がある場合は、これを納めなければならない。

第1号議案 平成27年度（公益社団法人第5期）決算承認の件

貸借対照表

平成28年 3月31日現在

公益目的事業会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	86,437,441	67,825,016	18,612,425
未成金	13,130,694	12,219,395	911,299
預事業	3,064,693	3,381,041	-316,348
前払	282,742	208,600	74,142
流動資産合計	102,915,570	83,634,052	24,281,518
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	5,000,000	5,000,000	0
基本財産合計	5,000,000	5,000,000	0
(2) 特定資産			
日本地球惑星科学連合大会記念行事開催資金	0	3,000,000	-3,000,000
国際化推進準備資金	2,300,000	5,100,000	-2,800,000
地球惑星科学振興西田賞	5,000,000	0	5,000,000
特定資産合計	7,300,000	8,100,000	-800,000
(3) その他固定資産			
什器備品	163,133	197,991	-34,858
ソフトウェア	13,260,896	6,378,320	6,882,576
保証金	661,650	538,200	123,450
その他固定資産合計	14,085,679	7,114,511	6,971,168
固定資産合計	21,385,679	20,214,511	1,171,168
資産合計	129,301,249	103,848,563	25,452,686
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,954,228	8,239,950	-6,285,722
未成金	3,104,513	2,714,506	390,007
未事業	33,243,824	11,140,500	22,103,324
前受	5,306,000	2,886,000	2,420,000
預り	210,475	1,340,100	-1,129,625
仮受	2,582,040	2,389,133	192,907
未払消費税	1,744,200	1,642,900	47,500
流動負債合計	48,145,280	30,353,089	17,738,391
負債合計	48,145,280	30,353,089	17,738,391
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	7,305,216	3,143,476	4,161,740
(うち特定資産への充当額)	(5,000,000)	(0)	(5,000,000)
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	73,850,753	70,351,998	3,552,555
(うち特定資産への充当額)	(5,000,000)	(5,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(2,300,000)	(0)	(2,300,000)
正味財産合計	81,155,969	73,495,474	7,714,295
負債及び正味財産合計	129,301,249	103,848,563	25,452,686

正味財産増減計算書

平成27年 4月 1日から平成28年 3月31日まで

公益目的事業会計

(単位:円)

科 目		当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産受取利息		1,250	1,250	0
特定資産受取利息		1,250	1,250	0
受当事業年度収益		3,500	4,490	-990
学術大会参加料収入		3,500	4,490	-990
大団体展覧会収入		13,160,000	11,581,000	1,579,000
学術大会参加料収入		13,160,000	11,581,000	1,579,000
大団体展覧会収入		103,923,270	96,685,200	7,238,070
学術大会参加料収入		103,415,770	96,385,200	7,030,570
大団体展覧会収入		65,316,000	64,149,000	1,167,000
学術大会参加料収入		14,354,000	13,346,000	1,008,000
大団体展覧会収入		18,300,000	13,400,000	4,900,000
学術大会参加料収入		770,000	910,000	-140,000
大団体展覧会収入		1,160,000	1,160,000	0
学術大会参加料収入		70,000	60,000	10,000
大団体展覧会収入		1,941,750	1,776,000	165,750
学術大会参加料収入		505,920	295,400	210,520
大団体展覧会収入		300,000	310,000	-10,000
学術大会参加料収入		50,000	4,000	46,000
大団体展覧会収入		648,100	974,800	-326,700
学術大会参加料収入		507,500	300,000	207,500
大団体展覧会収入		507,500	300,000	207,500
学術大会参加料収入		35,238,260	36,038,260	-800,000
大団体展覧会収入		600,000	0	600,000
学術大会参加料収入		0	36,038,260	-36,038,260
大団体展覧会収入		34,638,260	0	34,638,260
学術大会参加料収入		747,000	5,002,000	-4,255,000
大団体展覧会収入		0	5,000,000	-5,000,000
学術大会参加料収入		747,000	2,000	745,000
大団体展覧会収入		108,399	14,061	96,170
学術大会参加料収入		15,368	14,057	1,311
大団体展覧会収入		93,031	4	93,027
経常収益計		153,181,679	149,326,261	3,855,418
(2) 経常費用				
給法臨		141,183,723	155,230,094	-14,046,371
ホーの他		23,831,930	21,646,027	2,185,903
会旅		2,529,734	2,416,534	113,200
通交		4,833,551	4,345,125	488,426
通減消修		400,000	320,000	80,000
印		4,433,551	4,025,125	408,426
刷		3,579,585	2,084,420	1,495,165
グ		14,413,146	19,854,423	-5,441,277
ラ		1,451,897	1,196,479	255,418
タ		12,961,249	18,657,944	-5,696,695
ー		2,477,352	2,919,516	-442,164
ナ		3,602,158	4,358,694	-756,536
の		170,046	118,169	51,877
展		3,904,349	4,512,512	-608,163
借		1,693,440	0	1,693,440
賃		12,362,422	13,252,541	-890,119
賃		637,200	637,200	0
賃		2,160,108	2,283,444	-123,336
賃		97,530	173,125	-75,595
賃		4,294,080	3,584,520	709,560
賃		4,573,617	3,530,096	1,043,521
賃		599,887	3,044,156	-2,444,269
賃		666,342	427,447	238,895
賃		30,990,378	40,817,952	-9,827,574
賃		3,629,628	2,715,625	914,003
賃		220,684	179,092	41,592
賃		19,995,638	27,683,640	-7,688,002
賃		7,030,878	10,171,866	-3,140,988
賃		113,550	67,729	45,821
賃		3,352,541	3,254,763	97,778
賃		1,474,448	1,638,034	-163,586
賃		2,792,600	2,166,141	626,459
賃		4,129,196	3,497,038	632,158
賃		3,360,000	819,000	2,541,000
賃		15,727,136	15,665,274	61,862
賃		10,308,600	8,634,878	1,673,722
賃		5,418,536	7,030,396	-1,611,860
賃		322,558	547,527	-224,969
賃		29,780	47,112	-17,332
賃		4,941,031	5,841,845	-900,814
賃		0	5,000,000	-5,000,000
賃		8,499,201	10,471,237	-1,972,036
賃		3,515,315	6,264,637	-2,749,322
賃		0	354,899	-354,899
賃		3,720	1,004	2,716
賃		1,823,454	977,082	846,372
賃		225,961	271,629	-45,668
賃		1,597,493	705,453	892,040
賃		124,530	109,389	15,141
賃		14,687	44,823	-30,136
賃		170,186	300,441	-130,255
賃		158,220	11,664	146,556
賃		765,546	720,619	44,927
賃		678,576	645,725	32,851
賃		86,970	65,834	21,136
賃		0	9,060	-9,060
賃		1,155,600	1,188,000	-32,400
賃		106,300	108,891	-2,591
賃		561,984	348,837	213,147
賃		0	20,520	-20,520
賃		0	20,520	-20,520
賃		99,659	20,431	79,228
経常費用計		149,682,924	165,701,331	-16,018,407
評価損益等調整前当期経常増減額		3,498,755	-16,375,070	19,873,825
評価損益等計		0	0	0
当期経常増減額		3,498,755	-16,375,070	19,873,825
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計		0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計		0	0	0
当期経常外増減額		0	0	0
当期一般正味財産増減額		3,498,755	-16,375,070	19,873,825
一般正味財産期首残高		70,351,998	86,727,068	-16,375,070
一般正味財産期末残高		73,850,753	70,351,998	3,498,755
II 指定正味財産増減の部				
受取補助金等		33,800,000	35,200,000	-1,400,000
受取補助金等		5,000,000	5,000,000	0
一般正味財産への振替額		-34,638,260	-41,038,260	6,400,000
当期指定正味財産増減額		4,161,740	-838,260	5,000,000
指定正味財産期首残高		3,143,476	3,981,736	-838,260
指定正味財産期末残高		7,305,216	3,143,476	4,161,740
III 正味財産期末残高		81,155,969	73,495,474	7,660,495

正味財産増減計算書内訳表

平成27年 4月 1日から平成28年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業		合 計
	学術振興事業	法人会計	
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産の受取利息	1,250	0	1,250
特定資産の受取利息	1,250	0	1,250
受当事業の受取利息	3,500	0	3,500
受当事業の受取利息	3,500	0	3,500
受当事業の受取利息	6,580,000	6,580,000	13,160,000
受当事業の受取利息	6,580,000	6,580,000	13,160,000
受当事業の受取利息	101,963,790	1,959,480	103,923,270
受当事業の受取利息	101,456,290	1,959,480	103,415,770
受当事業の受取利息	63,356,520	1,959,480	65,316,000
受当事業の受取利息	14,354,000	0	14,354,000
受当事業の受取利息	18,300,000	0	18,300,000
受当事業の受取利息	770,000	0	770,000
受当事業の受取利息	1,160,000	0	1,160,000
受当事業の受取利息	70,000	0	70,000
受当事業の受取利息	1,941,750	0	1,941,750
受当事業の受取利息	505,920	0	505,920
受当事業の受取利息	300,000	0	300,000
受当事業の受取利息	50,000	0	50,000
受当事業の受取利息	648,100	0	648,100
受当事業の受取利息	507,500	0	507,500
受当事業の受取利息	507,500	0	507,500
受当事業の受取利息	35,238,260	0	35,238,260
受当事業の受取利息	600,000	0	600,000
受当事業の受取利息	34,638,260	0	34,638,260
受当事業の受取利息	747,000	0	747,000
受当事業の受取利息	747,000	0	747,000
受当事業の受取利息	94,236	14,163	110,231
受当事業の受取利息	1,206	14,162	15,368
受当事業の受取利息	93,030	1	93,031
経常収益計	144,628,036	8,553,643	153,181,679
(2) 経常費用			
給付金	141,183,723	0	14,183,723
給付金	23,831,930	0	23,831,930
給付金	2,529,734	0	2,529,734
給付金	4,833,551	0	4,833,551
給付金	400,000	0	400,000
給付金	4,433,551	0	4,433,551
給付金	3,579,585	0	3,579,585
給付金	14,413,146	0	14,089,175
給付金	1,451,897	0	1,451,897
給付金	12,961,249	0	12,637,278
給付金	2,477,352	0	2,477,352
給付金	3,602,158	0	3,602,158
給付金	170,046	0	170,046
給付金	3,904,349	0	3,904,349
給付金	1,693,440	0	1,693,440
給付金	12,362,422	0	12,362,422
給付金	637,200	0	637,200
給付金	2,160,108	0	2,160,108
給付金	97,530	0	97,530
給付金	4,294,080	0	4,294,080
給付金	4,573,617	0	4,573,617
給付金	599,887	0	599,887
給付金	666,342	0	666,342
給付金	30,990,378	0	30,990,378
給付金	3,629,628	0	3,629,628
給付金	220,684	0	220,684
給付金	19,995,638	0	19,995,638
給付金	7,030,878	0	7,030,878
給付金	113,550	0	113,550
給付金	3,352,541	0	3,352,541
給付金	1,474,448	0	1,474,448
給付金	2,792,600	0	2,792,600
給付金	4,129,196	0	4,129,196
給付金	3,360,000	0	3,360,000
給付金	15,727,136	0	15,727,136
給付金	10,308,600	0	10,308,600
給付金	5,418,536	0	5,418,536
給付金	322,558	0	322,558
給付金	29,780	0	29,780
給付金	4,941,031	0	4,941,031
給付金	0	8,499,201	8,499,201
給付金	0	3,515,315	3,515,315
給付金	0	3,720	3,720
給付金	0	1,823,454	1,823,454
給付金	0	225,961	225,961
給付金	0	1,597,493	1,597,493
給付金	0	124,530	124,530
給付金	0	14,687	14,687
給付金	0	170,186	170,186
給付金	0	158,220	158,220
給付金	0	765,546	765,546
給付金	0	678,576	678,576
給付金	0	86,970	86,970
給付金	0	1,155,600	1,155,600
給付金	0	106,300	106,300
給付金	0	561,984	561,984
給付金	0	99,659	99,659
経常費用計	141,183,723	8,499,201	149,682,924
評価損益等調整前当期経常増減額	3,444,313	54,442	3,498,755
評価損益等調整	0	0	0
当期経常増減額	3,444,313	54,442	3,498,755
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額			3,498,755
一般正味財産期首残高			70,351,998
一般正味財産期末残高			73,850,753
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金等			33,800,000
受取補助金等			5,000,000
一般正味財産への振替額			-34,638,260
当期指定正味財産増減額			4,161,740
指定正味財産期首残高			3,143,476
指定正味財産期末残高			7,305,216
III 正味財産期末残高			81,155,969

財務諸表に対する注記及び附属明細書

平成28年3月31日現在

「公益法人会計基準」（平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会）を採用している。

1. 継続事業の前提に関する注記

該当なし

2. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

該当なし

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

該当なし

(3) 固定資産の減価償却の方法

什器備品 3年間の均等償却。
ソフトウェア 定額法、

(4) 引当金の計上基準

該当なし

(5) キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

該当なし

(6) 消費税等の会計処理

税込方式によっている

3. 会計方針の変更

該当なし

4. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	5,000,000	0	0	5,000,000
基本財産計	5,000,000	0	0	5,000,000
特定資産				
日本地球惑星科学連合大会記念行事開催資金	3,000,000	0	3,000,000	0
国際化推進準備資金	5,100,000	0	2,800,000	2,300,000
地球惑星科学振興西田賞	0	5,000,000	0	5,000,000
特定資産資産計	8,100,000	5,000,000	5,800,000	7,300,000
合計	13,100,000	5,000,000	5,800,000	12,300,000

5. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	5,000,000		(5,000,000)	(0)
基本財産計	5,000,000	0	(5,000,000)	(0)
特定資産				
国際化推進準備資金	2,300,000		(2,300,000)	(0)
地球惑星科学振興西田賞	5,000,000	(5,000,000)	(0)	(0)
特定資産計	7,300,000	(5,000,000)	(2,300,000)	(0)
合計	12,300,000	(5,000,000)	(7,300,000)	(0)

6. 担保に供している資産

該当なし

7. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取 得 価 額	減価償却累計額	当 期 末 残 高
什 器 備 品	828,628	665,495	163,133
ソ フ ト ウ ェ ア	30,283,987	17,023,081	13,260,896
合 計	31,112,615	17,688,576	13,424,029

8. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高
該当なし

9. 保証債務(債務保証を主たる目的事業としている場合を除く。)等の偶々
該当なし

10. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益
該当なし

11. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照上の記載区分
科学研究費	日本学術会議	3,143,476	33,800,000	34,638,260	2,305,216	指定正味財産
地球惑星科学振興西田賞	西田篤弘	0	5,000,000	0	5,000,000	指定正味財産

12. 基金及び代替基金の増減額及びその残高
該当なし

13. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

受取補助金使用による振替額	34,638,260
---------------	------------

14. 関連当事者との取引の内容
該当なし

15. キャッシュ・フロー計算書の資金の範囲及び重要な非資金取引
該当なし

16. 重要な後発事象
該当なし

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産については、財務諸表に対する注記5.に記載しており、内容の記載を省略する

2. 引当金の明細

該当なし

財産目録

平成28年 3月31日現在

公益目的事業会計

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)	現金	手元保管	運転資金として	44,084
	預金	当座預金 郵貯振替口座	寄附金口座として	698,118
		普通預金	運転資金として	85,695,239
		三菱東京UFJ銀行本郷支店	運転資金として	41,916,224
		りそな銀行本郷	運転資金として	10,006,228
		ゆうちょ銀行	運転資金として	8,861,576
		みずほ銀行本郷支店	運転資金として	6,081,576
		みずほ銀行本郷支店	運転資金として	4,251
		千葉銀行東京営業部	運転資金として	11,498,193
		三菱東京UFJ銀行本郷支店	運転資金として	2,325,044
		科研費		
		三菱東京UFJ銀行本郷支店		5,002,147
	未成事業支出金 学術振興事業		学術振興事業費用の前払分	13,130,694
	預け金	スプリンガー	PEPS 印刷代	3,064,693
	前払費用	学会センター	事務所賃借料の前払分	282,742
流動資産合計				102,915,570
(固定資産)	基本財産			
	定期預金	定期預金 みずほ銀行 本郷支店	公益目的保有財産である	5,000,000
	特定資産			
	国際化推進準備資金	定期預金 三菱東京UFJ銀行		2,300,000
	地球惑星科学振興西田賞	普通預金 三菱東京UFJ銀行		5,000,000
	その他固定資産			
	什器備品		公益目的保有財産である	163,133
	ソフトウェア		公益目的保有財産である	13,260,896
	保証金			
	学会センタービル		事務所の保証金	661,650
固定資産合計				26,385,679
資産合計				129,301,249
(流動負債)	未払金		経費支払いの未払い分	1,954,228
	未払費用			3,104,513
	給料手当		給料未払分	2,710,181
	通勤手当		通勤費未払分	175,784
	健・厚保険料		健康保険・厚生年金保険料未払	218,548
	未成事業受入金			
	学術振興事業		学術振興事業収入前受分	33,243,824
	前受会費		会費収入前受分	5,306,000
	預り金			210,475
	給与源泉税		給与源泉税の預り分	28,918
	報酬源泉税		報酬源泉税の預り分	47,985
	社会保険料			102,192
	その他			31,380
	仮受金			2,582,040
			NASA 2016年大会出展設備費	2,566,040
			重複入金分	16,000
	未払消費税等			1,744,200
流動負債合計				48,145,280
負債合計				48,145,280
正味財産				81,155,969

監査報告書

平成 28 年 4 月 27 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合
代表理事（会長）津 田 敏 隆 殿

公益社団法人日本地球惑星科学連合
監事 鈴木 善和



私監事は、平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日までの公益社団法人日本地球惑星科学連合第 5 期事業年度における会計及び業務の監査を行った。その結果につき次のとおり報告します。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿及び関係書類の閲覧等必要と認められる監査手続きを用いて財務諸表の適正性を検討しました。
- (2) 業務監査については、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて、業務執行の妥当性を検討しました。

2. 監査意見

- (1) 正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、公益社団法人日本地球惑星科学連合の第 5 期事業年度の正味財産増減の状況及び同事業年度末日現在の財政状態を適正に示しているものと認めます。
- (2) 事業報告書の内容は、事実に従い、公益社団法人日本地球惑星科学連合の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 理事の業務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以上

監査報告書

平成 28 年 4 月 27 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合
代表理事（会長）津 田 敏 隆 殿

公益社団法人日本地球惑星科学連合
監事 松浦 充宏

私監事は、平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日までの公益社団法人日本地球惑星科学連合 第 5 期事業年度における会計及び業務の監査を行った。その結果につき次のとおり報告します。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿及び関係書類の閲覧等必要と認められる監査手続きを用いて財務諸表の適正性を検討しました。
- (2) 業務監査については、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて、業務執行の妥当性を検討しました。

2. 監査意見

- (1) 正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、公益社団法人日本地球惑星科学連合の第 5 期事業年度の正味財産増減の状況及び同事業年度末日現在の財政状態を適正に示しているものと認めます。
- (2) 事業報告書の内容は、事実に従い、公益社団法人日本地球惑星科学連合の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 理事の業務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以上

監査報告書

平成 28 年 4 月 27 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合
代表理事（会長）津 田 敏 隆 殿

公益社団法人日本地球惑星科学連合
監事 北 里 

私監事は、平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日までの公益社団法人日本地球惑星科学連合 第 5 期事業年度における会計及び業務の監査を行った。その結果につき次のとおり報告します。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿及び関係書類の閲覧等必要と認められる監査手続きを用いて財務諸表の適正性を検討しました。
- (2) 業務監査については、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて、業務執行の妥当性を検討しました。

2. 監査意見

- (1) 正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、公益社団法人日本地球惑星科学連合の第 5 期事業年度の正味財産増減の状況及び同事業年度末日現在の財政状態を適正に示しているものと認めます。
- (2) 事業報告書の内容は、事実に従い、公益社団法人日本地球惑星科学連合の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 理事の業務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以上

第 2 号議案 役員（理事、監事）選任の件

役員候補者推薦委員会名簿

氏名	所属	
津田敏隆	（京 都 大 学）	連合会長
日比谷紀之	（東 京 大 学）	学協会長会議議長
高橋幸弘	（北 海 道 大 学）	セクションプレジデント（宇宙惑星科学）
蒲生俊敬	（東 京 大 学）	セクションプレジデント（大気水圏科学）
春山成子	（三 重 大 学）	セクションプレジデント（地球人間圏科学）
大谷栄治	（東 北 大 学）	セクションプレジデント（固体地球科学）
遠藤一佳	（東 京 大 学）	セクションプレジデント（地球生命科学）

任期：平成 28 年度定時社員総会終結時まで

理事候補者選挙実施日程

2015 年 12 月 14 日 理事候補者選挙公示

12 月 21 日 候補者受付開始

2016 年 1 月 8 日 候補者受付締切

（候補者 27 名：自薦他薦合計）

1 月 29 日 投票開始

2 月 15 日 投票締切

（投票者数 90 名）

2 月 19 日 選挙管理委員会による開票、役員候補者推薦委員会へ結果報告

2 月 29 日 役員候補者推薦委員会開催

3 月 7 日 役員候補者公開

1. 開催日時：2016年2月29日（金）午後1時30分－4時00分
2. 開催場所：連合事務局会議室（〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル）
3. 出席委員：会長（議長）津田 敏隆

学協会長会議議長 日比谷 紀之

次期セクションプレジデント（任期：2016年6月から2018年5月）

宇宙惑星科学 高橋 幸弘

大気水圏科学 蒲生 俊敬

地球人間圏科学 春山 成子

固体地球科学 大谷 栄治

地球生命科学 遠藤 一佳

（敬称略）

4. 議事

開始予定時刻となったため、議長が議長席に着き、会議の開始を宣言した。以下議事に入った。

議事1. 関連規則の確認

定款、役員候補者推薦委員会規則、理事候補者選挙規則および理事候補者実施細則等、関連規則を確認した。

議事2. 理事候補の選出

選挙管理委員会より提出された理事候補者選挙の選挙結果を元に、理事候補者を選出した。

選挙結果によれば3名の候補者が得票同数により上位20位となるが、理事候補者選挙実施細則第6条に基づいて年齢の若い者を上位とし順位が確定されることを確認した。

「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」第五条十一および定款第16条に定められた、他の同一の団体の理事又は使用人である者についての確認を行った。選挙結果上位20名のうち東京大学所属の候補は7名であるが、事前に提出された情報によりそのうち1名は定時社員総会推薦時には所属を変更の予定であるため、抵触しないことを確認した。

候補者の登録区分についても確認し、次の通り大きな偏りのないことを確認した。（候補者上位20名登録区分：宇宙惑星科学4名、大気水圏科学4名、固体地球科学6名、地球人間圏3名、地球生命科学2名、地球惑星学総合1名）

候補者のジェンダーについても確認し、現在の理事20名のうち女性が1名であるのに対し、候補者20名のうち女性が3名含まれていることを確認した。

以上のように選挙結果の上位20名を候補者とするに問題がないことを確認した。したがって、別紙資料の通り、理事候補者選挙結果の上位20名を理事候補者として定時社員総会へ提出することを全会一致で承認した。

議事 3. 監事候補の選出

継続性を考え、現監事を中心に推薦することとした。ただし松浦監事は事前に継続就任を辞退する連絡があったため、新規に 1 名を選考した。過去の役員経験者、セクションプレジデント経験者等から学識・経験を踏まえ複数名を検討したが、検討の結果氷見山幸夫氏を推薦することを全会一致で承認した。したがって、継続候補 2 名と合わせて 3 名を監事候補者として定時社員総会へ提出することを全会一致で承認した。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。(午後 4 時 00 分)

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成した。

以上

参考：

理事候補者選挙実施細則

(順位の決定)

第 6 条 選挙の結果、得票の多い者から順位を付け、得票同数の場合は、年齢の若い者を上位とする。

公益社団法人日本地球惑星科学連合定款

(役員の選任) 第 16 条

2 他の同一の団体の理事又は使用人である者その他これに準ずる相互に密接な関係にある者(公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行令第 5 条各号に掲げられた者をいう。)である理事の合計数は、理事の総数の 3 分の 1 を超えてはならない。監事についても、同様とする。

公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律

(公益認定の基準)

第五条十一 他の同一の団体(公益法人又はこれに準ずるものとして政令で定めるものを除く。)の理事又は使用人である者その他これに準ずる相互に密接な関係にあるものとして政令で定める者である理事の合計数が理事の総数の三分の一を超えないものであること。監事についても、同様とする。

平成27年度 理事候補者選挙 投票結果

順位	投票数	氏名	所属機関名
1	63	田近 英一	東京大学
2	61	津田 敏隆	京都大学
3	58	木村 学	東京大学
3	58	中村 正人	宇宙航空開発機構
5	55	ウォリス サイモン	名古屋大学
6	54	原田 尚美	海洋研究開発機構
7	53	川幡 穂高	東京大学
7	53	浜野 洋三	海洋研究開発機構
9	51	古村 孝志	東京大学
10	49	日比谷 紀之	東京大学
11	39	北 和之	茨城大学
12	38	井出 哲	東京大学
13	38	小口 千明	埼玉大学
14	36	西 弘嗣	東北大学
15	34	倉本 圭	北海道大学
16	32	小口 高	東京大学
16	32	瀧上 豊	関東学園大学
18	31	奥村 晃史	広島大学
19	30	道林 克禎	静岡大学
20	30	中村 昭子	神戸大学
21	30	畠山 正恒	聖光学院中学校高等学校
22	28	佐藤 正樹	東京大学
23	23	小田 啓邦	産業技術総合研究所
24	22	近藤 昭彦	千葉大学
25	18	北村 晃寿	静岡大学
25	18	安成 哲平	北海道大学
27	11	飯田 佑輔	宇宙航空開発機構

理事候補者推薦一覧

氏名	所属機関名	登録区分	立候補時抱負(推薦の場合は推薦文)
田近 英一	東京大学	宇宙惑星科学	地球惑星科学の広報普及活動を通じ、社会からの理解と関心を深めると同時に、次世代の育成につなげることを、これもJpGUの重要な使命の一つです。地球惑星科学コミュニティ全体の発展のため、より一層尽力する所存です。
津田 敏隆	京都大学	大気水圏科学	日本地球惑星科学連合が、国内の関連学協会と共存共栄を図りつつ、欧米・アジア・オセアニア・アフリカの研究コミュニティと連携して国際的視野で地球惑星科学の研究とアウトリーチ活動を推進することに貢献したい。
木村 学	東京海洋大学	固体地球科学	来る2年間は、初めてのAGUとの連携大会を成功させ、日本の地惑コミュニティの国際化を飛躍させる時となります。アジアとの交流も同時に一層進め、未来を切り拓くために全力で臨む所存です。
中村 正人	宇宙航空開発機構	宇宙惑星科学	地球惑星科学は地球科学において生活と自然災害の関連が、惑星科学において国家主義の中でどの様に良いサイエンスをするかが問われています。理事としてこれらの事案に対して発言し、対処し、結果を出していきます。
ウォリス サイモン	名古屋大学	固体地球科学	JpGUの国際戦略の実施と更なる発展に貢献したい。取り分け、JpGUと協定を結んでいる他の学術組織との連携の強化や2017年に予定しているJpGU-AGUジョイントミーティングの成功を重視したい。
原田 尚美	海洋研究開発機構	大気水圏科学	2014-2015年の理事ならびに男女参画委員会(新:ダイバーシティ推進委員会)の役を務め、ようやく運営がわかりかけてきたところです。理事会の多様性を高めるためにも立候補させていただきました。
川幡 穂高	東京大学	地球生命科学	地球惑星科学における世界の一極を担えるOpen Access電子ジャーナルPEPSの確立、特にAGUとのジョイントも含めた年会の充実を通じてこの分野の新しいパラダイムに到達すべく努力したいと思います。
浜野 洋三	海洋研究開発機構	固体地球科学	日本の地球惑星科学コミュニティの活性化に向けて、毎年の活発な連合大会の開催と連合の将来プランを実現できる、堅固な事務局体制を作り上げることに貢献したいと思います。
古村 孝志	東京大学	固体地球科学	総務委員会活動を通して日本地球惑星科学連合の組織を一層強化し、国内関連学協会及び世界コミュニティとの連携の下、地球惑星科学の発展に貢献したい。
日比谷 紀之	東京大学	大気水圏科学	日本海洋学会長としてJpGUとの関係をさらに強化していくとともに、AOGSセッションプレジデントやIAPSO執行委員などの国際経験を活かすことでJpGUのさらなる発展に貢献していきたいと思います。
北 和之	茨城大学	大気水圏科学	これまで連合大会運営および財務を中心に地球惑星科学連合の運営に携わってきました。これから、さらに国際的に活動を広げ、皆さんの研究活動の場として重要となっていく時期にあたり微力を尽くしたいと思います。
井出 哲	東京大学	固体地球科学	井出博士は、低周波地震の機構解明など、世界の地震学・固体地球科学をリードする業績を有するとともに、多くの学生の育成を通じてコミュニティの発展に著しく貢献しており、若手理事として推薦するに相応しい。(推薦者1:木村 学 推薦者2:日比谷 紀之)

小口 千明	埼玉大学	地球人間圏科学	小口千明代議員は、男女共同参画に関する取り組みに力を注ぎ、2012年から2013年まで JpGUの男女共同参画委員会の委員長を務めてこられました。その実績を活かし、理事会運営でも活躍いただける人材であることから推薦いたしました。（推薦者1：高橋 幸弘 推薦者2：原田 尚美）
西 弘嗣	東北大学	地球生命科学	地球惑星科学連合ではAGUとの合同会議など、新しい国際化の活動を推進しています。このような連合のさらなる発展に微力ながら貢献できればと思います。
倉本 圭	北海道大学	宇宙惑星科学	研究教育ネットワークの形成を通じた宇宙惑星科学の展開に貢献したいと思います。
小口 高	東京大学	地球人間圏科学	地形学と地理情報科学の研究者として、日本地形学連合では代議員、GISセッションの開催、連合大会のスペシャルレクチャーなどを担当してきました。次期は理事としても連合に貢献したいと希望しております。
瀧上 豊	関東学園大学	地球惑星科学総合	連合の事業の1つである地学・地理オリンピック関連の教育事業および教育検討委員会委員として次期学習指導要領における地学教育の策定や国際的な地球科学教育の推進に貢献したいと思います。
奥村 晃史	広島大学	地球人間圏科学	地球人口の激増と生活文化の向上により、人間が食料や資源など自然の恵みを断たれるリスクや、自然災害・環境変動が生命や財産を奪うリスクは増し続けている。地球惑星科学の叡智を人類の生存と安全に一層活かしていくため連合を活性化していきたい。
道林 克禎	静岡大学	固体地球科学	JpGUがさらに発展していくために努力します。広報普及担当として、特にJpGU大会における一般セッションを通じたアウトリーチ活動によるJpGUのさらなる認知拡大を目指していきます。
中村 昭子	神戸大学	宇宙惑星科学	JpGUの活動を通じて、地球惑星科学分野の研究活動の新しい拡がりや深化、それを担う次世代の活動の基盤の整備や維持のために微力ながら貢献できればと考えます。

監事候補者推薦一覧(50音順)

北里 洋	東京海洋大学
鈴木 善和	プラタナス法律事務所
氷見山 幸夫	北海道教育大学名誉教授

記載要領： 下表の水色欄(●部分)を記載してください。

No.	3	事業年度	自	27	年	4	月	1	日	法人コード	A003674
			至	28	年	3	月	31	日	法人名	益社団法人日本地球惑星科学連

別表C(5) 特定費用準備資金

別表C(2) 控除対象財産 における 4. 特定費用準備資金の明細となるほか、別表A(1)及びA(2) 収支相償の計算 における公益目的事業に係る特定費用準備資金に関する調整、別表B(5) 公益目的事業比率算定に係る計算表 における特定費用準備資金当期積立額、別表C(1) 遊休財産額の保有制限の判定 における特定費用準備資金の公益実施費用額への算入額の算出に用います。

事業番号	1	特定費用準備資金の名称 (貸借対照表科目名)	地球惑星科学に関わる外国学協会との連携推進のための特定費
将来の特定の活動の名称	地球惑星科学に関わる外国学協会との連携推進のための特定費用準備資金		
当該活動の内容	地球惑星科学に関わる外国学協会との国際会議等の開催		
計画期間(事業年度)	平成 27 年度 ~ 平成 28 年度 (2 年間)		
当該活動の実施予定時期			
積立限度額の算定方法	旅費交通費 28年度 400万 29年度 270万円(50セッション招聘費用) 会議費 250万 (セッション運営費用)		

1. 控除対象財産における特定費用準備資金並びに公益目的事業比率における当期積立額及び取崩額の計算

【計画全体】(経過年度は実測値を記載)

年度	利益の繰入割合※1		積立額	取崩額	特定費用準備資金の額 (累計)	積立限度額
	50%	50%超				
27	●		9,200,000 円		9,200,000 円	円
28			円	6,500,000 円	2,700,000 円	円
			円	2,700,000 円	0 円	円
			円	円	0 円	円
			円	円	0 円	円
			円	円	0 円	円
			円	円	0 円	円
			円	円	0 円	円
			円	円	0 円	円
			円	円	0 円	円

※1 当該年度の収益事業等の利益の繰入割合について、該当欄に「○」を記載してください。

【当年度】(計画全体のうち、当年度分の数字を転記)

年度	積立額	取崩額	特定費用準備資金の額 (累計)	積立限度額
	9,200,000 円	¥0 円	9,200,000 円	9,200,000 円

算出した数値を、各事業別に、それぞれ、別表B(5) V (特定費用準備資金当期積立額)に転記してください。
また、当該特定費用準備資金が、公益目的事業に要する資金である場合、算出した数値を、それぞれ、別表C(1)の特定費用準備資

2. 公益目的事業全体の収支相償における特定費用準備資金の当期積立額及び取崩額の計算

【当該特定費用準備資金が、公益目的事業に係る資金である場合のみ、記載してください。】

【計画全体】(当年度までの数値を記入(将来の数値は記入不要))

年度	収支相償上の 積立限度額	収支相償上の積立額※2	収支相償上の 取崩限度額	収支相償上の取崩額※2	収支相償上の特定費用 準備資金の額(累計)
27	9,200,000 円	9,200,000 円	9200000	0 円	9,200,000 円
28	9,200,000 円	9,200,000 円	6500000	6,500,000 円	6,500,000 円
29	9,200,000 円	9,200,000 円	2700000	2,700,000 円	2,700,000 円
	円	円		円	0 円
	円	円		円	0 円
	円	円		円	0 円
	円	円		円	0 円
	円	円		円	0 円

	円		円		円	0 円
	円		円		円	0 円

※2 収支相償上の積立額は、収支相償上の積立限度額の範囲内で記載してください。

【当年度】（計画全体のうち、当年度分の数値を記入（将来の数値は記入不要））

年度	収支相償上の 積立限度額	収支相償上の積立額 ^{※2}	収支相償上の 取崩限度額	収支相償上の取崩額 ^{※2}	収支相償上の特定費用 準備資金の額（累計）
	円	9,200,000 円		0 円	9,200,000 円

収益事業等の利益の50%を公益目的事業財産に繰り入れる場合には、算出した数値を、別表 A (1)（収益事業等の利益額の50%を繰り入れる場合）の公益目的事業に係る特定費用準備資金に関する調整(10欄)に算入してください。
 収益事業等の利益の50%超を公益目的事業財産に繰り入れる場合には、算出した数値を、別表 A (2)（収益事業等の利益額を50%を

記載要領： 下表の水色欄(●部分)を記載してください。

No.	3	事業年度	自	27	年	4	月	1	日	法人コード	A003674
			至	28	年	3	月	31	日	法人名	益社団法人日本地球惑星科学連

別表C(5) 特定費用準備資金

別表C(2) 控除対象財産における4. 特定費用準備資金の明細となるほか、別表A(1)及びA(2) 収支相償の計算における公益目的事業に係る特定費用準備資金に関する調整、別表B(5) 公益目的事業比率算定に係る計算表における特定費用準備資金当期積立額、別表C(1) 遊休財産額の保有制限の判定における特定費用準備資金の公益実施費用額への算入額の算出に用います。

事業番号		特定費用準備資金の名称 (貸借対照表科目名)	地球惑星科学振興西田賞 準備資金
将来の特定の活動の名称	地球惑星科学振興西田賞		
当該活動の内容			
計画期間(事業年度)	平成 27 年度	～	平成 44 年度 (18 年間)
当該活動の実施予定時期	2年に一回 連合大会にて表彰・賞金授与		
積立限度額の算定方法	賞金 2年に一回500万円		

1. 控除対象財産における特定費用準備資金並びに公益目的事業比率における当期積立額及び取崩額の計算

【計画全体】(経過年度は実測値を記載)

年度	利益の繰入割合※1		積立額	取崩額	特定費用準備資金の額 (累計)	積立限度額
	50%	50%超				
27	●		5,000,000 円		5,000,000 円	45,000,000 円
28	●		5,000,000 円	5,000,000 円	5,000,000 円	45,000,000 円
29	●		5,000,000 円	0 円	10,000,000 円	45,000,000 円
30	●		5,000,000 円	5,000,000 円	10,000,000 円	45,000,000 円
31	●		5,000,000 円		15,000,000 円	45,000,000 円
32	●		5,000,000 円	5,000,000 円	15,000,000 円	45,000,000 円
33	●		5,000,000 円		20,000,000 円	45,000,000 円
34	●		5,000,000 円	5,000,000 円	20,000,000 円	45,000,000 円
35	●		5,000,000 円		25,000,000 円	45,000,000 円
36	●			5,000,000 円	20,000,000 円	45,000,000 円
38	●			5,000,000 円	15,000,000 円	45,000,000 円
40	●			5,000,000 円	10,000,000 円	45,000,000 円
42				5,000,000 円	5,000,000 円	45,000,000 円
44	●			5,000,000 円	0 円	45,000,000 円
					0 円	円

【当年度】(計画全体のうち、当年度分の数字を転記)

年度	積立額	取崩額	特定費用準備資金の額 (累計)	積立限度額
27	5,000,000 円	¥0 円	5,000,000 円	5,000,000 円

算出した数値を、各事業別に、それぞれ、別表B(5) V (特定費用準備資金当期積立額)に転記してください。
また、当該特定費用準備資金が、公益目的事業に要する資金である場合、算出した数値を、それぞれ、別表C(1)の特定費用準備資

2. 公益目的事業全体の収支相償における特定費用準備資金の当期積立額及び取崩額の計算

【当該特定費用準備資金が、公益目的事業に係る資金である場合のみ、記載してください。】

【計画全体】(当年度までの数値を記入(将来の数値は記入不要))

年度	収支相償上の 積立限度額	収支相償上の積立額※2	収支相償上の 取崩限度額	収支相償上の取崩額※2	収支相償上の特定費用 準備資金の額(累計)
27	5,000,000 円	5,000,000 円	5000000 円	0 円	5,000,000 円
28	5,000,000 円	5,000,000 円		5,000,000 円	5,000,000 円
29	10,000,000 円	5,000,000 円		円	5,000,000 円

30	10,000,000 円	5,000,000 円		5,000,000 円	5,000,000 円
31	15,000,000 円	5,000,000 円		円	5,000,000 円
32	15,000,000 円	5,000,000 円		5,000,000 円	5,000,000 円
33	20,000,000 円	5,000,000 円		円	5,000,000 円
34	20,000,000 円	5,000,000 円		5,000,000 円	5,000,000 円
35	25,000,000 円	5,000,000 円		円	0 円
36	20,000,000 円	円		5,000,000 円	0 円
38	15,000,000 円	円		円	0 円
40	10,000,000 円	円		5,000,000 円	0 円
42	50,000,000 円	円		円	0 円
44	0 円	円		5,000,000 円	0 円
	円	円		円	0 円
	円	円		円	0 円

※2 収支相償上の積立額は、収支相償上の積立限度額の範囲内で記載してください。

【当年度】（計画全体のうち、当年度分の数値を記入（将来の数値は記入不要））

年度	収支相償上の積立限度額	収支相償上の積立額※2	収支相償上の取崩限度額	収支相償上の取崩額※2	収支相償上の特定費用準備資金の額（累計）
27	5,000,000 円	5,000,000 円	5000000	0 円	5,000,000 円

収益事業等の利益の50%を公益目的事業財産に繰り入れる場合には、算出した数値を、別表A(1)（収益事業等の利益額の50%を繰り入れる場合）の公益目的事業に係る特定費用準備資金に関する調整(10欄)に算入してください。

収益事業等の利益の50%超を公益目的事業財産に繰り入れる場合には、算出した数値を、別表A(2)（収益事業等の利益額を50%を

正味財産増減計算書（除く科研費有り）

平成27年4月1日から平成28年3月31日

公益目的事業会計			(単位 円)		
科 目	予算額 (科研費除く)	決算額 (科研費除く)	予算対比増減	科研費	決算額
一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	1,250	1,250	0		1,250
基本財産受取利息	1,250	1,250	0		1,250
特定資産運用益	3,000	3,500	-500		3,500
特定資産受取利息	3,000	3,500	-500		3,500
受取会費	11,000,000	13,160,000	-2,160,000		13,160,000
当年度会費	11,000,000	13,160,000	-2,160,000		13,160,000
事業収益	102,445,200	103,923,270	-1,478,070		103,923,270
学術大会収益	102,295,200	103,415,770	-1,120,570		103,415,770
大会参加料収入	65,050,000	65,316,000	-266,000		65,316,000
投稿料収入	14,300,000	14,354,000	-54,000		14,354,000
団体展示料収入	18,300,000	18,300,000	0		18,300,000
大学インフォメーション収入	770,000	770,000	0		770,000
書籍展示収入	1,200,000	1,160,000	40,000		1,160,000
パンフレットデスク収入	40,000	70,000	-30,000		70,000
会議室使用料収入	1,744,000	1,941,750	-197,750		1,941,750
懇親会収入	291,200	505,920	-214,720		505,920
学協会出展料	300,000	300,000	0		300,000
日本ジオパーク	50,000	50,000	0		50,000
その他	250,000	648,100	-398,100		648,100
刊行事業収益	150,000	507,500	-357,500		507,500
JGL広告収入	150,000	507,500	-357,500		507,500
受取補助金	200,000	600,000	-400,000	34,638,260	35,238,260
千葉国際コンベンションビューロー		600,000	-600,000		600,000
27年度科学研究費補助金		0	0	34,638,260	34,638,260
受取寄付金	0	747,000	-747,000		747,000
地球惑星科学振興西田賞	0	0	0		0
会員寄付		747,000	-747,000		747,000
雑収益	5,000	108,399	-103,399		108,399
受取利息	5,000	15,368	-10,368		15,368
その他		93,031	-93,031		93,031
経常収益計	113,654,450	118,543,419	-4,888,969	34,638,260	153,181,679
25周年記念事業資金	3,000,000	3,000,000	0		
国際化推進資金	2,800,000	2,800,000	0		
準備資金加算後 経常収益合計	119,454,450	124,343,419	-4,888,969	34,638,260	153,181,679
(2) 経常費用					
事業費	109,927,870	106,545,463	3,382,407	34,638,260	141,183,723
給料手当	14,137,870	16,107,257	-1,969,387	7,724,673	23,831,930
法定福利費	1,600,000	1,539,431	60,569	990,303	2,529,734
臨時雇用賃金	4,624,000	4,833,551	-209,551	0	4,833,551
ホームページ作成	400,000	400,000	0	0	400,000
その他アルバイト	4,224,000	4,433,551	-209,551	0	4,433,551
会議費	3,003,000	3,326,410	-323,410	253,175	3,579,585
旅費交通費	13,369,500	7,727,309	5,642,191	6,685,837	14,413,146
通勤費	660,000	843,177	-183,177	608,720	1,451,897
交通費	12,709,500	6,884,132	5,825,368	6,077,117	12,961,249
通信運搬費	2,970,400	2,477,352	493,048	0	2,477,352
減価償却費	3,000,000	2,763,898	236,102	838,260	3,602,158
消耗什器備品	100,000	170,046	-70,046	0	170,046
消耗品	2,746,500	1,937,428	809,072	1,966,921	3,904,349
修繕費		1,693,440	-1,693,440		1,693,440
印刷製本費	8,830,400	7,788,805	1,041,595	4,573,617	12,362,422
プログラム編集費	638,000	637,200	800		637,200
プログラム印刷製本費	2,100,000	2,160,108	-60,108		2,160,108
ポスター印刷費	121,000	97,530	23,470		97,530
JGL印刷費	3,773,520	4,294,080	-520,560		4,294,080
ジャーナル印刷費	0	0	0	4,573,617	4,573,617
その他	2,197,880	599,887	1,597,993		599,887
図書費		0	0		
出展費	1,100,000	666,342	433,658		666,342
賃借料	33,700,600	29,992,458	3,708,142	997,920	30,990,378
事務所賃借料	2,426,500	2,631,708	-205,208	997,920	3,629,628
事務機賃借料	174,000	220,684	-46,684		220,684
会場賃借料	19,728,800	19,995,638	-266,838		19,995,638
設備機材賃借料	11,101,300	7,030,878	4,070,422		7,030,878
その他	270,000	113,550	156,450		113,550
設営費	2,810,000	3,352,541	-542,541		3,352,541
諸謝金	110,000	23,333	86,667	1,451,115	1,474,448
租税公課	2,330,000	2,792,600	-462,600		2,792,600
支払手数料	3,464,600	4,129,196	-664,596		4,129,196
支払賛助金	825,000	3,360,000	-2,535,000		3,360,000
委託費	10,478,000	11,094,848	-616,848	4,632,288	15,727,136
システム関係	6,270,000	10,308,600	-4,038,600		10,308,600
その他	4,208,000	786,248	3,421,752	4,632,288	5,418,536
保守費		0	0		
雑費	195,000	322,558	-127,558		322,558
保険料	33,000	29,780	3,220		29,780
広告宣伝費	500,000	416,880	83,120	4,524,151	4,941,031
管 理 費	9,534,380	8,499,201	1,035,179		8,499,201
給料手当	4,920,000	3,515,315	1,404,685		3,515,315
法定福利費	300,000	0	300,000		0
会議費	0	3,720	-3,720		3,720
旅費交通費	1,280,000	1,823,454	-543,454		1,823,454
通勤費	280,000	225,961	54,039		225,961
交通費	1,000,000	1,597,493	-597,493		1,597,493
通信運搬費	137,500	124,530	12,970		124,530
消耗什器備品	50,000	14,687	35,313		14,687
消耗品費	280,500	170,186	110,314		170,186
修繕費	12,000	158,220	-146,220		158,220
賃借料	1,020,300	765,546	254,754		765,546
事務所賃借料	919,300	678,576	240,724		678,576
事務機賃借料	66,000	86,970	-20,970		86,970
その他	35,000	0	35,000		0
諸謝金	1,188,000	1,155,600	32,400		1,155,600
租税公課	106,000	106,300	-300		106,300
支払手数料	170,000	561,984	-391,984		561,984
雑費	70,000	99,659	-29,659		99,659
経常費用計	119,462,250	115,044,664	4,417,586	34,638,260	149,682,924
当期経常増減額	-5,807,800	9,298,755		0	3,498,755
一般正味財産増減額	-5,807,800				
一般正味財産期首残高	86,727,068				
一般正味財産期末残高	70,351,998				
Ⅱ 指定正味財産増減の部					
受取補助金	33,800,000				
受取寄付金(西田賞)	5,000,000				
特定資産運用益	0				
一般正味財産への振替額	34,638,260				
当期指定正味財産増減額	-838,260				
指定正味財産期首残高	3,981,736				
指定正味財産期末残高	3,143,476				
Ⅲ 正味財産期末残高	73,495,474				